

2016

履修要綱

経済学部

目 次

学部の教育方針	2
入学年度別教育課程表①～⑳	5
履修の手引	31
1. セメスター制	33
2. 単 位 制	33
3. 最高履修単位数	33
4. 3学年進級に必要な単位数	34
5. 卒 業	34
6. 科目の履修	35
7. 単位の修得	35
8. 休講と補講	36
9. 出席調査	36
10. 災害時の授業	36
11. 試 験	36
12. 不正行為	37
13. 成績評価	37
14. G P A	38
15. 単位の認定	39
16. 他キャンパス受講	41
17. キャンパス変更（スポーツ健康科学部は除く）	41
18. 履修の方法【2016年度の入学生】	42
19. 履修の方法【2013年度～2015年度の入学生】	50
20. 履修の方法【2008年度～2012年度の入学生】	58
21. 卒業に必要な総単位数	64
22. 資格の取得について	66
23. 履修計画と履修モデル【2013年度～2016年度の入学生】	68
24. 履修計画と履修モデル【2012年度以前の入学生】	74

経済学部 of 教育方針

経済学部では、経済学や経営学の専門知識を基礎に、広い国際的視野と的確な情報処理能力をそなえた教養ある人材の養成を目的とする（流通経済大学学則 4 条の 2）。

教育理念

21 世紀をむかえ、政治、経済、文化活動は、これまで以上に世界的な規模になっています。コンピュータの発達など、情報通信分野の急速な技術革新は、大量の情報を収集、処理し、それにもとづいて判断を下すことを私たちに求めています。国際化、情報化の時代に生きる私たちには、国際的視野と情報処理能力を備えた判断力を身につけることが必要とされています。

流通経済大学経済学部では、このような現代社会の要望に応じて、経済学や経営学の専門知識を基礎に、広い国際的視野と的確な情報処理能力をそなえた「教養ある実業人」を育成し、社会に送り出すことを教育理念としています。みなさんには、課題を確実に遂行できる力を身につけ、社会の各分野で信頼される人物になってほしいと考えています。

この「教養ある実業人の育成」という教育目標は、健全な企業人としても、教養豊かな市民としても、社会に貢献できる人物を育成するという本学の建学の精神にもとづいています。こうした教育理念の下、経済学部では、次のような教育方針を立てています。

教育方針

21 世紀に通用する実業人とは、企業人とどまらず、社会の発展と福祉に貢献する社会人、教養人を意味します。経済学部では、幅広い教養を身につけるとともに、経済学および経営学の基本的な理論と、実践に結びついた専門的な理論を学ぶことのできる学習環境・プログラムを用意しています。経済、経営、物流といった専門領域の研究を深めるための科目、国際的な視野を養う多様な外国語科目、そして幅広い教養を身につけるための人文・社会・自然科学の各分野の科目、コンピュータ関連科目など、数多くの科目を設置しています。

また、本学の開学以来の一貫した教育方針として、全員ゼミナールの実施があります。経済学部では、少人数クラスのゼミで、みずから調べ、書き、検討し、報告することによって、自分の頭で判断し、自分の考えを明快に主張できる人材を育てることをめざしています。教員によるきめ細かな指導によって、教養ある実業人として必要な能力、たとえば、専門書を読む力、報告書を作成する力、コンピュータを使って情報を処理する力、自分の意見をわかりやすく発表する力などを身につけます。経済学部では、経済学科と経営学科がそれぞれの学科の特性を生かして、カリキュラムを次のように設定しています。

経済学科の教育方針

教育目的（流通経済大学・学則・第 4 条の 2）

経済学科では、経済・社会情勢を的確に見極めるための基礎知識を持ち、実践の場においてこれを応用できる人材の養成を目的とする。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

経済学科は、学部の教育目的の下、「経済・社会情勢を的確に見極めるための基礎知識を持ち、実践の場においてこれを応用できる人材を養成」することを目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与する。

1. 経済学の理論と現実の経済をバランスよく学習し、それにもとづいて課題に対応していく知識や能力、態度

2. 自分で考え、周囲の人とコミュニケーションを図りながら、問題を解決していく知識や能力、態度
3. 豊かな教養と社会の規範を身につけ、健全で充実した社会活動を行う知識や能力、態度

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

経済学科では、ディプロマポリシーにおいて規定されている学位授与の要件である3つの能力を持つ人材を効果的に育成できるよう、育成したい能力に対応した、以下のようなカリキュラムを編成し、必要な科目を提供する。

1. 標準的な経済学教育の体系に沿って、基礎から専門まで一貫して学修できる積上げ型のカリキュラムに対応した専門基礎科目を設置する。
 - i) 体系的な経済学の知識を学修する導入として、経済学の基礎理論と現実の経済現象に触れ、経済活動の本質に対する興味を喚起する必修科目を1学年に配置する。
 - ii) 経済学の専門的知識を学ぶために必須となる、共通の知的基盤を形成するための科目を配置する。
 - iii) 経済学の諸分野における専門知識を学修する、専門基礎科目を配置する。「産業と労働」「金融と情報」「公共と福祉」「地域と世界」の4つの学修領域を設定する。それぞれの領域において、多様な経済現象を段階的に理解できるよう、コアとなる科目を2学年より配置する。
2. 標準的な経済学と密接に関連する、経営学、流通情報学、法学等の領域における発展的な専門知識を学修する、専門発展科目を配置する。
 - i) 発展的分野における共通の知的基盤となる知識を修得する科目を配置する。
 - ii) 発展的な分野に触れながら、ビジネスにおけるコミュニケーション能力を高めるための科目を配置する。
 - iii) 発展的な分野における専門的知識を学修する科目を配置する。
3. 社会規範に沿った充実した生活を送るうえで必要となる豊かな教養と、人生における健全な知的基盤を形成するための生涯学習につながる科目を配置する。
 - i) 人文科学、社会科学、自然科学に対する理解を深める一般教養科目を配置する。
 - ii) 国際化社会において必須となる外国語によるコミュニケーション能力を学修する外国語科目を配置する。
 - iii) 生涯学習のための基礎的知識と、自己実現に向けた能動的な姿勢を育成するキャリア関連科目を配置する。
 - iv) 社会人として必要な幅広い視野を身に付ける、経済学に関連の深い他学部・他学科の科目を配置する。
 - v) コミュニケーション能力および課題発見・解決能力を育成するため、1学年から4学年まで演習を配置する。

経営学科の教育方針

教育目的（流通経済大学・学則・第4条の2）

経営学科では、経営学全般の基礎的理論の修得をはかり、さらに実践的教育をほどこすことを通して現場の多様な課題に対応できるスペシャリストの養成を目的とする。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

経営学科は、学部の教育目的の下、産業がグローバル化する時代に通用する「起業およびマネジメントの実践ができる人材」を育成することを目指しており、学修計画と履修モデルにもとづき、所定の単位を修得し、以下のようなビジネスマネージャーに求められることになる知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与する。

1. 新しい商品やサービスのイノベーション特性を抽出できる。
2. 営利または非営利の組織の一員として専門知識を適用し職務が遂行できる。
3. 多様な職種や価値観をもつ顧客や役割の同僚と協働できる。
4. 起業やマーケティングや会計などの経営系専門職に従事できる。
5. グローバルビジネスに求められる英語プレゼンテーションができる。
6. 経営計画、商品開発や経営分析において自主的に取り組める。
7. 企業人として成果を追求しながら、社会人として継続的に学習できる。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

経営学科では、産業界が求めているグローバル人材を育成するために、教養のある人材であること、専門知識を英語で学んでいること、現役の経営幹部・実務者からビジネスの実態を学んでいることに対応したカリキュラム編成を基本とする。

そのうえで、本学の基本教育方針である全員ゼミ制度を発展させ、専門知識と教養を備えた応用力が発揮できるように、専門学修と教養学修を統合した4年間を一貫する演習（ゼミ）を開講する。

個々の学生と教員の間で、各自の目標を確実に実現すべく、学修方針や履修計画を立案できるようにする。

卒業研究では、下級生への報告会や指導演習を通して、グローバル時代に求められる集団適応力と自律した思考や行動を修得できるようにする。

4年間を一貫する演習（ゼミ）を中心に各科目を配置し、カリキュラムを系統化する。

専門科目として、学生の将来計画に対応すべく、起業やマネジメントに関する科目群、マーケティングや流通に関する科目群、会計やファイナンスに関する科目群を開講する。

以下、具体的な開講科目は次の通りである。

1. 日常生活にかかわる商品・サービスを事例に実践的に経営の全体像を修得する科目を開講する。
2. 企業の実態に経営学の専門知識を適用し探求する科目を開講する。
3. 教養性と専門性ならびに倫理を総合的に学修する科目を開講する。
4. 専門3科目群の中に専門的知識を深める科目を開講する。
5. グローバル企業に求められる専門知識を英語で学ぶ科目を開講する。
6. 能動的学修や批判的思考を促進するための実習や演習が伴う科目を開講する。
7. 自立する企業人への準備として、研究成果などを発表し、審査を受ける科目を開講する。
8. 生涯にわたって学習が継続できる教養科目を開講する。

入学年度別教育課程表

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	
必修科目	1 年 演 習 (ゼミ)	4	2 年 演 習 (ゼミ)	4	3 年 演 習 (ゼミ)	4	4 年 演 習 (ゼミ)	4	16単位 6単位 8単位 必修科目 30単位を履修しなければならない。
	情 報 基 礎 I・II	各2	リベラルアーツ入門	2					
	基礎ミクロ経済学 基礎マクロ経済学 現代経済入門I・II	各2							
外国語 (注1)	英 語 A I・A II 英 語 B I・B II	各1	英 語 C I・C II 英 語 D I・D II 英 語 E I・E II	各1					1カ国語を 選択し、10 単位を履修 しなければならない。
	ドイ ツ 語 A I・A II ドイ ツ 語 B I・B II		ドイ ツ 語 C I・C II ドイ ツ 語 D I・D II ドイ ツ 語 E I・E II						
	フ ラ ン ス 語 A I・A II フ ラ ン ス 語 B I・B II		フ ラ ン ス 語 C I・C II フ ラ ン ス 語 D I・D II フ ラ ン ス 語 E I・E II						
	中 国 語 A I・A II 中 国 語 B I・B II		中 国 語 C I・C II 中 国 語 D I・D II 中 国 語 E I・E II						
	ス ペ イ ン 語 A I・A II ス ペ イ ン 語 B I・B II		ス ペ イ ン 語 C I・C II ス ペ イ ン 語 D I・D II ス ペ イ ン 語 E I・E II						
	朝 鮮 (韓 国) 語 A I・A II 朝 鮮 (韓 国) 語 B I・B II		朝 鮮 (韓 国) 語 C I・C II 朝 鮮 (韓 国) 語 D I・D II 朝 鮮 (韓 国) 語 E I・E II						
	ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 A I・A II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 B I・B II		ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 C I・C II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 D I・D II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 E I・E II						
	(外)日 本 語 A I・A II (外)日 本 語 B I・B II		(外)日 本 語 C I・C II (外)日 本 語 D I・D II (外)日 本 語 E I・E II						
選 択 必 修 科 目	R K U 入 門	1	R K U 実 践					1	6単位 以上
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン		キ ャ リ ア マ ネ ジ ム ン ト	各2					
			キ ャ リ ア カ ウ ン セ リ ン グ					2	
					(外)ビ ジ ネ ス 日 本 語 I・II			各1	
	海 外 研 修							2	
		(別記1)						各1	
	資 格 取 得	(別記2)						各2	
		(別記3)						各4	
	(特)キ ャ リ ア 特 講 (基 礎)	2	(特)キ ャ リ ア 特 講 (発 展)	2	(特)キ ャ リ ア 特 講 (職 業)	2			
	(特)グ ロー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (基 礎)	1	(特)グ ロー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (発 展)	1					
社 会 ・ 企 業 研 究	災 害 ボ ラ ン テ ィ ア I・II							各1	
			日 本 通 運 寄 付 講 座 業 界 研 究 特 別 講 座		全 国 通 運 連 盟 寄 付 講 座 ダ イ レ ク ト マ ー ケ テ ィ ン グ 実 践 講 座		野 村 證 券 寄 付 講 座	各2	
			イ ン タ ー ン シ ッ プ 基 礎		イ ン タ ー ン シ ッ プ			各2	
イ ン タ ー ン シ ッ プ (海 外)							2		
学 科 選 定		情 報 シ ス テ ム 実 践 講 座 国 際 物 流 実 践 講 座		ロ ジ ス テ ィ ク ス 実 践 講 座 I・II 物 流 マ ネ ジ ム ン ト 実 践 講 座				各2	
進 路 支 援	キ ャ リ ア 基 礎 (数 理) キ ャ リ ア 基 礎 (言 語) キ ャ リ ア 発 展 (数 理) キ ャ リ ア 発 展 (言 語)		各1		職 業 選 択 論			2	
教 養 基 礎 科 目	言 葉 や 思 想 関 する 領 域	哲 学 I・II 言 語 論 I・II (外) 日 本 の 思 想	論 理 学 I・II 現 代 文 章 論 I・II	教 育 学 I・II イ ス ラ ム 学 I・II	心 理 学 I・II 宗 教 学 I・II			各2	24単位 以上
	社 会 や 健 康 関 する 領 域	社 会 学 I・II 生 涯 ス ポ ー ツ の 理 論 と 実 技 外 国 文 化 論 (西 欧) I・II	人 文 地 理 学 I・II ス ポ ー ツ 科 学 I・II (外) 日 本 の 現 在	法 学 I・II 日 本 文 化 論 I・II (外) 日 本 事 情	健 康 科 学 論 I・II 外 国 文 化 論 (ア ジ ア) I・II				
	自 然 や 環 境 関 する 領 域	数 学 I・II 生 命 科 学 I・II	地 球 科 学 I・II 自 然 地 理 学 I・II	自 然 環 境 論 I・II 生 態 学 I・II	物 質 科 学 I・II				
	歴 史 や 文 学 関 する 領 域	文 学 (日 本 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (西 洋 史) I・II	文 学 (外 国 文 学) I・II 民 俗 学 I・II	歴 史 学 入 門 (日 本 史) I・II 考 古 学 I・II	歴 史 学 入 門 (東 洋 史) I・II 美 術 史 I・II				
専 門 基 礎 科 目	統 計 学 概 論 I・II	各2	ミ ク ロ 経 済 学 I・II	産 業 組 織 論 I・II	経 済 政 策 論 I・II			各2	32単位 以上
	経 済 学 史 I・II		マ ク ロ 経 済 学 I・II	地 域 経 済 論 I・II	食 料 ・ 農 業 経 済 学 I・II				
	経 済 地 理 学 I・II		日 本 経 済 論 I・II	交 通 論 I・II	計 量 経 済 学 I・II				
	資 本 主 義 経 済 論 I・II		国 際 経 済 論 I・II	情 報 経 済 論 I・II	公 共 経 済 論 I・II				
	日 本 経 済 史 I・II		労 働 経 済 論 I・II	社 会 保 障 論 I・II					
	西 洋 経 済 史 I・II		金 融 論 I・II	経 済 発 展 論 I・II					
環 境 経 済 論 I・II	財 政 学 I・II	地 方 財 政 論 I・II							

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要		
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数			
選 択 必 修 科 目	専 門 発 展 科 目	ビジネスデータベース演習 ソーシャルメディア演習	各2	グローバルビジネス英語A グローバルビジネス英語B グローバルビジネス英語C グローバルビジネス英語D 会 計 学 I・II 財 務 会 計 論 I・II 経 済 デ ー タ 演 習 経 営 デ ー タ 演 習	各2	企 業 論 I・II 廣 告 論 I・II 国 際 金 融 論 I・II 証 券 市 場 論 行 政 法 I・II ビ ジ ネ ス プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン I・II	各2	消 費 者 行 動 論 I・II リ ス ク マ ネ ジ ム ン ト I・II ベ ン チ ャ ー フ ァ イ ナ ン ス 国 際 関 係 論 I・II 経 済 学 特 殊 講 義 金 融 取 引 法	8単位以上		
選 択 科 目	学 部 共 通 科 目	経 営 学 (注3)	各2	流 通 論 I・II E ビ ジ ネ ス 論 I・II 事 業 創 造 論 I・II 人 的 資 源 管 理 論 I・II 事 業 戦 略 論	各2	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I・II 原 価 計 算 論 I・II 流 通 政 策 論 I・II 経 営 情 報 論 I・II 経 営 財 務 論 I・II 組 織 戦 略 論	各2	経 営 情 報 シ ス テ ム 論 ネ ッ ト ワ ー ク 経 営 論 上 級 簿 記 論 I・II 監 査 論 I・II 国 際 小 売 論	左記科目の中から84単位以上を履修しなければならない。(注2)		
		流 通 情 報 学 (注4)	各2	グ ロー ブ ル ロ ジ ス テ ィ ク ス 論 I・II ロ ジ ス テ ィ ク ス シ ス テ ム 論 I・II ロ ジ ス テ ィ ク ス ビ ジ ネ ス 論 I・II	各2	通 信 ・ ネ ッ ト ワ ー ク 概 論 情 報 応 用 シ ス テ ム 論 ソ フ ト ウ ェ ア 概 論 I・II 情 報 科 学 I・II	各2	ヒ ュ マ ン イン タ ー フ ェ イ ス 論 エ ル ゴ ノ ミ ク ス 論 流 通 情 報 シ ス テ ム 論 I・II 災 害 ロ ジ ス テ ィ ク ス 論			
		社 会 学 (注5)	各2	社 会 調 査 法 社 会 調 査 実 践 法	各2	家 族 社 会 学 I・II 地 域 社 会 学 論 地 域 空 間 論 文 化 人 類 学 I・II 児 童 ・ 家 庭 福 祉 論 老 人 福 祉 論 人 的 資 源 管 理 論 I・II 経 済 社 会 学	各2	開 発 社 会 学 閑 余 暇 社 会 学 観 光 心 理 学 文 化 人 類 学 グ ロー ブ ル 化 と 文 化 社 会 福 祉 原 論 I・II 障 害 者 福 祉 論 産 業 社 会 学		各2	国 際 社 会 学 社 会 心 理 学 対 人 関 係 論 地 域 福 祉 論 I・II 介 護 福 祉 論 福 祉 行 政 財 政 福 祉 計 画 論 防 災 社 会 学
		法 学 (注6)	各2	政 治 学 I・II	各2	憲 法 I・II 経 済 法 I・II 刑 法 (総 論) I・II	各2	労 働 法 I・II 国 際 法 I・II		各2	商 法 (会 社 法) I・II 法 制 史 I・II
		ス ポ ー ツ 健 康 科 学 (注7)	各2	ス ポ ー ツ と 政 治 ス ポ ー ツ マ ネ ジ ム ン ト 論 ス ポ ー ツ と メ デ ィ ア ス ポ ー ツ 心 理 学 コ ー チ ン グ 論	各2	ス ポ ー ツ と 国 際 協 力 ス ポ ー ツ 社 会 学 発 育 発 達 老 化 の 理 論 ・ 実 習 体 力 ト レ ー ニ ン グ 論	各2	ス ポ ー ツ と 法 ス ポ ー ツ と 文 化 ス ポ ー ツ 栄 養 学 I ス ポ ー ツ 外 傷 ・ 障 害 と 予 防 健 康 づ くり と ジ ョ ギ ン グ		各2	
	教 養 発 展 科 目	社 会 倫 理 学 I・II 現 代 女 性 論 I・II	各2	防 災 科 学 I・II メ デ ィ ア 論 I・II	各2	資 源 環 境 論 I・II	各2				
		英 会 話 A I・A II	各1	英 会 話 C I・C II	各1	英 書 講 読 I・II 英 会 話 E I・E II	各1				
		留 学 英 会 話 I・II (注8) 留 学 中 国 語 会 話 I・II (注8)	各1		各1		各1				
		選 択 英 語 初 級 I・II 選 択 ス ペ イ ン 語 初 級 I・II	各1	選 択 ド イ ツ 語 初 級 I・II 選 択 朝 鮮 (韓 国) 語 初 級 I・II	各1	選 択 フ ラ ン ス 語 初 級 I・II 選 択 ポ ル ト ガ ル 語 ・ フ ラ ン ツ 語 初 級 I・II	各1	選 択 中 国 語 初 級 I・II			
			各1	選 択 英 語 中 級 I・II 選 択 中 国 語 中 級 I・II 選 択 ポ ル ト ガ ル 語 ・ フ ラ ン ツ 語 中 級 I・II	各1	選 択 ド イ ツ 語 中 級 I・II 選 択 ス ペ イ ン 語 中 級 I・II	各1	選 択 フ ラ ン ス 語 中 級 I・II 選 択 朝 鮮 (韓 国) 語 中 級 I・II			
		各1	選 択 英 語 上 級 I・II 選 択 ド イ ツ 語 上 級 I・II 選 択 中 国 語 上 級 I・II 選 択 朝 鮮 (韓 国) 語 上 級 I・II	各1	選 択 フ ラ ン ス 語 上 級 I・II 選 択 ス ペ イ ン 語 上 級 I・II 選 択 ポ ル ト ガ ル 語 ・ フ ラ ン ツ 語 上 級 I・II	各1					
体 育	各1	選 択 ス ポ ー ツ ト レ ー ニ ン グ 実 技 I・II	各1		各1						
教 職 科 目	各2	教 師 論 教 育 原 理 学 教 育 心 理 学 教 育 社 会 学 概 論	各2	教 育 課 程 論 特 別 活 動 論 生 徒 指 導 論 教 育 相 談 論 道 徳 教 育 論	各2	視 聴 覚 教 育 学 教 育 方 法 学	各2				
卒業に必要な単位									124単位以上		

- (外) は外国人留学生の科目を示す。
 (特) 印の科目は特別奨学生等の指定科目でそれ以外の学生は受講できません。
 (注1) 1 学年、2 学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1 学年で (外) 日本語 AI・AII、(外) 日本語 BI・BII、2 学年で (外) 日本語 CI・CII、(外) 日本語 DI・DII、(外) 日本語 EI・EII を履修しなければならない。
 (注2) この欄の単位数を合計すると、6 単位以上 + 24 単位以上 + 40 単位以上 = 70 単位以上となり、84 単位以上にはならない。不足分の 14 単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
 (注3) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
 (注4) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
 (注5) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
 (注6) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
 (注7) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。
 (注8) 外国人留学生は「留学英会話 I・II」及び「留学中国語会話 I・II」を履修できない。

	ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記1	10	1 単位	秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) 漢字検定準2級 ドットコムマスター-BASIC
別記2	20	2 単位	宅地建物取引士 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定(マイクロ・マクロ)Aランク ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 漢字検定2級 医療事務技能審査試験 ドットコムマスター-シングルスター
別記3	40	4 単位	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上)

		1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要																							
		授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数																								
必修科目		1 年 演 習 (ゼミ)	4	2 年 演 習 (ゼミ)	4	3 年 演 習 (ゼミ)	4	4 年 演 習 (ゼミ)	4	16単位	必修科目を履修しなければならない。																						
		卒 業 研 究						卒 業 研 究	2	2単位																							
		経 営 入 門	2									6単位																					
		経 営 学 総 論 I・II	各2									6単位																					
		情 報 基 礎 I・II	各2	リベラルアーツ入門	2					6単位																							
外国語 (注1)		英 語 A I・A II 英 語 B I・B II	各1	英 語 C I・C II 英 語 D I・D II 英 語 E I・E II	各1	ド イ ツ 語 C I・C II ド イ ツ 語 D I・D II ド イ ツ 語 E I・E II	各1	ド イ ツ 語 A I・A II ド イ ツ 語 B I・B II	各1	フ ラ ン ス 語 C I・C II フ ラ ン ス 語 D I・D II フ ラ ン ス 語 E I・E II	各1	フ ラ ン ス 語 A I・A II フ ラ ン ス 語 B I・B II	各1	中 国 語 C I・C II 中 国 語 D I・D II 中 国 語 E I・E II	各1	中 国 語 A I・A II 中 国 語 B I・B II	各1	ス ペ イ ン 語 C I・C II ス ペ イ ン 語 D I・D II ス ペ イ ン 語 E I・E II	各1	ス ペ イ ン 語 A I・A II ス ペ イ ン 語 B I・B II	各1	朝 鮮 (韓 国) 語 C I・C II 朝 鮮 (韓 国) 語 D I・D II 朝 鮮 (韓 国) 語 E I・E II	各1	朝 鮮 (韓 国) 語 A I・A II 朝 鮮 (韓 国) 語 B I・B II	各1	ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 C I・C II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 D I・D II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 E I・E II	各1	ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 A I・A II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 B I・B II	各1	(外) 日 本 語 C I・C II (外) 日 本 語 D I・D II (外) 日 本 語 E I・E II	各1	(外) 日 本 語 A I・A II (外) 日 本 語 B I・B II	各1
	選 択 必 修 科 目	キャリア形成		R K U 入 門		1		R K U 実 践												1		6単位以上		1カ国語を選択し、10単位を履修しなければならない。									
				キ ャ リ ア デ ザ イ ン				キ ャ リ ア マ ネ ジ ム ン ト		各2																							
								キ ャ リ ア ア カ ウ ン セ リ ン グ																		2							
												(外) ビ ジ ネ ス 日 本 語 I・II														各1							
								海 外 研 修																		2							
								資 格 取 得		(別記1)																各1							
										(別記2)																各2							
										(別記3)																各4							
								(特) キ ャ リ ア 特 講 (基 礎)		2		(特) キ ャ リ ア 特 講 (発 展)		2		(特) キ ャ リ ア 特 講 (職 業)		2															
				(特) グ ロ ー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (基 礎)	1	(特) グ ロ ー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (発 展)	1																										
社会・企業研究	社会・企業研究	災 害 ボ ラ ン テ ィ ア I・II		日 本 通 運 寄 付 講 座 業 界 研 究 特 別 講 座 イ ン タ ー ン シ ッ プ 基 礎		全 国 通 運 連 盟 寄 付 講 座 ダ イ レ ク ト マ ー ケ テ ィ ン グ 実 践 講 座 イ ン タ ー ン シ ッ プ		野 村 證 券 寄 付 講 座		各2	6単位以上	1カ国語を選択し、10単位を履修しなければならない。																					
				イ ン タ ー ン シ ッ プ (海 外)						2																							
				学 科 選 定		情 報 シ ス テ ム 実 践 講 座 国 際 物 流 実 践 講 座 物 流 マ ネ ジ ム ン ト 実 践 講 座		ロ ジ ス テ イ ク ス 企 業 訪 問 講 座 ロ ジ ス テ イ ク ス 実 践 講 座 I・II		各2																							
				進 路 支 援	キ ャ リ ア 基 礎 (数 理) キ ャ リ ア 基 礎 (言 語) キ ャ リ ア 発 展 (数 理) キ ャ リ ア 発 展 (言 語)	各1																											
						職 業 選 択 論				2																							
		教養基礎科目	教養基礎科目	言 語 学 関 関 する 領 域	哲 学 I・II 言 語 論 I・II (外) 日 本 の 思 想	論 理 学 I・II 現 代 文 章 論 I・II		教 育 学 I・II イ ス ラ ム 学 I・II		心 理 学 I・II 宗 教 学 I・II				各2	24単位以上	1カ国語を選択し、10単位を履修しなければならない。																	
				社 会 や 健 康 に 関 する 領 域	社 会 学 I・II 健 康 科 学 論 I・II 外 国 文 化 論 (ア ジ ア) I・II	経 済 学 I・II 生 涯 ス ポ ー ツ の 理 論 と 実 技 外 国 文 化 論 (西 欧) I・II		法 学 I・II ス ポ ー ツ 科 学 I・II (外) 日 本 事 情		人 文 地 理 学 I・II 日 本 文 化 論 I・II (外) 日 本 の 現 在				各2																			
				自 然 や 環 境 に 関 する 領 域	数 学 I・II 物 質 科 学 I・II	地 球 科 学 I・II 生 命 科 学 I・II		生 態 学 I・II 自 然 地 理 学 I・II		自 然 環 境 論 I・II				各2																			
				歴 史 や 文 学 に 関 する 領 域	文 学 (日 本 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (西 洋 史) I・II	文 学 (外 国 文 学) I・II 民 俗 学 I・II		歴 史 学 入 門 (日 本 史) I・II 考 古 学 I・II		歴 史 学 入 門 (東 洋 史) I・II 美 術 史 I・II				各2																			
				専 門 共 通 (注2)		会 計 学 I・II 流 通 論 I・II	各2							4単位以上																			
専門基礎科目	専門基礎科目	簿 記 論 I・II E ビ ジ ネ ス 論 I・II ビ ジ ネ ス デ ー タ ベ ー ス 演 習 ソ ー シ ャ ル メ デ ィ ア 演 習	各2	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I・II 経 営 情 報 論 事 業 戦 略 論 ビ ジ ネ ス ゲ ー ム 原 価 計 算 論 I・II 消 費 者 行 動 論 I・II		経 営 財 務 論 I・II 人 的 資 源 管 理 論 I・II 組 織 戦 略 論 企 業 論 I・II ビ ジ ネ ス プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン I・II 民 法 (財 産 法) I・II		経 営 情 報 シ ス テ ム 論 事 業 創 造 論 I・II 流 通 政 策 論 I・II 起 業 家 育 成 講 座 I・II 財 務 会 計 論 I・II 商 法 (会 社 法) I・II	各2	32単位以上																							
		上 級 簿 記 論 I・II 統 計 学 概 論 I・II 経 済 デ ー タ 演 習 経 営 デ ー タ 演 習	各2	国 際 マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I・II 経 営 管 理 論 I・II 上 級 財 務 会 計 論 I・II 証 券 市 場 論 金 融 論 I・II 流 通 情 報 シ ス テ ム 論 I・II 商 法 (手 形・小 切 手 法) 企 業 会 計 法 I・II グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 A グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 C		経 営 史 I・II 管 理 会 計 論 I・II 広 告 論 I・II 監 査 論 I・II 国 際 金 融 論 I・II 経 営 学 特 殊 講 義 税 法 (法 人 税 法) 社 会 的 企 業 論 グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 B グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 D		ネ ッ ト ワ ー ク 経 営 論 ロ ジ ス テ イ ク ス 概 論 I・II ベン チャ ー フ ァ イ ナ ン ス リ ス ク マ ネ ジ ム ン ト I・II 商 法 (総 則・商 行 為 法) 知 的 財 産 法 国 際 小 売 論	各2	10単位以上																							

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要		
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数			
選 択 科 目	経済学 (注3)	日本経済史Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 経済学史Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ	各2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ 地域経済論Ⅰ・Ⅱ		マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 日本経済論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ		産業組織論Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ	各2	左記科目の中から84単位以上を履修しなければならない。(注9)	
		流通情報学 (注4)	各2	情報学概論Ⅰ・Ⅱ		グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ 情報科学Ⅰ・Ⅱ		通信・ネットワーク概論 情報応用システム論 ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ			ヒューマンインターフェイス論 エルゴノミクス論 災害ロジスティクス論
	社会学 (注5)	社会調査法 社会調査実践法	各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学Ⅰ・Ⅱ 地域空間理論 観光心理学 対人関係論 児童・家庭福祉論 老人福祉論 公的扶助論		経済社会学 開発社会学 余暇社会学 社会心理学 グローバル化と文化 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 障害者福祉論 防災社会学		産業社会学 国際社会学 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 文化人類学 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 介護福祉論 福祉行政と福祉計画論	各2		
		法学 (注6)	各2	政治学Ⅰ・Ⅱ		憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ		労働法Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ			国際法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ
	スポーツ 健康科学 (注7)			スポーツと政治 スポーツマネジメント論 スポーツとメディア スポーツ心理学 コーチング論 キャンプ実習		スポーツ社会学 発育発達老化の理論・実習 体力トレーニング論 スポーツと法 スポーツと文化 スキー・スノーボード実習		スポーツ外傷・障害と予防 健康づくりとジョギング スポーツと国際協力 スポーツ栄養学Ⅰ スポーツボランティア論・実習 ゴルフ実習	各2 各1		
		社会倫理学Ⅰ・Ⅱ 現代女性論Ⅰ・Ⅱ		防災科学Ⅰ・Ⅱ メディア論Ⅰ・Ⅱ		資源環境論Ⅰ・Ⅱ			各2		
	教 養 発 展 科 目					英書講読Ⅰ・Ⅱ			各1		
		英会話AⅠ・AⅡ	各1	英会話CⅠ・CⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ			各1		
		留学英会話Ⅰ・Ⅱ(注8) 留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)							各1		
		選択英語初級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ		選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ			
			選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語中級Ⅰ・Ⅱ	各1			
体育	選択スポーツトレーニング実技Ⅰ・Ⅱ				選択英語上級Ⅰ・Ⅱ 選択フランス語上級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語上級Ⅰ・Ⅱ	選択ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語上級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語上級Ⅰ・Ⅱ	各1				
教 職 科 目	教師論 教育心理学 教育社会学概論	各2	教育課程論 特別活動論 生徒指導論 教育相談 道徳教育	各2	視聴覚教育学 教育方法	各2					
卒業に必要な単位									124 単位以上		

- (外) は外国人留学生の科目を示す。
(特) 印の科目は特別奨学生等の指定科目でそれ以外の学生は受講できません。
(注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡ、(外)日本語DⅠ・DⅡ、(外)日本語EⅠ・EⅡを履修しなければならない。
(注2) 会計学Ⅰ・Ⅱまたは流通論Ⅰ・Ⅱを選択し、4単位を履修しなければならない。
(注3) この欄の科目および教養基礎科目の〔経済学Ⅰ・Ⅱ〕から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。
(注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
(注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
(注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
(注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。また、この欄の指定された科目20単位及び経営学科指定科目(履修モデル参照)24単位を修得した場合には「スポーツマネジメントプログラム」を修了した旨の認定を行う。
(注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
(注9) この欄の単位数を合計すると、6単位以上+24単位以上+4単位以上+32単位以上+10単位以上=76単位以上となり、84単位以上にはならない。不足分8単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。

ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類	
別記1	10	1 単位	秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) 漢字検定準2級 ドットコムマスター-BASIC
別記2	20	2 単位	宅地建物取引士 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定(ミクロ・マクロ)Aランク ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 漢字検定2級 医療事務技能審査試験 ドットコムマスター-シングルスター
別記3	40	4 単位	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上)

		1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要			
		授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数				
必修科目		1 年 演 習 (ゼミ)	4	2 年 演 習 (ゼミ)	4	3 年 演 習 (ゼミ)	4	4 年 演 習 (ゼミ)	4	16単位	必修科目 30単位を履修しなければならない。		
		情 報 基 礎 I・II	各2	リベラルアーツ入門	2					6単位			
		基礎ミクロ経済学 基礎マクロ経済学 現代経済入門I・II	各2							8単位			
外国語 (注1)		英 語 A I・A II 英 語 B I・B II	各1	英 語 C I・C II 英 語 D I・D II 英 語 E I・E II	各1						1カ国語を 選択し、10 単位を履修 しなければならない。		
		ドイ ツ 語 A I・A II ドイ ツ 語 B I・B II		ドイ ツ 語 C I・C II ドイ ツ 語 D I・D II ドイ ツ 語 E I・E II									
		フ ラ ン ス 語 A I・A II フ ラ ン ス 語 B I・B II		フ ラ ン ス 語 C I・C II フ ラ ン ス 語 D I・D II フ ラ ン ス 語 E I・E II									
		中 国 語 A I・A II 中 国 語 B I・B II		中 国 語 C I・C II 中 国 語 D I・D II 中 国 語 E I・E II									
		ス ペ イ ン 語 A I・A II ス ペ イ ン 語 B I・B II		ス ペ イ ン 語 C I・C II ス ペ イ ン 語 D I・D II ス ペ イ ン 語 E I・E II									
		朝 鮮 (韓 国) 語 A I・A II 朝 鮮 (韓 国) 語 B I・B II		朝 鮮 (韓 国) 語 C I・C II 朝 鮮 (韓 国) 語 D I・D II 朝 鮮 (韓 国) 語 E I・E II									
		ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 A I・A II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 B I・B II		ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 C I・C II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 D I・D II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 E I・E II									
		(外)日 本 語 A I・A II (外)日 本 語 B I・B II		(外)日 本 語 C I・C II (外)日 本 語 D I・D II (外)日 本 語 E I・E II									
	選 択 必 修 科 目	キャリア形成		R K U 入 門		1	R K U 実 践						
キ ャ リ ア デ ザ イ ン				キ ャ リ ア マ ネ ジ ム ン ト	各2								
				キ ャ リ ア カ ウ ン セ リ ン グ							2		
						(外)ビ ジ ネ ス 日 本 語 I・II					各1		
海 外 研 修											2		
			(別記1)								各1		
資 格 取 得			(別記2)								各2		
			(別記3)								各4		
(特)キ ャ リ ア 特 講 (基 礎)			2	(特)キ ャ リ ア 特 講 (発 展)	2	(特)キ ャ リ ア 特 講 (職 業)	2						
(特)グ ロー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (基 礎)			1	(特)グ ロー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (発 展)	1								
社会・ 企業研究	災 害 ボ ラ ン テ ィ ア I・II									各1			
			日 本 通 運 寄 付 講 座 業 界 研 究 特 別 講 座 イ ン タ ー ナ シ ョ ン 基 礎		全 国 通 運 連 盟 寄 付 講 座 ダ イ レ ク ト マ ー ケ テ ィ ン グ 実 践 講 座 イ ン タ ー ナ シ ョ ン		野 村 證 券 寄 付 講 座			各2			
										各2			
	イ ン タ ー ナ シ ョ ン (海 外)									2			
学 科 選 定		情 報 シ ス テ ム 実 践 講 座 国 際 物 流 実 践 講 座		ロ ジ ス テ ィ ク ス 実 践 講 座 I・II 物 流 マ ネ ジ ム ン ト 実 践 講 座					各2				
進 路 支 援	キ ャ リ ア 基 礎 (数 理) キ ャ リ ア 基 礎 (言 語)	各1											
	キ ャ リ ア 発 展 (数 理) キ ャ リ ア 発 展 (言 語)												
				職 業 選 択 論						2			
				就 職 準 備 講 座						1			
教 養 基 礎 科 目	言 葉 や 思 想 に 関 す る 領 域	哲 学 I・II 言 語 論 I・II (外) 日 本 の 思 想		論 理 学 I・II 現 代 文 章 論 I・II		教 育 学 I・II イ ス ラ ム 学 I・II		心 理 学 I・II 宗 教 学 I・II		各2	24単位 以上		
	社 会 や 健 康 に 関 す る 領 域	社 会 学 I・II 生 涯 ス ポ ー ツ の 理 論 と 実 技 外 国 文 化 論 (西 欧) I・II		人 文 地 理 学 I・II ス ポ ー ツ 科 学 I・II (外) 日 本 の 現 在		日 本 学 I・II 日 本 文 化 論 I・II (外) 日 本 事 情		健 康 科 学 論 I・II 外 国 文 化 論 (ア ジ ア) I・II					
	自 然 や 環 境 に 関 す る 領 域	数 学 I・II 生 命 科 学 I・II		地 球 科 学 I・II 自 然 地 理 学 I・II		自 然 環 境 論 I・II 生 態 学 I・II		物 質 科 学 I・II					
	歴 史 や 文 学 に 関 す る 領 域	文 学 (日 本 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (西 洋 史)		文 学 (外 国 文 学) I・II 民 俗 学 I・II		歴 史 学 入 門 (日 本 史) I・II 考 古 学 I・II		歴 史 学 入 門 (東 洋 史) 美 術 史 I・II					
専 門 基 礎 科 目	統 計 学 概 論 I・II 経 済 学 史 I・II		経 済 地 理 学 I・II 資 本 主 義 経 済 論 I・II		日 本 経 済 史 I・II 西 洋 経 済 史 I・II				各2				
			ミ ク ロ 経 済 学 I・II マ ク ロ 経 済 学 I・II 日 本 経 済 論 I・II 交 通 論 I・II 国 際 経 済 論 I・II		産 業 組 織 論 I・II 財 政 学 I・II 金 融 論 I・II 社 会 保 障 論 I・II 経 済 発 展 論 I・II		労 働 経 済 論 I・II 情 報 経 済 論 I・II 公 共 経 済 学 I・II 地 域 経 済 論 I・II 経 済 政 策 論 I・II		各2	40単位 以上			
					企 業 論 I・II 地 方 財 政 論 I・II 国 際 金 融 論 I・II 証 券 市 場 論		消 費 者 行 動 論 I・II 食 料・農 業 経 済 学 I・II リ ス ク マ ネ ジ ム ン ト I・II		各2				

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要	
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数		
専 門 発 展 科 目	環境経済論Ⅰ・Ⅱ		ビジネスデータベース演習		ソーシャルメディア演習				各2	
			グローバルビジネス英語A グローバルビジネス英語C		グローバルビジネス英語B グローバルビジネス英語D				各2	
			会計学Ⅰ・Ⅱ 財務会計論Ⅰ・Ⅱ		経済データ演習 管理会計論Ⅰ・Ⅱ		経営データ演習		各2	
					人口論Ⅰ・Ⅱ 広告論Ⅰ・Ⅱ 行政法Ⅰ・Ⅱ 上級財務会計論Ⅰ・Ⅱ 計量経済学Ⅰ・Ⅱ 知的財産法		産業立地論Ⅰ・Ⅱ ベンチャーファイナンス 国際関係論Ⅰ・Ⅱ 民法(財産法)Ⅰ・Ⅱ 経済学特殊講義 金融取引法 ビジネスプレゼンテーションⅡ		各2	
	経営学(注3)		各2	流通論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ 事業創造論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 事業戦略論		マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ 流通政策論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 経営財務論Ⅰ・Ⅱ 組織戦略論		経営情報システム論 ネットワーク経営論 上級簿記論Ⅰ・Ⅱ 監査論Ⅰ・Ⅱ 国際小売論		各2
	流通情報学(注4)		各2	グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ		通信・ネットワーク概論 情報応用システム論 ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ 情報科学Ⅰ・Ⅱ		ヒューマンインターフェイス論 エルゴノミクス論 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ 災害ロジスティクス論		各2
	社会学(注5)		各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学 地域空間論 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 児童・家庭福祉論 老人福祉論 公的経済社会学		開発社会学 余暇社会学 観光心理学 文化人類学 グローバル化と文化 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 障害者福祉論 産業社会学		国際社会学 社会心理学 対人関係 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 介護福祉論 福祉行財政と福祉計画論 防災社会学論		各2
	法学(注6)		各2	憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ		労働法Ⅰ・Ⅱ 国際法Ⅰ・Ⅱ		商法(会社法)Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ		各2
	スポーツ健康科学(注7)			スポーツと政治 スポーツマネジメント論 スポーツとメディア スポーツ心理学 コーチング論		スポーツと国際協力 スポーツ社会学 発育発達老化の理論・実習 体力トレーニング論		スポーツと法 スポーツと文化 スポーツ栄養学Ⅰ スポーツ外傷・障害と予防 健康づくりとジョギング		各2
				社会倫理学Ⅰ・Ⅱ 現代女性論Ⅰ・Ⅱ		防災科学Ⅰ・Ⅱ メディア論Ⅰ・Ⅱ		資源環境論Ⅰ・Ⅱ		各2
学 部 共 通 科 目			歴史学特殊講義(東洋史) 歴史学特殊講義(西洋史)		歴史学特殊講義(日本史)Ⅰ・Ⅱ 英書講読Ⅰ・Ⅱ				各1	
	英会話AⅠ・AⅡ		各1	英会話CⅠ・CⅡ		英会話EⅠ・EⅡ				各1
	留学英会話Ⅰ・Ⅱ(注8) 留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)									各1
	選択英語初級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ			選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ		選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ		各1
				選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ		選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語中級Ⅰ・Ⅱ		
						選択英語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ドイツ語上級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語上級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語上級Ⅰ・Ⅱ		選択フランス語上級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語上級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語上級Ⅰ・Ⅱ		
	体育		各1	選択スポーツトレーニング実技Ⅰ・Ⅱ						
	教職科目		各2	教育課程論 教育心理学 教育社会学概論 教育社会学概論		視聴覚教育学 教育方法学				各2
				教育特別活動指導論 教育相談 教育道徳教育						各2
										各2
									各2	
									各2	
									各2	
卒業に必要な単位									124単位以上	

左記科目の中から84単位以上を履修しなければならない。(注2)

- (外) は外国人留学生の科目を示す。
 (特) 印の科目は特別奨学生等の指定科目でそれ以外の学生は受講できません。
 (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡ、(外)日本語DⅠ・DⅡ、(外)日本語EⅠ・EⅡを履修しなければならない。
 (注2) この欄の単位数を合計すると、6単位以上+24単位以上+40単位以上=70単位以上となり、84単位以上にはならない。不足分の14単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
 (注3) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
 (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
 (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
 (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
 (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。
 (注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。

ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記1	10	1単位 秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) 漢字検定準2級 ドットコムマスター-BASIC
別記2	20	2単位 宅地建物取引士 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定(マイクロ・マクロ)Aランク ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 漢字検定2級 医療事務技能審査試験 ドットコムマスター-シングルスター
別記3	40	4単位 社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上)

		1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要																							
		授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数																								
必修科目		1 年 演 習 (ゼミ)	4	2 年 演 習 (ゼミ)	4	3 年 演 習 (ゼミ)	4	4 年 演 習 (ゼミ)	4	16単位	必修科目を履修しなければならない。																						
		卒 業 研 究						卒 業 研 究	2	2単位																							
		経 営 入 門	2									6単位																					
		経 営 学 総 論 I・II	各2									6単位																					
	情 報 基 礎 I・II	各2	リベラルアーツ入門	2						6単位																							
外国語 (注1)		英 語 A I・A II 英 語 B I・B II	各1	英 語 C I・C II 英 語 D I・D II 英 語 E I・E II	各1	ド イ ツ 語 C I・C II ド イ ツ 語 D I・D II ド イ ツ 語 E I・E II	各1	ド イ ツ 語 A I・A II ド イ ツ 語 B I・B II	各1	フ ラ ン ス 語 C I・C II フ ラ ン ス 語 D I・D II フ ラ ン ス 語 E I・E II	各1	フ ラ ン ス 語 A I・A II フ ラ ン ス 語 B I・B II	各1	中 国 語 C I・C II 中 国 語 D I・D II 中 国 語 E I・E II	各1	中 国 語 A I・A II 中 国 語 B I・B II	各1	ス ペ イ ン 語 C I・C II ス ペ イ ン 語 D I・D II ス ペ イ ン 語 E I・E II	各1	ス ペ イ ン 語 A I・A II ス ペ イ ン 語 B I・B II	各1	朝 鮮 (韓 国) 語 C I・C II 朝 鮮 (韓 国) 語 D I・D II 朝 鮮 (韓 国) 語 E I・E II	各1	朝 鮮 (韓 国) 語 A I・A II 朝 鮮 (韓 国) 語 B I・B II	各1	ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 C I・C II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 D I・D II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 E I・E II	各1	ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 A I・A II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 B I・B II	各1	(外) 日 本 語 C I・C II (外) 日 本 語 D I・D II (外) 日 本 語 E I・E II	各1	(外) 日 本 語 A I・A II (外) 日 本 語 B I・B II	各1
	選 択 必 修 科 目	キャリア形成		R K U 入 門		1		R K U 実 践												1		6単位以上											
				キ ャ リ ア デ ザ イ ン				キ ャ リ ア マ ネ ジ ム ン ト		各2														2									
								キ ャ リ ア ア カ ウ ン セ リ ン グ																2									
												(外) ビ ジ ネ ス 日 本 語 I・II												各1									
								海 外 研 修																2									
								資 格 取 得		(別記1)														各1									
										(別記2)														各2									
										(別記3)														各4									
								(特) キ ャ リ ア 特 講 (基 礎)		2		(特) キ ャ リ ア 特 講 (発 展)		2		(特) キ ャ リ ア 特 講 (職 業)		2															
				(特) グ ロ ー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (基 礎)	1	(特) グ ロ ー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (発 展)	1																										
社会・企業研究	社会・企業研究	災 害 ボ ラ ン テ ィ ア I・II		日 本 通 運 寄 付 講 座 業 界 研 究 特 別 講 座 イ ン タ ー ナ シ ョ ン 基 礎		全 国 通 運 連 盟 寄 付 講 座 ダ イ レ ク ト マ ー ケ テ ィ ン グ 実 践 講 座 イ ン タ ー ナ シ ョ ン		野 村 證 券 寄 付 講 座		各1 各2 各2																							
		イ ン タ ー ナ シ ョ ン (海 外)								2																							
		学 科 選 定			情 報 シ ス テ ム 実 践 講 座 国 際 物 流 実 践 講 座 物 流 マ ネ ジ ム ン ト 実 践 講 座		ロ ジ ス テ イ ク ス 企 業 訪 問 講 座 ロ ジ ス テ イ ク ス 実 践 講 座 I・II		各2																								
		進 路 支 援	キ ャ リ ア 基 礎 (数 理) キ ャ リ ア 基 礎 (言 語) キ ャ リ ア 発 展 (数 理) キ ャ リ ア 発 展 (言 語)	各1																													
					職 業 選 択 論					2																							
					就 職 準 備 講 座					1																							
		教養基礎科目	言葉や思想に関する領域	哲 学 I・II 言 語 論 I・II (外) 日 本 の 思 想		論 理 学 I・II 現 代 文 章 論 I・II		教 育 学 I・II イ ス ラ ム 学 I・II		心 理 学 I・II 宗 教 学 I・II		各2	24単位以上																				
				社 会 学 I・II 健 康 科 学 論 I・II 外 国 文 化 論 (ア ジ ア) I・II		経 済 学 I・II 生 涯 ス ポ ー ツ の 理 論 と 実 技 外 国 文 化 論 (西 欧) I・II		法 学 I・II ス ポ ー ツ 科 学 I・II (外) 日 本 事 情		人 文 地 理 学 I・II 日 本 文 化 論 I・II (外) 日 本 の 現 在																							
				数 学 I・II 物 質 科 学 I・II		地 球 科 学 I・II 生 命 科 学 I・II		生 態 学 I・II 自 然 地 理 学 I・II		自 然 環 境 論 I・II																							
				文 学 (日 本 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (西 洋 史)		文 学 (外 国 文 学) I・II 民 俗 学 I・II		歴 史 学 入 門 (日 本 史) I・II 考 古 学 I・II		歴 史 学 入 門 (東 洋 史) 美 術 史 I・II																							
専 門 共 通 (注2)		会 計 学 I・II 流 通 論 I・II	各2						4単位以上																								
専 門 基 礎 科 目	簿 記 論 I・II E ビ ジ ネ ス 論 I・II ビ ジ ネ ス デ ー タ ベ ー ス 演 習 ソ ー シ ャ ル メ デ ィ ア 演 習	各2	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I・II 経 営 情 報 論 事 業 戦 略 論 ビ ジ ネ ス ゲ ー ム 原 価 計 算 論 I・II		経 営 財 務 論 I・II 人 的 資 源 管 理 論 I・II 組 織 戦 略 論 企 業 論 I・II ビ ジ ネ ス プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン I・II 民 法 (財 産 法) I・II		経 営 情 報 シ ス テ ム 論 事 業 創 造 論 I・II 流 通 政 策 論 I・II 起 業 家 育 成 講 座 I・II 財 務 会 計 論 I・II 商 法 (会 社 法) I・II	各2	32単位以上																								
専 門 発 展 科 目	上 級 簿 記 論 I・II 統 計 学 概 論 I・II 経 済 デ ー タ 演 習 経 営 デ ー タ 演 習	各2	国 際 マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I・II 経 営 管 理 論 I・II 上 級 財 務 会 計 論 I・II 証 券 市 場 論 金 融 論 I・II 流 通 情 報 シ ス テ ム 論 I・II 商 法 (手 形・小 切 手 法) 企 業 会 計 法 I・II グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 A グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 C		経 営 史 I・II 管 理 会 計 論 I・II 広 告 論 I・II 監 査 論 I・II 国 際 金 融 論 I・II 経 営 学 特 殊 講 義 税 法 (法 人 税 法) 社 会 的 企 業 論 グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 B グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 D		ネ ッ ト ワ ー ク 経 営 論 消 費 者 行 動 論 I・II ロ ジ ス テ イ ク ス 概 論 I・II ベンチャーファイナンス リ ス ク マ ネ ジ ム ン ト I・II 商 法 (総 則・商 行 為 法) 知 的 財 産 法 国 際 小 売 論	各2	10単位以上																								

		1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要		
		授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数			
必修科目		1 年 演 習 (ゼミ)	4	2 年 演 習 (ゼミ)	4	3 年 演 習 (ゼミ)	4	4 年 演 習 (ゼミ)	4	16単位	必修科目 30単位を履修しなければならない。	
		情報基礎 I・II	各2	リベラルアーツ入門	2					6単位		
		基礎ミクロ経済学 基礎マクロ経済学 現代経済入門 I・II	各2							8単位		
選 択 必 修 科 目	外国語 (注1)	英 語 A I・A II 英 語 B I・B II	各1	英 語 C I・C II 英 語 D I・D II 英 語 E I・E II	各1		各1		各1		1カ国語を 選択し、10 単位を履修 しなければならない。	
		ドイ ツ 語 A I・A II ドイ ツ 語 B I・B II		ドイ ツ 語 C I・C II ドイ ツ 語 D I・D II ドイ ツ 語 E I・E II								
		フ ラ ン ス 語 A I・A II フ ラ ン ス 語 B I・B II		フ ラ ン ス 語 C I・C II フ ラ ン ス 語 D I・D II フ ラ ン ス 語 E I・E II								
		中 国 語 A I・A II 中 国 語 B I・B II		中 国 語 C I・C II 中 国 語 D I・D II 中 国 語 E I・E II								
		ス ペ イ ン 語 A I・A II ス ペ イ ン 語 B I・B II		ス ペ イ ン 語 C I・C II ス ペ イ ン 語 D I・D II ス ペ イ ン 語 E I・E II								
		朝 鮮 (韓 国) 語 A I・A II 朝 鮮 (韓 国) 語 B I・B II		朝 鮮 (韓 国) 語 C I・C II 朝 鮮 (韓 国) 語 D I・D II 朝 鮮 (韓 国) 語 E I・E II								
		ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 A I・A II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 B I・B II		ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 C I・C II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 D I・D II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 E I・E II								
		(外)日 本 語 A I・A II (外)日 本 語 B I・B II		(外)日 本 語 C I・C II (外)日 本 語 D I・D II (外)日 本 語 E I・E II								
		R K U 入 門		1		R K U 実 践						1
		キ ャ リ ア デ ザ イ ン				キ ャ リ ア マ ネ ジ ム ン ト		各2				
		キ ャ リ ア ア カ ウ ン セ リ ン グ			2							
				(外)ビ ジ ネ ス 日 本 語 I・II	各1							
海 外 研 修					2							
資 格 取 得	(別記1)				各1							
	(別記2)				各2							
	(別記3)				各4							
(特)キ ャ リ ア 特 講 (基 礎)	2	(特)キ ャ リ ア 特 講 (発 展)	2	(特)キ ャ リ ア 特 講 (職 業)	2							
(特)グ ロ ー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (基 礎)	1	(特)グ ロ ー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (発 展)	1									
災 害 ボ ラ ン テ ィ ア I・II					各1							
社 会 ・ 企 業 研 究			日 本 通 運 寄 付 講 座 I・II 業 界 研 究 特 別 講 座	全 国 通 運 連 盟 寄 付 講 座 ダ イ レ ク ト マ ー ケ テ ィ ン グ 実 践 講 座	野 村 證 券 寄 付 講 座	各2						
			イ ン タ ー ン シ ッ プ 基 礎	イ ン タ ー ン シ ッ プ		各2						
			イ ン タ ー ン シ ッ プ (海 外)			2						
学 科 選 定		情 報 シ ス テ ム 実 践 講 座 国 際 物 流 実 践 講 座		ロ ジ ス テ ィ ク ス 実 践 講 座 I・II 物 流 マ ネ ジ ム ン ト 実 践 講 座		各2						
進 路 支 援	キ ャ リ ア 基 礎 (数 理) キ ャ リ ア 基 礎 (言 語)	各1										
	キ ャ リ ア 発 展 (数 理) キ ャ リ ア 発 展 (言 語)											
				職 業 選 択 論	2							
				就 職 準 備 講 座	1							
教 養 基 礎 科 目	言 葉 や 思 想 関 する 領 域	哲 学 I・II 言 語 論 I・II (外) 日 本 の 思 想	論 理 学 I・II 現 代 文 章 論 I・II	教 育 学 I・II イ ス ラ ム 学 I・II	心 理 学 I・II 宗 教 学 I・II	各2	24単位 以上					
	社 会 や 健 康 関 する 領 域	社 会 学 I・II 生 涯 ス ポ ー ツ の 理 論 と 実 技 外 国 文 化 論 (西 欧) I・II	人 文 地 理 学 I・II ス ポ ー ツ 科 学 I・II (外) 日 本 の 現 在	法 学 I・II 日 本 文 化 論 I・II (外) 日 本 事 情	健 康 科 学 論 I・II 外 国 文 化 論 (ア ジ ア) I・II							
	自 然 や 環 境 関 する 領 域	数 学 I・II 生 命 科 学 I・II	地 球 科 学 I・II 自 然 地 理 学 I・II	自 然 環 境 論 I・II 生 態 学 I・II	物 質 科 学 I・II							
	歴 史 や 文 学 関 する 領 域	文 学 (日 本 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (西 洋 史)	文 学 (外 国 文 学) I・II 民 俗 学 I・II	歴 史 学 入 門 (日 本 史) I・II 考 古 学 I・II	歴 史 学 入 門 (東 洋 史) 美 術 史 I・II							
専 門 基 礎 科 目	統 計 学 概 論 I・II 経 済 学 史 I・II		経 済 地 理 学 I・II 資 本 主 義 経 済 論 I・II	日 本 経 済 史 I・II 西 洋 経 済 史 I・II		各2	40単位 以上					
			ミ ク ロ 経 済 学 I・II マ ク ロ 経 済 学 I・II 日 本 経 済 論 I・II 交 通 論 I・II 国 際 経 済 論 I・II	産 業 組 織 論 I・II 財 政 学 I・II 金 融 論 I・II 社 会 保 障 論 I・II 経 済 発 展 論 I・II	労 働 経 済 論 I・II 情 報 経 済 論 I・II 公 共 経 済 学 I・II 地 域 経 済 論 I・II 経 済 政 策 論 I・II							
				企 業 論 I・II 地 方 財 政 論 I・II 国 際 金 融 論 I・II 証 券 市 場 論	消 費 者 行 動 論 I・II 食 料 ・ 農 業 経 済 学 I・II リ ス ク マ ネ ジ ム ン ト I・II							

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要	
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数		
専 門 発 展 科 目	環 境 経 済 論 I・II		ビジネスデータベース演習		ソーシャルメディア演習				各2	
			グローバルビジネス英語 A		グローバルビジネス英語 B				各2	
			グローバルビジネス英語 C		グローバルビジネス英語 D				各2	
			会 計 学 I・II		経 済 データ 演 習		経 営 データ 演 習		各2	
			財 務 会 計 論 I・II		管 理 会 計 論 I・II				各2	
					人 口 論 I・II		産 業 立 地 論 I・II		各2	
					広 告 論 I・II		ベンチャーファイナンス			
					行 政 法 I・II		国 際 関 係 論 I・II			
					上 級 財 務 会 計 論 I・II		民 法 (財 産 法) I・II			
					計 量 経 済 学 I・II		経 済 学 特 殊 講 義			
				知 的 財 産 法		金 融 取 引 法		各2		
						ビジネスプレゼンテーションII		各2		
経 営 学 (注 3)		各2	流 通 論 I・II		マーケティング論I・II		経 営 情 報 システム 論		各2	
			E ビジネス 論 I・II		原 価 計 算 論 I・II		ネ ッ ト ワーク 経 営 論			
			事 業 創 造 論 I・II		流 通 政 策 論 I・II		上 級 簿 記 論 I・II		各2	
			人 的 資 源 管 理 論 I・II		経 営 情 報 論		監 査 論 I・II			
			事 業 戦 略 論		経 営 財 務 論 I・II		国 際 小 売 論		各2	
					組 織 戦 略 論					
流 通 情 報 学 (注 4)		各2	グ ローバルロジスティクス論I・II		通 信・ネ ッ ト ワーク 概 論		ヒューマンインターフェイス論		各2	
			ロジスティクスシステム論I・II		情 報 応 用 システム 論		エ ル ゴ ノ ミ ク ス 論			
			ロジスティクスビジネス論I・II		ソ フ ト ウェア 概 論 I・II		流 通 情 報 システム 論 I・II		各2	
					情 報 科 学 I・II		災 害 ロジスティクス 論			
社 会 学 (注 5)		各2	家 族 社 会 学 I・II		開 発 社 会 学		国 際 社 会 学		各2	
			地 域 社 会 学 論		閑 暇 社 会 学		社 会 心 理 学			
			地 域 社 会 学 論		観 光 心 理 学		対 人 関 係 論		各2	
			教 育 社 会 学 I・II		文 化 人 類 学		地 域 福 祉 論			
			児 童・家 庭 福 祉 論		グ ローバル化と文化		介 護 福 祉 論		各2	
			老 人 福 祉 論		社 会 福 祉 原 論 I・II		福 祉 行 政 論			
			老 人 福 祉 論		障 害 者 福 祉 論		防 災 社 会 論		各2	
			公 経 済 社 会 学		産 業 社 会 学					
法 学 (注 6)		各2	憲 法 I・II		労 働 法 I・II		商 法 (会 社 法) I・II		各2	
			経 済 法 I・II		国 際 法 I・II		法 制 史 I・II			
			刑 法 (総 論) I・II						各2	
ス ポー ツ 健 康 科 学 (注 7)			ス ポー ツ と 政 治		ス ポー ツ と 国 際 協 力		ス ポー ツ と 法		各2	
			ス ポー ツ マネジメント 論		ス ポー ツ 社 会 学		ス ポー ツ と 文 化			
			ス ポー ツ と メディア		発 育 発 達 老 化 の 理 論・実 習		ス ポー ツ 栄 養 学 I		各2	
			ス ポー ツ 心 理 学		体 力 トレーニング 論		ス ポー ツ 外 傷・障 害 と 予 防			
			コ ー チング 論				健 康 づ くり と ジョギング		各2	
			防 災 科 学 I・II		資 源 環 境 論 I・II				各2	
			メ ディア 論 I・II							
			歴 史 学 特 殊 講 義 (東 洋 史)		歴 史 学 特 殊 講 義 (日 本 史) I・II				各1	
			歴 史 学 特 殊 講 義 (西 洋 史)		英 書 講 読 I・II					
英 会 話 AI・AII		各1	英 会 話 CI・CII		英 会 話 EI・EII				各1	
留 学 英 会 話 I・II (注 8)									各1	
留 学 中 国 語 会 話 I・II (注 8)									各1	
外 国 語		各1	選 択 英 語 初 級 I・II		選 択 ドイツ 語 初 級 I・II		選 択 フランス 語 初 級 I・II		各1	
			選 択 スペイン 語 初 級 I・II		選 択 朝 鮮 (韓 国) 語 初 級 I・II		選 択 ポルトガル 語 /ブラジル 語 初 級 I・II			各1
			選 択 英 語 中 級 I・II		選 択 ドイツ 語 中 級 I・II		選 択 フランス 語 中 級 I・II			
			選 択 中 国 語 中 級 I・II		選 択 ドイツ 語 上 級 I・II		選 択 朝 鮮 (韓 国) 語 中 級 I・II			
			選 択 ポルトガル 語 /ブラジル 語 中 級 I・II		選 択 英 語 上 級 I・II		選 択 フランス 語 上 級 I・II			
			選 択 ドイツ 語 上 級 I・II		選 択 スペイン 語 上 級 I・II		選 択 ポルトガル 語 /ブラジル 語 上 級 I・II			
			選 択 中 国 語 上 級 I・II		選 択 朝 鮮 (韓 国) 語 上 級 I・II				各1	
体 育			選 択 スポーツ トレーニング 実 技 I・II						各1	
教 職 科 目		各2	教 育 課 程 論		視 聴 覚 教 育				各2	
			教 育 原 理 学		教 育 方 法 学					
			教 育 心 理 学						各2	
			教 育 社 会 学 概 論							
			教 育 特 殊 活 動 論						各2	
			教 育 指 導 論							
			教 育 社 会 学 概 論						各2	
			教 育 特 殊 活 動 論							
			教 育 指 導 論						各2	
			教 育 社 会 学 概 論							
			教 育 特 殊 活 動 論						各2	
			教 育 指 導 論							
			教 育 社 会 学 概 論						各2	
			教 育 特 殊 活 動 論							
			教 育 指 導 論						各2	
			教 育 社 会 学 概 論							

左記科目の中から84単位以上を履修しなければならない。(注2)

卒業に必要な単位 124単位以上

- (外) は外国人留学生の科目を示す。
- (特) 印の科目は特別奨学生の特典科目でそれ以外の学生は受講できません。
- (注1) 1 学年、2 学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1 学年で (外) 日本語 AI・AII、(外) 日本語 BI・BII、2 学年で (外) 日本語 CI・CII、(外) 日本語 DI・DII、(外) 日本語 EI・EII を履修しなければならない。
- (注2) この欄の単位数を合計すると、6 単位以上 + 24 単位以上 + 40 単位以上 = 70 単位以上となり、84 単位以上にはならない。不足分の 14 単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
- (注3) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
- (注4) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
- (注5) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
- (注6) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
- (注7) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。
- (注8) 外国人留学生は「留学英会話 I・II」及び「留学中国語会話 I・II」を履修できない。

ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記1	10	1 単位
別記2	20	2 単位
別記3	40	4 単位

		1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要			
		授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数				
必修科目		1 年 演 習 (ゼミ)	4	2 年 演 習 (ゼミ)	4	3 年 演 習 (ゼミ)	4	4 年 演 習 (ゼミ)	4	16単位	必修科目を履修しなければならない。		
		卒 業 研 究						卒 業 研 究	2	2単位			
		経 営 入 門	2									6単位	
		経 営 学 総 論 I・II	各2									6単位	
外国語 (注1)		情 報 基 礎 I・II	各2	リベラルアーツ入門	2						6単位		
		英 語 A I・A II 英 語 B I・B II	各1	英 語 C I・C II 英 語 D I・D II 英 語 E I・E II	各1								
		ド イ ツ 語 A I・A II ド イ ツ 語 B I・B II		ド イ ツ 語 C I・C II ド イ ツ 語 D I・D II ド イ ツ 語 E I・E II									
		フ ラ ン ス 語 A I・A II フ ラ ン ス 語 B I・B II		フ ラ ン ス 語 C I・C II フ ラ ン ス 語 D I・D II フ ラ ン ス 語 E I・E II									
		中 国 語 A I・A II 中 国 語 B I・B II		中 国 語 C I・C II 中 国 語 D I・D II 中 国 語 E I・E II									
		ス ペ イ ン 語 A I・A II ス ペ イ ン 語 B I・B II		ス ペ イ ン 語 C I・C II ス ペ イ ン 語 D I・D II ス ペ イ ン 語 E I・E II									
		朝 鮮 (韓 国) 語 A I・A II 朝 鮮 (韓 国) 語 B I・B II		朝 鮮 (韓 国) 語 C I・C II 朝 鮮 (韓 国) 語 D I・D II 朝 鮮 (韓 国) 語 E I・E II									
		ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 A I・A II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 B I・B II		ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 C I・C II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 D I・D II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 E I・E II									
		(外) 日 本 語 A I・A II (外) 日 本 語 B I・B II		(外) 日 本 語 C I・C II (外) 日 本 語 D I・D II (外) 日 本 語 E I・E II									
	選 択 必 修 科 目	キャリア形成		R K U 入 門		1	R K U 実 践						1
キ ャ リ ア デ ザ イ ン						キ ャ リ ア マ ネ ジ メ ン ト	各2						
				キ ャ リ ア ア カ ウ ン セ リ ン グ						2			
						(外) ビ ジ ネ ス 日 本 語 I・II				各1			
海 外 研 修										2			
社会・企業研究		資 格 取 得	(別記1)								各1		
			(別記2)								各2		
			(別記3)								各4		
		(特) キャリア特講(基礎)	2	(特) キャリア特講(発展)	2	(特) キャリア特講(職業)	2						
		(特) グローバルコミュニケーション(基礎)	1	(特) グローバルコミュニケーション(発展)	1								
学科選定	災 害 ボ ラ ン テ ィ ア I・II			日 本 通 運 寄 付 講 座 I・II 業 界 研 究 特 別 講 座 イ ン タ ー ン シ ッ プ 基 礎		全 国 通 運 連 盟 寄 付 講 座 ダ イ レ ク ト マ ー ケ テ ィ ン グ 実 践 講 座 イ ン タ ー ン シ ッ プ		野 村 證 券 寄 付 講 座		各2			
	イ ン タ ー ン シ ッ プ (海 外)									2			
	情 報 シ ス テ ム 実 践 講 座 国 際 物 流 実 践 講 座 物 流 マ ネ ジ メ ン ト 実 践 講 座					情 報 シ ス テ ム 実 践 講 座 国 際 物 流 実 践 講 座 物 流 マ ネ ジ メ ン ト 実 践 講 座		ロ ジ ス テ ィ ク ス 企 業 訪 問 講 座 ロ ジ ス テ ィ ク ス 実 践 講 座 I・II		各2			
	進 路 支 援	キ ャ リ ア 基 礎 (数 理) キ ャ リ ア 基 礎 (言 語) キ ャ リ ア 発 展 (数 理) キ ャ リ ア 発 展 (言 語)		各1									
教養基礎科目	言 語 や 思 想 に 関 する 領 域	哲 学 I・II 言 語 論 I・II (外) 日 本 の 思 想		論 理 学 I・II 現 代 文 章 論 I・II		教 育 学 I・II イ ス ラ ム 学 I・II		心 理 学 I・II 宗 教 学 I・II		各2			
	社 会 や 健 康 に 関 する 領 域	社 会 学 I・II 健 康 科 学 論 I・II 外 国 文 化 論 (ア ジ ア) I・II		経 済 学 I・II 生 涯 ス ポ ー ツ の 理 論 と 実 技 外 国 文 化 論 (西 欧) I・II		法 学 I・II ス ポ ー ツ 科 学 I・II (外) 日 本 事 情		人 文 地 理 学 I・II 日 本 文 化 論 I・II (外) 日 本 の 現 在		各2			
	自 然 や 環 境 に 関 する 領 域	数 学 I・II 物 質 科 学 I・II		地 球 科 学 I・II 生 命 科 学 I・II		生 態 学 I・II 自 然 地 理 学 I・II		自 然 環 境 論 I・II		各2			
	歴 史 や 文 学 に 関 する 領 域	文 学 (日 本 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (西 洋 史)		文 学 (外 国 文 学) I・II 民 俗 学 I・II		歴 史 学 入 門 (日 本 史) I・II 考 古 学 I・II		歴 史 学 入 門 (東 洋 史) 美 術 史 I・II		各2			
専 門 共 通 (注2)			会 計 学 I・II 流 通 論 I・II	各2						4単位以上			
専 門 基 礎 科 目	簿 記 論 I・II E ビ ジ ネ ス 論 I・II ビ ジ ネ ス デ ー タ ベ ー ス 演 習 ソ ー シ ャ ル メ デ ィ ア 演 習	各2	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I・II 経 営 情 報 論 事 業 戦 略 論 ビ ジ ネ ス ゲ ー ム 原 価 計 算 論 I・II		経 営 財 務 論 I・II 人 的 資 源 管 理 論 I・II 組 織 戦 略 論 企 業 論 I・II ビ ジ ネ ス プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン I・II 民 法 (財 産 法) I・II		経 営 情 報 シ ス テ ム 論 事 業 創 造 論 I・II 流 通 政 策 論 I・II 起 業 家 育 成 講 座 I・II 財 務 会 計 論 I・II 商 法 (会 社 法) I・II		各2	32単位以上			
専 門 発 展 科 目	上 級 簿 記 論 I・II 統 計 学 概 論 I・II 経 済 デ ー タ 演 習 経 営 デ ー タ 演 習	各2	国 際 マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I・II 経 営 管 理 論 I・II 上 級 財 務 会 計 論 I・II 証 券 市 場 論 金 融 論 I・II 流 通 情 報 シ ス テ ム 論 I・II 商 法 (手 形・小 切 手 法) 企 業 会 計 法 I・II グ ロー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 A グ ロー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 C		経 営 史 I・II 管 理 会 計 論 I・II 広 告 論 I・II 監 査 論 I・II 国 際 金 融 論 I・II 経 営 学 特 殊 講 義 税 法 (法 人 税 法) 社 会 的 企 業 論 グ ロー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 B グ ロー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 D		ネ ッ ト ワ ー ク 経 営 論 消 費 者 行 動 論 I・II ロ ジ ス テ ィ ク ス 概 論 I・II ベンチャーファイナンス リ ス ク マ ネ ジ メ ン ト I・II 商 法 (総 則・商 行 為 法) 知 的 財 産 法 国 際 小 売 論		各2	10単位以上			

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	
選 択 科 目	経済学 (注3)	各2	日本経済史Ⅰ・Ⅱ	各2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	各2	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	各2	産業組織論Ⅰ・Ⅱ
			西洋経済史Ⅰ・Ⅱ		財政学Ⅰ・Ⅱ		日本経済論Ⅰ・Ⅱ		国際経済論Ⅰ・Ⅱ
	流通情報学 (注4)	各2	経済学概論Ⅰ・Ⅱ	交通論Ⅰ・Ⅱ	通信・ネットワーク概論	各2	情報応用システム論	各2	ヒューマンインターフェイス論
			経済地理学Ⅰ・Ⅱ	地域経済論Ⅰ・Ⅱ	情報科学Ⅰ・Ⅱ	各2	エルゴノミクス論	各2	災害ロジスティクス論
	社会学 (注5)	各2	社会調査法	社会調査実践法	家族社会学Ⅰ・Ⅱ	各2	経済社会学	各2	産業社会学
			地域社会学	地域社会学	地域社会学	各2	国際社会学	各2	国際社会学
	法学 (注6)	各2	政治学Ⅰ・Ⅱ	憲法Ⅰ・Ⅱ	労働法Ⅰ・Ⅱ	各2	国際法Ⅰ・Ⅱ	各2	刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ
			スポーツ健康科学 (注7)	スポーツと政治	スポーツと政治	各2	スポーツ社会学	各2	スポーツ外傷・障害と予防
	教養発展科目	各1	社会倫理学Ⅰ・Ⅱ	防災科学Ⅰ・Ⅱ	資源環境論Ⅰ・Ⅱ	各2	歴史学特殊講義(東洋史)	各2	歴史学特殊講義(日本史)Ⅰ・Ⅱ
			現代女性論Ⅰ・Ⅱ	メディア論Ⅰ・Ⅱ	歴史学特殊講義(西洋史)	各2	英書講読Ⅰ・Ⅱ	各2	英書講読Ⅰ・Ⅱ
外国語	各1	英会話AⅠ・AⅡ	英会話CⅠ・CⅡ	英会話EⅠ・EⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ	
		留学英会話Ⅰ・Ⅱ(注8)	留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)	選択英語初級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ	
教職科目	各2	教師原理論	教育課程論	視聴覚教育学	各2	視聴覚教育学	各2	視聴覚教育学	
		教育心理学	教育指導論	教育方法学	各2	教育方法学	各2	教育方法学	
卒業に必要な単位	124 単位以上								

左記科目の中から84単位以上を履修しなければならない。(注9)

- (外) は外国人留学生の科目を示す。
- (特) 印の科目は特別奨学生等の指定科目でそれ以外の学生は受講できません。
- (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡ、(外)日本語DⅠ・DⅡ、(外)日本語EⅠ・EⅡを履修しなければならない。
- (注2) 会計学Ⅰ・Ⅱまたは流通論Ⅰ・Ⅱを選択し、4単位を履修しなければならない。
- (注3) この欄の科目および教養基礎科目の〔経済学Ⅰ・Ⅱ〕から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。
- (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
- (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
- (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
- (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。また、この欄の指定された科目20単位及び経営学科指定科目(履修モデル参照)24単位を修得した場合には「スポーツマネジメントプログラム」を修了した旨の認定を行う。
- (注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
- (注9) この欄の単位数を合計すると、6単位以上+24単位以上+4単位以上+32単位以上+10単位以上=76単位以上となり、84単位以上にはならない。不足分8単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。

ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記1	10	1 単位
別記2	20	2 単位
別記3	40	4 単位

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要		
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数			
必修科目	1 年 演 習 (ゼミ)	4	2 年 演 習 (ゼミ)	4	3 年 演 習 (ゼミ)	4	4 年 演 習 (ゼミ)	4	16単位 6単位 8単位 必修科目 30単位を履修しなければならない。		
	情 報 基 礎 I・II	各2	リベラルアーツ入門	2							
	基礎ミクロ経済学 基礎マクロ経済学 現代経済入門I・II	各2									
外国語 (注1)	英 語 A I・A II 英 語 B I・B II	各1	英 語 C I・C II 英 語 D I・D II 英 語 E I・E II	各1					1カ国語を 選択し、10 単位を履修 しなければならない。		
	ドイ ツ 語 A I・A II ドイ ツ 語 B I・B II		ドイ ツ 語 C I・C II ドイ ツ 語 D I・D II ドイ ツ 語 E I・E II								
	フ ラ ン ス 語 A I・A II フ ラ ン ス 語 B I・B II		フ ラ ン ス 語 C I・C II フ ラ ン ス 語 D I・D II フ ラ ン ス 語 E I・E II								
	中 国 語 A I・A II 中 国 語 B I・B II		中 国 語 C I・C II 中 国 語 D I・D II 中 国 語 E I・E II								
	ス ペ イ ン 語 A I・A II ス ペ イ ン 語 B I・B II		ス ペ イ ン 語 C I・C II ス ペ イ ン 語 D I・D II ス ペ イ ン 語 E I・E II								
	朝 鮮 (韓 国) 語 A I・A II 朝 鮮 (韓 国) 語 B I・B II		朝 鮮 (韓 国) 語 C I・C II 朝 鮮 (韓 国) 語 D I・D II 朝 鮮 (韓 国) 語 E I・E II								
	ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 A I・A II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 B I・B II		ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 C I・C II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 D I・D II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 E I・E II								
	(外)日 本 語 A I・A II (外)日 本 語 B I・B II		(外)日 本 語 C I・C II (外)日 本 語 D I・D II (外)日 本 語 E I・E II								
選 択 必 修 科 目	R K U 入 門	1	R K U 実 践					1	6単位 以上		
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン		キ ャ リ ア マ ネ ジ ム ン ト	各2							
			キ ャ リ ア ア カ ウ ン セ リ ン グ					2			
					(外)ビ ジ ネ ス 日 本 語 I・II			各1			
	海 外 研 修							2			
		(別記1)						各1			
	資 格 取 得	(別記2)						各2			
		(別記3)						各4			
	(特)キ ャ リ ア 特 講 (基 礎)	2	(特)キ ャ リ ア 特 講 (発 展)	2	(特)キ ャ リ ア 特 講 (職 業)	2					
	(特)グ ロー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (基 礎)	1	(特)グ ロー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (発 展)	1							
社 会 ・ 企 業 研 究	災 害 ボ ラ ン テ ィ ア I・II							各1			
			日 本 通 運 寄 付 講 座 I・II 次 城 県 經 営 者 協 会 寄 付 講 座		全 国 通 運 連 盟 寄 付 講 座 業 界 研 究 特 別 講 座		野 村 證 券 寄 付 講 座 ダ イ レ ク ト マ ケ テ ィ ン グ 実 践 講 座 (旧 名 称 : 日 本 通 信 販 売 協 会 寄 付 講 座)	各2			
			イ ン タ ー ン シ ッ プ 基 礎		イ ン タ ー ン シ ッ プ			各2			
	イ ン タ ー ン シ ッ プ (海 外)							2			
学 科 選 定			情 報 シ ス テ ム 実 践 講 座 国 際 物 流 実 践 講 座		ロ ジ ス テ ィ ク ス 実 践 講 座 I・II 物 流 マ ネ ジ ム ン ト 実 践 講 座			各2			
進 路 支 援	キ ャ リ ア 基 礎 (数 理) キ ャ リ ア 基 礎 (言 語)	各1									
	キ ャ リ ア 発 展 (数 理) キ ャ リ ア 発 展 (言 語)										
				職 業 選 択 論				2			
				就 職 準 備 講 座				1			
教 養 基 礎 科 目	言 葉 や 思 想 に 関 す る 領 域	哲 学 I・II 言 語 論 I・II (外) 日 本 の 思 想	論 理 学 I・II 現 代 文 章 論 I・II		教 育 学 I・II イ ス ラ ム 学 I・II		心 理 学 I・II 宗 教 学 I・II	各2	24単位 以上		
	社 会 や 健 康 に 関 す る 領 域	社 会 学 I・II 生 涯 ス ポ ー ツ の 理 論 と 実 技 外 国 文 化 論 (西 欧) I・II	人 文 地 理 学 I・II ス ポ ー ツ 科 学 I・II (外) 日 本 の 現 在		法 学 I・II 日 本 文 化 論 I・II (外) 日 本 事 情		健 康 科 学 論 I・II 外 国 文 化 論 (ア ジ ア) I・II				
	自 然 や 環 境 に 関 す る 領 域	数 学 I・II 生 命 科 学 I・II	地 球 科 学 I・II 自 然 地 理 学 I・II		自 然 環 境 論 I・II 生 態 学 I・II		物 質 科 学 I・II				
	歴 史 や 文 学 に 関 す る 領 域	文 学 (日 本 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (西 洋 史)	文 学 (外 国 文 学) I・II 民 俗 学 I・II		歴 史 学 入 門 (日 本 史) I・II 考 古 学 I・II		歴 史 学 入 門 (東 洋 史) 美 術 史 I・II				
専 門 基 礎 科 目	統 計 学 概 論 I・II 経 済 学 史 I・II		経 済 地 理 学 I・II 資 本 主 義 経 済 論 I・II		日 本 経 済 史 I・II 西 洋 経 済 史 I・II			各2	40単位 以上		
			ミ ク ロ 経 済 学 I・II マ ク ロ 経 済 学 I・II 日 本 経 済 論 I・II 交 通 論 I・II 国 際 経 済 論 I・II		産 業 組 織 論 I・II 財 政 学 I・II 金 融 論 I・II 社 会 保 障 論 I・II 経 済 発 展 論 I・II		労 働 経 済 論 I・II 情 報 経 済 論 I・II 公 共 経 済 学 I・II 地 域 経 済 論 I・II 経 済 政 策 論 I・II				
					企 業 論 I・II 地 方 財 政 論 I・II 国 際 金 融 論 I・II 証 券 市 場		消 費 者 行 動 論 I・II 食 料 ・ 農 業 経 済 学 I・II リ ス ク マ ネ ジ ム ン ト I・II				
								各2			

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要	
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数		
専 門 発 展 科 目	環 境 経 済 論 I・II		ビジネスデータベース演習		ソーシャルメディア演習				各2	
			グローバルビジネス英語 A グローバルビジネス英語 C		グローバルビジネス英語 B グローバルビジネス英語 D				各2	
			会 計 学 I・II 財 務 会 計 論 I・II		経 済 データ 演 習 管 理 会 計 論 I・II		経 営 データ 演 習		各2	
					人 口 論 I・II 広 告 論 I・II 行 政 法 I・II 上 級 財 務 会 計 論 I・II 計 量 経 済 学 I・II 租 税 法 I・II 知 的 財 産 法		産 業 立 地 論 I・II ベンチャーファイナンス 国 際 関 係 論 I・II 民 法 (財 産 法) I・II 経 済 学 特 殊 講 義 金 融 取 引 法 ビジネスプレゼンテーションII		各2	
	経 営 学 総 論 I・II 簿 記 論 I・II		各2	流 通 論 I・II E ビジネス 論 I・II 事 業 創 造 論 I・II 人 的 資 源 管 理 論 I・II 事 業 戦 略 論		マ ー ケー ティング 論 I・II 原 価 計 算 論 I・II 流 通 政 策 論 I・II 経 営 情 報 論 経 営 財 務 論 I・II 組 織 戦 略 論		経 営 情 報 システム 論 ネ ッ ト ワーク 経 営 論 上 級 簿 記 論 I・II 監 査 論 I・II 国 際 小 売 論		各2
	流 通 情 報 学 (注 4)		各2	グ ローバル ロジスティクス 論 I・II ロジスティクス システム 論 I・II ロジスティクス ビジネス 論 I・II		通 信・ネ ッ ト ワーク 概 論 情 報 応 用 システム 論 ソ フ ト ウェア 概 論 I・II 情 報 科 学 I・II		ヒューマン インターフェイス 論 エルゴノミクス 論 流 通 情 報 システム 論 I・II 災 害 ロジスティクス 論		各2
	社 会 学 (注 5)		各2	家 族 社 会 学 I・II 地 域 社 会 学 論 地 域 空 間 論 教 育 社 会 学 I・II 児 童・家 庭 福 祉 論 老 人 福 祉 論 公 経 済 社 会 学		開 発 社 会 学 学 閑 余 暇 社 会 学 学 観 光 心 理 学 学 文 化 人 類 学 学 グ ローバル化 と 文 化 社 会 福 祉 原 論 I・II 障 害 者 福 祉 論 産 業 社 会 学		国 際 社 会 学 学 社 会 心 理 学 学 対 人 関 係 論 地 域 福 祉 論 I・II 介 護 福 祉 論 福 祉 行 政 論 と 福 祉 計 画 論 防 災 社 会 論		各2
	法 学 (注 6)		各2	憲 法 I・II 経 済 法 I・II 刑 法 (総 論) I・II		労 働 法 I・II 国 際 法 I・II		商 法 (会 社 法) I・II 法 制 史 I・II		各2
	ス ポー ツ 健 康 科 学 (注 7)			ス ポー ツ と 政 治 ス ポー ツ マネジメント 論 ス ポー ツ と メディア ス ポー ツ 心 理 学 コ ー チング 論		ス ポー ツ と 国 際 協 力 ス ポー ツ 社 会 学 発 育 発 達 老 化 の 理 論・実 習 体 力 トレーニング 論		ス ポー ツ と 法 ス ポー ツ と 文 化 ス ポー ツ 栄 養 学 ス ポー ツ 外 傷・障 害 と 予 防 健 康 づ くり と ジョギング		各2
	社 会 倫 理 学 I・II 現 代 女 性 論 I・II			防 災 科 学 I・II メ デ ィ ア 論 I・II		資 源 環 境 論 I・II				各2
			歴 史 学 特 殊 講 義 (東 洋 史) 歴 史 学 特 殊 講 義 (西 洋 史)		歴 史 学 特 殊 講 義 (日 本 史) I・II 英 書 講 読 I・II				各2	
英 会 話 AI・AII		各1	英 会 話 CI・CII		英 会 話 EI・EII				各1	
留 学 英 会 話 I・II (注 8) 留 学 中 国 語 会 話 I・II (注 8)									各1	
選 択 英 語 初 級 I・II 選 択 スペイン 語 初 級 I・II			選 択 ドイツ 語 初 級 I・II 選 択 朝 鮮 (韓 国) 語 初 級 I・II		選 択 フランス 語 初 級 I・II 選 択 ポルトガル 語・ブラジル 語 初 級 I・II		選 択 中 国 語 初 級 I・II		各1	
			選 択 英 語 中 級 I・II 選 択 中 国 語 中 級 I・II 選 択 ポルトガル 語・ブラジル 語 中 級 I・II		選 択 ドイツ 語 中 級 I・II 選 択 スペイン 語 中 級 I・II		選 択 フランス 語 中 級 I・II 選 択 朝 鮮 (韓 国) 語 中 級 I・II		各1	
					選 択 英 語 上 級 I・II 選 択 ドイツ 語 上 級 I・II 選 択 中 国 語 上 級 I・II 選 択 朝 鮮 (韓 国) 語 上 級 I・II		選 択 フランス 語 上 級 I・II 選 択 スペイン 語 上 級 I・II 選 択 ポルトガル 語・ブラジル 語 上 級 I・II		各1	
体 育			選 択 スポーツ トレーニング 実 技 I・II						各1	
教 職 科 目		各2	教 育 課 程 論 教 育 原 理 論 教 育 心 理 学 教 育 社 会 学 道 徳 教 育 論		視 聴 覚 教 育 教 育 方 法 学				各2	

左記科目の中から84単位以上を履修しなければならない。(注2)

卒業に必要な単位 124単位以上

- (外) は外国人留学生の科目を示す。
- (特) 印の科目は特別奨学生の特典科目でそれ以外の学生は受講できません。
- (注1) 1 学年、2 学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1 学年で (外) 日本語 AI・AII、(外) 日本語 BI・BII、2 学年で (外) 日本語 CI・CII、(外) 日本語 DI・DII、(外) 日本語 EI・EII を履修しなければならない。
- (注2) この欄の単位数を合計すると、6 単位以上 + 24 単位以上 + 40 単位以上 = 70 単位以上となり、84 単位以上にはならない。不足分の 14 単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
- (注3) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
- (注4) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
- (注5) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
- (注6) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
- (注7) この欄から 20 単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。
- (注8) 外国人留学生は「留学英会話 I・II」及び「留学中国語会話 I・II」を履修できない。

ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記1	10	1 単位 秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 アクセス検定国内3級 アクセス検定国際3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商 PC (文書作成) 3級 日商 PC (データ活用) 3級 日商 PC (プレゼン資料作成) 3級 MOS (スペシャルリストレベル)/MCAS (Word) MOS (スペシャルリストレベル)/MCAS (Excel) 漢字検定準2級 ドットコムマスター-BASIC
別記2	20	2 単位 宅地建物取引士 (旧名称: 宅地建物取引主任者) 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 アクセス検定国内2級 アクセス検定国際2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商 PC (文書作成) 2級 日商 PC (データ活用) 2級 日商 PC (プレゼン資料作成) 2級 経済学検定 (B/B+ランク) 経済学検定 (ミクロ・マクロ) Aランク ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 漢字検定2級 医療事務技能審査試験 ドットコムマスター-シグルスター
別記3	40	4 単位 社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士 (1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター アクセス検定国内準1級 アクセス検定国内1級 アクセス検定国際準1級 アクセス検定国際1級 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定 (Aランク以上)

		1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要																			
		授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数																				
必修科目		1 年 演 習 (ゼミ)	4	2 年 演 習 (ゼミ)	4	3 年 演 習 (ゼミ)	4	4 年 演 習 (ゼミ)	4	16単位	必修科目を履修しなければならない。																		
		卒 業 研 究						卒 業 研 究	2	2単位																			
		経 営 学 総 論 I・II	各2							6単位																			
		情 報 基 礎 I・II	各2	リベラルアーツ入門	2					6単位																			
外国語 (注1)		英 語 A I・A II 英 語 B I・B II	各1	英 語 C I・C II 英 語 D I・D II 英 語 E I・E II	各1	ド イ ツ 語 C I・C II ド イ ツ 語 D I・D II ド イ ツ 語 E I・E II		ド イ ツ 語 A I・A II ド イ ツ 語 B I・B II		フ ラ ン ス 語 C I・C II フ ラ ン ス 語 D I・D II フ ラ ン ス 語 E I・E II		フ ラ ン ス 語 A I・A II フ ラ ン ス 語 B I・B II		中 国 語 C I・C II 中 国 語 D I・D II 中 国 語 E I・E II		中 国 語 A I・A II 中 国 語 B I・B II		ス ペ イ ン 語 C I・C II ス ペ イ ン 語 D I・D II ス ペ イ ン 語 E I・E II		ス ペ イ ン 語 A I・A II ス ペ イ ン 語 B I・B II		朝 鮮 (韓 国) 語 C I・C II 朝 鮮 (韓 国) 語 D I・D II 朝 鮮 (韓 国) 語 E I・E II		朝 鮮 (韓 国) 語 A I・A II 朝 鮮 (韓 国) 語 B I・B II		ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 C I・C II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 D I・D II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 E I・E II		ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 A I・A II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 B I・B II	
		(外) 日 本 語 C I・C II (外) 日 本 語 D I・D II (外) 日 本 語 E I・E II		各1		(外) 日 本 語 A I・A II (外) 日 本 語 B I・B II																							
	選 択 必 修 科 目	キャリア形成				R K U 入 門				1		R K U 実 践												1		6 単 位 以上			
						キ ャ リ ア デ ザ イ ン						キ ャ リ ア マ ネ ジ ム ン ト		各2															
												キ ャ リ ア ア カ ウ ン セ リ ン グ								(外) ビ ジ ネ ス 日 本 語 I・II								2	
						海 外 研 修																						各1	
						資 格 取 得				(別記1)																		各1	
										(別記2)																		各2	
										(別記3)																		各4	
						(特) キ ャ リ ア 特 講 (基 礎)				2		(特) キ ャ リ ア 特 講 (発 展)		2		(特) キ ャ リ ア 特 講 (職 業)		2											
(特) グ ロ ー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (基 礎)			1		(特) グ ロ ー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (発 展)	1																							
災 害 ボ ラ ン テ ィ ア I・II											各1																		
社会・企業研究				日 本 通 運 寄 付 講 座 I・II 茨 城 県 経 営 者 協 会 寄 付 講 座		全 国 通 運 連 盟 寄 付 講 座 業 界 研 究 特 別 講 座		野 村 證 券 寄 付 講 座 ダ イ レ ク ト マ ケ ッ テ ィ ン グ 実 践 講 座 (旧 名 称 : 日 本 通 信 販 売 協 会 寄 付 講 座)		各2																			
				イ ン タ ー ン シ ッ プ 基 礎		イ ン タ ー ン シ ッ プ				各2																			
				イ ン タ ー ン シ ッ プ (海 外)						2																			
学科選定						情 報 シ ス テ ム 実 践 講 座 国 際 物 流 実 践 講 座 物 流 マ ネ ジ ム ン ト 実 践 講 座		ロ ジ ス テ ィ ク ス 企 業 訪 問 講 座 ロ ジ ス テ ィ ク ス 実 践 講 座 I・II		各2																			
進路支援		キ ャ リ ア 基 礎 (数 理) キ ャ リ ア 基 礎 (言 語)	各1																										
		キ ャ リ ア 発 展 (数 理) キ ャ リ ア 発 展 (言 語)																											
						職 業 選 択 論 就 職 準 備 講 座				2 1																			
教養基礎科目	言 語 や 思 想 に 関 する 領 域	哲 学 I・II 言 語 論 I・II (外) 日 本 の 思 想		論 理 学 I・II 現 代 文 章 論 I・II		教 育 学 I・II イ ス ラ ム 学 I・II		心 理 学 I・II 宗 教 学 I・II		各2	24 単 位 以上																		
	社 会 や 健 康 に 関 する 領 域	社 会 学 I・II 健 康 科 学 論 I・II 外 国 文 化 論 (ア ジ ア) I・II		経 済 学 I・II 生 涯 ス ポ ー ツ の 理 論 と 実 技 外 国 文 化 論 (西 欧) I・II		法 学 I・II ス ポ ー ツ 科 学 I・II (外) 日 本 事 情		人 文 地 理 学 I・II 日 本 文 化 論 I・II (外) 日 本 の 現 在																					
	自 然 や 環 境 に 関 する 領 域	数 学 I・II 物 質 科 学 I・II		地 球 科 学 I・II 生 命 科 学 I・II		生 態 学 I・II 自 然 地 理 学 I・II		自 然 環 境 論 I・II																					
	歴 史 や 文 学 に 関 する 領 域	文 学 (日 本 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (西 洋 史)		文 学 (外 国 文 学) I・II 民 俗 学 I・II		歴 史 学 入 門 (日 本 史) I・II 考 古 学 I・II		歴 史 学 入 門 (東 洋 史) 美 術 史 I・II																					
専 門 共 通 (注2)			会 計 学 I・II 流 通 論 I・II	各2						4 単 位 以上																			
専 門 基 礎 科 目		簿 記 論 I・II E ビ ジ ネ ス 論 I・II ビ ジ ネ ス デ ー タ ベ ー ス 演 習 ソ ー シ ャ ル メ デ ィ ア 演 習	各2	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I・II 経 営 情 報 論 事 業 戦 略 論 ビ ジ ネ ス ゲ ー ム 原 価 計 算 論 I・II		経 営 財 務 論 I・II 人 的 資 源 管 理 論 I・II 組 織 戦 略 論 企 業 論 I・II ビ ジ ネ ス プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン I・II 民 法 (財 産 法) I・II		経 営 情 報 シ ス テ ム 論 事 業 創 造 論 I・II 流 通 政 策 論 I・II 起 業 家 育 成 講 座 I・II 財 務 会 計 論 I・II 商 法 (会 社 法) I・II	各2	32 単 位 以上																			
	専 門 発 展 科 目	上 級 簿 記 論 I・II 統 計 学 概 論 I・II 経 済 デ ー タ 演 習 経 営 デ ー タ 演 習	各2	国 際 マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I・II 経 営 管 理 論 I・II 上 級 財 務 会 計 論 I・II 証 券 市 場 論 金 融 論 I・II 流 通 情 報 シ ス テ ム 論 I・II 商 法 (手 形・小 切 手 法) 企 業 会 計 法 I・II グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 A グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 C		経 営 史 I・II 管 理 会 計 論 I・II 広 告 論 I・II 監 査 論 I・II 国 際 金 融 論 I・II 経 営 学 特 殊 講 義 税 法 (法 人 税 法) 社 会 的 企 業 論 グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 B グ ロ ー バ ル ビ ジ ネ ス 英 語 D		ネ ッ ト ワ ー ク 経 営 論 消 費 者 行 動 論 I・II ロ ジ ス テ ィ ク ス 概 論 I・II ペ ン チ ャ ー フ ェ イ ナ ン ス リ ス ク マ ネ ジ ム ン ト I・II 商 法 (総 則・商 行 為 法) 知 的 財 産 法 国 際 小 売 論	各2	10 単 位 以上																			

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	
選 択 科 目	経済学 (注3)	各2	日本経済史Ⅰ・Ⅱ	各2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	各2	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	各2	産業組織論Ⅰ・Ⅱ
			西洋経済史Ⅰ・Ⅱ		財政学Ⅰ・Ⅱ		日本経済論Ⅰ・Ⅱ		国際経済論Ⅰ・Ⅱ
	流通情報学 (注4)	各2	経済学概論Ⅰ・Ⅱ	グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ	各2	通信・ネットワーク概論	各2	ヒューマンインターフェイス論	
			情報学概論Ⅰ・Ⅱ	ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ		情報応用システム論		エルゴノミクス論	
	社会学 (注5)	各2	社会学調査法	社会学調査実践法	各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ	各2	産業社会学	
			社会学調査実践法	地域社会学論		経済社会学		国際社会学	
	法学 (注6)	各2	政治学Ⅰ・Ⅱ	憲法Ⅰ・Ⅱ	各2	労働法Ⅰ・Ⅱ	各2	国際法Ⅰ・Ⅱ	
			政治学Ⅰ・Ⅱ	経済法Ⅰ・Ⅱ		法制史Ⅰ・Ⅱ		刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ	
	スポーツ 健康科学 (注7)	各2	スポーツと政治	スポーツと政治	各2	スポーツ社会学	各2	スポーツ外傷・障害と予防	
			スポーツマネジメント論	スポーツとメディア		スポーツ社会学		健康づくりとジョギング	
教養発展科目	各1	社会学倫理学Ⅰ・Ⅱ	防災科学Ⅰ・Ⅱ	各2	資源環境論Ⅰ・Ⅱ	各2	スポーツと国際協力		
		現代女性論Ⅰ・Ⅱ	歴史学特殊講義(東洋史)		歴史学特殊講義(日本史)Ⅰ・Ⅱ		スポーツ栄養学Ⅰ		
外国語	各1	英会話AⅠ・AⅡ	英会話CⅠ・CⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ	各1	スポーツボランティア論・実習		
		留学英会話Ⅰ・Ⅱ(注8)	留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)		英会話EⅠ・EⅡ		ゴルフ実習		
教職科目	各2	教育心理学論	教育心理学論	各2	視聴覚教育学	各2	ゴルフ実習		
		教育社会学概論	教育社会学概論		視聴覚教育学		ゴルフ実習		
卒業に必要な単位									124 単位以上

左記科目の中から84単位以上を履修しなければならない。(注9)

- (外) は外国人留学生の科目を示す。
 (特) 印の科目は特別奨学生の指定科目でそれ以外の学生は受講できません。
 (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡ、(外)日本語DⅠ・DⅡ、(外)日本語EⅠ・EⅡを履修しなければならない。
 (注2) 会計学Ⅰ・Ⅱまたは流通論Ⅰ・Ⅱを選択し、4単位を履修しなければならない。
 (注3) この欄の科目および教養基礎科目の〔経済学Ⅰ・Ⅱ〕から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。
 (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
 (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
 (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
 (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、申請手続きをすることで卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。また、この欄の指定された科目20単位及び経営学科指定科目(履修モデル参照)24単位を修得した場合には「スポーツマネジメントプログラム」を修了した旨の認定を行う。
 (注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
 (注9) この欄の単位数を合計すると、6単位以上+24単位以上+4単位以上+32単位以上+10単位以上=76単位以上となり、84単位以上にはならない。不足分8単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。

	ポイント	認定単位数	資格・検定試験の種類
別記1	10	1 単位	秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 アクセス検定国内3級 アクセス検定国際3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) 漢字検定準2級 ドットコムマスター-BASIC
別記2	20	2 単位	宅地建物取引士(旧名称:宅地建物取引主任者) 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 アクセス検定国内2級 アクセス検定国際2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定(ミクロ・マクロ)Aランク ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 漢字検定2級 医療事務技能審査試験 ドットコムマスターシングルスター
別記3	40	4 単位	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター アクセス検定国内準1級 アクセス検定国内1級 アクセス検定国際準1級 アクセス検定国際1級 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上)

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	
必 修 科 目	1 年 基 礎 演 習	4	2 年 基 礎 演 習	4	3 年 専 門 演 習	4	4 年 専 門 演 習	4	16単位 6単位 6単位 必修科目28単 位を履修しな ければならな い。
	教 養 諸 学 入 門 教 情 報 基 礎 I・II	各2							
	基 礎 ミ ク ロ 経 済 学 基 礎 マ ク ロ 経 済 学 現 代 経 済 入 門	各2							
選 択 必 修 科 目	外 国 語 (注1)	各1	英 語 C I・C II 英 語 D I・D II 英 語 E I・E II ド イ ツ 語 C I・C II ド イ ツ 語 D I・D II ド イ ツ 語 E I・E II フ ラ ン ス 語 C I・C II フ ラ ン ス 語 D I・D II フ ラ ン ス 語 E I・E II 中 国 語 C I・C II 中 国 語 D I・D II 中 国 語 E I・E II ス ペ イ ン 語 C I・C II ス ペ イ ン 語 D I・D II ス ペ イ ン 語 E I・E II 朝 鮮 (韓 国) 語 C I・C II 朝 鮮 (韓 国) 語 D I・D II 朝 鮮 (韓 国) 語 E I・E II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 C I・C II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 D I・D II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 E I・E II	各1	英 語 C I・C II 英 語 D I・D II 英 語 E I・E II ド イ ツ 語 C I・C II ド イ ツ 語 D I・D II ド イ ツ 語 E I・E II フ ラ ン ス 語 C I・C II フ ラ ン ス 語 D I・D II フ ラ ン ス 語 E I・E II 中 国 語 C I・C II 中 国 語 D I・D II 中 国 語 E I・E II ス ペ イ ン 語 C I・C II ス ペ イ ン 語 D I・D II ス ペ イ ン 語 E I・E II 朝 鮮 (韓 国) 語 C I・C II 朝 鮮 (韓 国) 語 D I・D II 朝 鮮 (韓 国) 語 E I・E II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 C I・C II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 D I・D II ポ ル ト ガ ル 語・ブ ラ ジ ル 語 E I・E II	各1	(外) 日 本 語 C I・C II (外) 日 本 語 D I・D II (外) 日 本 語 E I・E II	各1	1か国語を選 択し、10単位を履 修しなければ ならない。
	外 国 語 (注1)	各1	(外) 日 本 語 C I・C II (外) 日 本 語 D I・D II (外) 日 本 語 E I・E II	各1					
選 択 必 修 科 目	R K U 入 門	1	キ ャ リ ア カ ウ ン セ リ ン グ	2					4単位 以上
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン		キ ャ リ ア マ ネ ジ ム ン ト	各2	職 業 選 択 論		模 擬 組 織 経 営 演 習	2	
			情 報 シ ス テ ム 実 践 講 座 ロ ジ ス テ ィ ク ス 実 践 講 座 I・II 物 流 マ ネ ジ ム ン ト 実 践 講 座 業 界 研 究 特 別 講 座		実 践 経 営 学 講 座 国 際 物 流 実 践 講 座			各2	
	災 害 ボ ラ ン テ ィ ア I・II	各1	茨 城 県 経 営 者 協 会 寄 付 講 座 日 本 通 信 販 売 協 会 寄 付 講 座 ダ イ レ ク ト マ ケ テ ィ ン グ 実 践 講 座 (旧 名 称 : 日 本 通 信 販 売 協 会 寄 付 講 座) 業 界 研 究 特 別 講 座	2	野 村 證 券 寄 付 講 座			各2	
	海 外 研 修	2			(外) ビ ジ ネ ス 日 本 語 I・II			各1	
	キ ャ リ ア 基 礎 I・II	各1	イ ン タ ー ン シ ッ プ 基 礎		イ ン タ ー ン シ ッ プ (注 9)			各2	
			イ ン タ ー ン シ ッ プ (注 10)				4		
			イ ン タ ー ン シ ッ プ (海 外)				2		
			就 職 準 備 講 座					1	
	資 格 関 連 科 目 (資 格 一 般) (別 記 1)							各1	
資 格 関 連 科 目 (資 格 基 礎) (別 記 2)							各2		
資 格 関 連 科 目 (資 格 専 門) (別 記 3)							各4		
教 養 基 礎 科 目	哲 学 I・II 教 育 学 I・II 生 態 学 I・II 言 語 論 I・II 美 術 史 I・II イ ス ラ ム 学 I・II 民 俗 学 I・II ス ポ ー ツ 科 学 I・II (外) 日 本 事 情		論 理 学 I・II 数 学 I・II 自 然 環 境 論 I・II 文 学 (日 本 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (日 本 史) I・II 宗 教 学 I・II 考 古 学 I・II 心 と 身 体 I・II		心 理 学 I・II 情 報 環 境 論 I・II 物 質 科 学 I・II 文 学 (外 国 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (東 洋 史) 人 文 地 理 学 I・II 健 康 科 学 論 I・II (外) 日 本 の 現 在		社 会 学 I・II 地 球 科 学 I・II 生 命 科 学 I・II 現 代 文 章 論 I・II 歴 史 学 入 門 (西 洋 史) 自 然 地 理 学 I・II 生 涯 ス ポ ー ツ の 理 論 と 実 技 (外) 日 本 の 思 想	各2	24単位 以上
	統 計 学 概 論 I・II 資 本 主 義 経 済 論 I・II 経 済 地 理 学 I・II 日 本 経 済 史 I・II	各2	ミ ク ロ 経 済 学 I・II マ ク ロ 経 済 学 I・II 日 本 経 済 論 I・II 日 本 経 済 史 I・II 公 共 経 済 学 I・II	財 政 学 I・II 金 融 論 I・II 社 会 保 障 論 I・II 西 洋 経 済 史 I・II	国 際 経 済 論 I・II 産 業 組 織 論 I・II 交 通 論 I・II 労 働 経 済 論 I・II	各2	36単位 以上		
選 択 科 目	専 門 発 展 科 目	各2	経 済 政 策 論 I・II 計 量 経 済 学 I・II 経 済 デ ー タ 解 析 経 営 デ ー タ 解 析 企 業 論 I・II 財 務 会 計 論 I・II 財 務 英 語 I・II 消 費 者 行 動 論 I・II 経 済 学 特 殊 講 義 知 的 財 産 法	食 料・農 業 経 済 学 I・II 国 際 金 融 論 I・II 情 報 経 済 論 I・II 人 口 論 I・II 証 券 市 場 論 上 級 財 務 会 計 論 I・II 広 告 論 I・II 行 政 法 I・II 民 法 (財 産 法) I・II 金 融 取 引 法	地 域 経 済 論 I・II 地 方 財 政 論 I・II 産 業 立 地 論 I・II 観 光 地 理 学 ベン チャー キャピタル論 管 理 会 計 論 I・II 国 際 関 係 論 I・II リ ス ク 管 理 論 I・II 租 税 法 I・II 経 済 発 展 論 I・II ビ ジ ネ ス プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン I・II	各2			
	学 部 共 通 科 目	各2	事 業 創 造 論 I・II 人 的 資 源 管 理 論 I・II 事 業 戦 略 論 流 通 史 I・II マ ケ テ ィ ン グ 論 I・II 原 価 計 算 論 I・II 流 通 政 策 論 I・II 経 営 情 報 論 経 営 財 務 論 I・II 組 織 戦 略 論 経 営 情 報 シ ス テ ム 論	経 営 史 I・II E コ マ ー ス 論 ベン チャー ビ ジ ネ ス 論 ネ ッ ト ワ ー ク 経 営 論 E ビ ジ ネ ス 概 論 上 級 簿 記 論 I・II 監 査 論 I・II		各2			

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	
選 択 科 目	学部共通科目	流通情報学(注4)	各2	グローバルロジスティクス論I・II ロジスティクスシステム論I・II ロジスティクスビジネス論I・II 物流ターミナル論I・II	各2	通信・ネットワーク概論 情報応用システム論 ソフトウェア概論I・II 情報科学I・II	各2	ヒューマンインターフェイス論 エルゴノミクス論 流通情報システム論I・II 災害ロジスティクス論	左記科目の中から86単位以上を履修しなければならない。(注2)
		社会学(注5)	各2	家族社会学I・II 地域社会学I・II 教育社会学I・II 社会調査法 社会調査実践法 児童・家庭福祉論 老人福祉論 公的扶助論	各2	経済社会学 開発社会学 余暇社会学 観光心理学 文化人類学 グローバル化と文化 社会福祉原論I・II 障害者福祉論	各2	産業社会学 国際社会学 アジア社会と観光 社会心理学 対人関係論 地域福祉論I・II 介護福祉論 福祉行財政と福祉計画論 防災社会論	
		法学(注6)	各2	憲法I・II 経済法I・II 刑法(総論)I・II	各2	労働法I・II 国際法I・II	各2	商法(会社法)I・II 法制史I・II	
		スポーツ健康科学(注7)	各2	スポーツと政治 スポーツマネジメント スポーツとメディア スポーツ心理学 コーチング論	各2	スポーツと国際関係 スポーツ社会学 発育発達老の理論・実習 トレーニング論	各2	スポーツと文化 スポーツと社会学 スポーツ栄養学I スポーツ外傷・障害と予防 健康づくりとジョギング	
	教養発展科目	社会学倫理学I・II 現代女性論I・II	各2	防 災 科 学 I ・ II メディア論I・II 歴史学特殊講義(東洋史) 歴史学特殊講義(西洋史)	各2	日本文化論I・II 資源環境論I・II 歴史学特殊講義(日本史)I・II 英書講読I・II 総合教養講座I・II	各2	外国文化論I・II	
		英会話AⅠ・AⅡ	各1	英会話CⅠ・CⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ	各1		
	外国語	留学英会話I・II(注8) 留学中国語会話I・II(注8)	各1	選択ドイツ語初級I・II 選択朝鮮(韓国)語初級I・II	各1	選択フランス語初級I・II 選択ポルトガル語・ブラジル語初級I・II	各1	選択中国語初級I・II	
		選択英語初級I・II 選択スペイン語初級I・II	各1	選択英語中級I・II 選択中国語中級I・II 選択ポルトガル語・ブラジル語中級I・II	各1	選択ドイツ語中級I・II 選択スペイン語中級I・II	各1	選択フランス語中級I・II 選択朝鮮(韓国)語中級I・II	
		選択英語上級I・II 選択ドイツ語上級I・II 選択中国語上級I・II 選択ポルトガル語・ブラジル語上級I・II	各1	選択フランス語上級I・II 選択スペイン語上級I・II	各1		各1		
	体 育	選択スポーツトレーニング実技I・II	各1		各1		各1		
教職科目	教師論 教育原理 教育心理学 教育社会学概論 道德教育の研究	各2	教育課程論 特別活動の研究 生徒指導の研究 教育相談	各2	視聴覚教育 教育方法学	各2			
卒業に必要な単位									124単位以上

- (外)は外国人留学生の科目を示す。
 (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CI・CⅡ、(外)日本語DI・DⅡ、(外)日本語EI・EⅡを履修しなければならない。
 (注2) この欄の単位数を合計すると、4単位以上+24単位以上+36単位以上=64単位以上となり、86単位以上にはならない。不足分の22単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
 (注3) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
 (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
 (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
 (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
 (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。
 (注8) 外国人留学生は「留学英会話I・II」及び「留学中国語会話I・II」を履修できない。
 (注9) 2012年度入学生に適用する。
 (注10) 2010～2011年度入学生に適用する。

別記1	秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 アクセス検定国内3級 アクセス検定国際3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) 漢字検定準2級 ドットコムマスター-BASIC
別記2	宅地建物取引士(旧名称:宅地建物取引主任者) 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 アクセス検定国内2級 アクセス検定国際2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定(マイクロ・マクロ)Aランク ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 漢字検定2級 医療事務技能審査 ドットコムマスターシングルスター
別記3	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター アクセス検定国内準1級 アクセス検定国内1級 アクセス検定国際準1級 アクセス検定国際1級 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上)

		1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要				
		授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数					
必修科目		1年基礎演習	4	2年基礎演習	4	3年専門演習	4	4年専門演習	4	16単位	必修科目34単位を履修しなければならない。			
		教養諸学入門 情報基礎Ⅰ・Ⅱ	各2							6単位				
		経営学総論Ⅰ・Ⅱ 会計学総論Ⅰ・Ⅱ 流通概論Ⅰ・Ⅱ	各2							12単位				
外国語 (注1)		英語AⅠ・AⅡ 英語BⅠ・BⅡ ドイツ語AⅠ・AⅡ ドイツ語BⅠ・BⅡ フランス語AⅠ・AⅡ フランス語BⅠ・BⅡ 中国語AⅠ・AⅡ 中国語BⅠ・BⅡ スペイン語AⅠ・AⅡ スペイン語BⅠ・BⅡ 朝鮮(韓国)語AⅠ・AⅡ 朝鮮(韓国)語BⅠ・BⅡ ポルトガル語・ブラジル語AⅠ・AⅡ ポルトガル語・ブラジル語BⅠ・BⅡ	各1	英語CⅠ・CⅡ 英語DⅠ・DⅡ 英語EⅠ・EⅡ ドイツ語CⅠ・CⅡ ドイツ語DⅠ・DⅡ ドイツ語EⅠ・EⅡ フランス語CⅠ・CⅡ フランス語DⅠ・DⅡ フランス語EⅠ・EⅡ 中国語CⅠ・CⅡ 中国語DⅠ・DⅡ 中国語EⅠ・EⅡ スペイン語CⅠ・CⅡ スペイン語DⅠ・DⅡ スペイン語EⅠ・EⅡ 朝鮮(韓国)語CⅠ・CⅡ 朝鮮(韓国)語DⅠ・DⅡ 朝鮮(韓国)語EⅠ・EⅡ ポルトガル語・ブラジル語CⅠ・CⅡ ポルトガル語・ブラジル語DⅠ・DⅡ ポルトガル語・ブラジル語EⅠ・EⅡ	各1						1カ国語を選択し、10単位を履修しなければならない。			
		(外)日本語AⅠ・AⅡ (外)日本語BⅠ・BⅡ	各1	(外)日本語CⅠ・CⅡ (外)日本語DⅠ・DⅡ (外)日本語EⅠ・EⅡ	各1									
	選択必修科目	キャリア科目	R K U 入門	1	キャリアアカウンティング	2							4単位以上	
			キャリアデザイン		キャリアマネジメント	各2	職業選択論			2				
					情報システム実践講座 ロジスティクス実践講座Ⅰ・Ⅱ 物流マネジメント実践講座		実践経営学講座 国際物流実践講座		模擬組織経営演習			各2		
			災害ボランティアⅠ・Ⅱ	各1	茨城県経営者協会寄付講座 日本通関士協会Ⅰ・Ⅱ 全国通関士協会寄付講座 ダイレクトマーケティング実践講座 (旧名称：日本通関士協会寄付講座) 業界研究特別講座	2	野村證券寄付講座					各2		
			海外研修	2			(外)ビジネス日本語Ⅰ・Ⅱ					各1		
			キャリア基礎Ⅰ・Ⅱ	各1	インターンシップ基礎		インターンシップ(注9)					各2		
					キャリア基礎(実践講座)Ⅰ・Ⅱ	各1			インターンシップ(注10)			4		
									インターンシップ(海外)			2		
				資格関連科目(資格一般)(別記1)				就職準備講座		1				
				資格関連科目(資格基礎)(別記2)						各1				
		資格関連科目(資格専門)(別記3)						各2						
								各4						
教養基礎科目		哲学Ⅰ・Ⅱ 教育学Ⅰ・Ⅱ 生態学Ⅰ・Ⅱ 言語論Ⅰ・Ⅱ 美術史Ⅰ・Ⅱ イスラム学Ⅰ・Ⅱ 民俗学Ⅰ・Ⅱ スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ (外)日本事情		論理学Ⅰ・Ⅱ 数学Ⅰ・Ⅱ 自然環境論Ⅰ・Ⅱ 文学(日本文学)Ⅰ・Ⅱ 歴史学入門(日本史)Ⅰ・Ⅱ 宗教学Ⅰ・Ⅱ 考古学Ⅰ・Ⅱ 心と身体Ⅰ・Ⅱ		心理学Ⅰ・Ⅱ 情報環境論Ⅰ・Ⅱ 物質科学Ⅰ・Ⅱ 文学(外国文学)Ⅰ・Ⅱ 歴史学入門(東洋史) 人文地理学Ⅰ・Ⅱ 健康科学論Ⅰ・Ⅱ (外)日本の現在		社会学Ⅰ・Ⅱ 地球科学Ⅰ・Ⅱ 生命科学Ⅰ・Ⅱ 現代文章論Ⅰ・Ⅱ 歴史学入門(西洋史) 自然地理学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツの理論と実技 (外)日本の思想		各2	24単位以上			
	専門基礎科目		データベース演習 簿記論Ⅰ・Ⅱ 事業創造論Ⅰ・Ⅱ インターネット演習 経済データ解析 経営データ解析	各2	マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 流通史Ⅰ・Ⅱ 民法(財産法)Ⅰ・Ⅱ 財務会計論Ⅰ・Ⅱ		経営財務論Ⅰ・Ⅱ 経営情報システム論 事業戦略論 流通政策論Ⅰ・Ⅱ 商法(会社法)Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ		経営管理論Ⅰ・Ⅱ 商業経営論Ⅰ・Ⅱ 組織戦略論 ビジネスプレゼンテーションⅠ・Ⅱ	各2	32単位以上			
		専門発展科目		ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ 上級簿記論Ⅰ・Ⅱ 統計学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	生産管理論 市場調査論Ⅰ・Ⅱ ネットワーク経営論 証券市場論 ベンチャーキャピタル論 管理会計論Ⅰ・Ⅱ 生産情報システム論 国際物流実務論Ⅰ・Ⅱ 時事英語Ⅰ・Ⅱ 商法(総則・商行為法) 企業会計法Ⅰ・Ⅱ		企業論Ⅰ・Ⅱ 国際マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 広告論Ⅰ・Ⅱ ベンチャービジネス論 金融論Ⅰ・Ⅱ リスク管理論Ⅰ・Ⅱ 上級財務会計論Ⅰ・Ⅱ O R 基礎論 経済地理学Ⅰ・Ⅱ 商法(手形・小切手法) 租税法Ⅰ・Ⅱ		経営史Ⅰ・Ⅱ 消費者行動論Ⅰ・Ⅱ Eコマース論 Eビジネス概論 国際金融論Ⅰ・Ⅱ 監査論Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ 物流計画論 経営学特殊講義 知的財産法 情報科学Ⅰ・Ⅱ	各2			
			学部共通科目	経済学(注3)	経済学概論Ⅰ・Ⅱ 日本経済史Ⅰ・Ⅱ	各2	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 日本経済論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ		マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 経済学史Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ		産業組織論Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 交 通 論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ	各2		

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	
選 択 科 目	流通 情報学 (注4)	情報学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ 物流ターミナル論Ⅰ・Ⅱ	各2	通信・ネットワーク概論 情報応用システム論 ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ	各2	ヒューマンインターフェイス論 エルゴノミクス論 災害ロジスティクス論	左記科目の中から80単位以上を履修しなければならない。 (注2)
		社会学 (注5)	社会学概論	各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学Ⅰ・Ⅱ 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 社会調査法 社会調査実践論 児童・家庭福祉論 老人福祉論 公的扶助論	各2	経済社会学 開発社会学 余暇社会学 観光心理学 文化人類学 グローバル化と文化 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 障害者福祉論	各2	
	法学 (注6)		法学Ⅰ・Ⅱ 政治学Ⅰ・Ⅱ	各2	憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ	各2	労働法Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ	各2	
		スポーツ 健康科学 (注7)		各2	スポーツと政治 スポーツマネジメント論 スポーツとメディア スポーツ心理学 コーチング論	各2	スポーツと国際関係 スポーツ社会学 発達発達老化の理論・実習 トレーニング論	各2	
	社会学 (注5)		社会倫理学Ⅰ・Ⅱ 現代女性論Ⅰ・Ⅱ	各2	防災科学Ⅰ・Ⅱ メディア論Ⅰ・Ⅱ	各2	日本文化論Ⅰ・Ⅱ 資源環境論Ⅰ・Ⅱ	各2	
		英会話 AⅠ・AⅡ	英会話AⅠ・AⅡ	各1	英会話CⅠ・CⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ	各1	
	留学 英会話Ⅰ・Ⅱ(注8) 留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)			各1		各1		各1	
		外国語	選択英語初級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ	各1	
								選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ	
	体 育	選択スポーツトレーニング実技Ⅰ・Ⅱ	各1						
教師 教育心理学 教育社会学概論 道德教育の研究		各2	教育課程論 特別活動の研究 生徒指導の研究 教育相談	各2	視聴覚教育学 教育方法学	各2			
卒業に必要な単位									124 単位以上

(外)は外国人留学生の科目を示す。

(注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CⅠ・CⅡ、(外)日本語DⅠ・DⅡ、(外)日本語EⅠ・EⅡを履修しなければならない。

(注2) この欄の単位数を合計すると、4単位以上+24単位以上+32単位以上=60単位以上となり、80単位以上にはならない。不足分の20単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。

(注3) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。

(注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。

(注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。

(注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。

(注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。

(注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。

(注9) 2012年度入学生に適用する。

(注10) 2010～2011年度入学生に適用する。

別記1	秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 アクセス検定国内3級 アクセス検定国際3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) 漢字検定準2級 ドットコムマスター-BASIC
別記2	宅地建物取引士(旧名称:宅地建物取引主任者) 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 アクセス検定国内2級 アクセス検定国際2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定(ミクロ・マクロ)Aランク ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 漢字検定2級 医療事務技能審査 ドットコムマスターシングルスター
別記3	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター アクセス検定国内準1級 アクセス検定国内1級 アクセス検定国際準1級 アクセス検定国際1級 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上)

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要	
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数		
必修科目	1 年 基 礎 演 習	4	2 年 基 礎 演 習	4	3 年 専 門 演 習	4	4 年 専 門 演 習	4	16単位 必修科目28単位を履修しなければならない。	
	教 養 諸 学 入 門 教 育 情 報 基 礎 I・II	各2						6単位		
	経 済 学 入 門 I・II 現 代 経 済 入 門	各2						6単位		
選 択 科 目	外 国 語 (注1)	各1	英 語 C I・C II 英 語 D I・D II 英 語 E I・E II ドイツ語 C I・C II ドイツ語 D I・D II ドイツ語 E I・E II フランス語 C I・C II フランス語 D I・D II フランス語 E I・E II 中国語 C I・C II 中国語 D I・D II 中国語 E I・E II スペイン語 C I・C II スペイン語 D I・D II スペイン語 E I・E II 朝鮮(韓国)語 C I・C II 朝鮮(韓国)語 D I・D II 朝鮮(韓国)語 E I・E II ポルトガル語・ブラジル語 C I・C II ポルトガル語・ブラジル語 D I・D II ポルトガル語・ブラジル語 E I・E II	各1					1か国語を選択し、10単位を履修しなければならない。	
	(外) 日 本 語 A I・A II (外) 日 本 語 B I・B II	各1	(外) 日 本 語 C I・C II (外) 日 本 語 D I・D II (外) 日 本 語 E I・E II	各1						
必 修 科 目	R K U 入 門	1							4単位以上	
	キ ャ リ ア デ ザ イ ン キ ャ リ ア マ ネ ジ ム ン ト	各2	キ ャ リ ア ア カ ウ ン セ リ ン グ	2		実 践 経 営 学 講 座 模 擬 組 織 経 営 演 習	各2			
			情 報 シ ス テ ム 実 践 講 座 ロジスティクス実践講座 I・II 物 流 マ ネ ジ ム ン ト 実 践 講 座 国 際 物 流 実 践 講 座	各2						
	災 害 ボ ラ ン テ ィ ア I・II 海 外 研 修	各1 2	茨 城 県 経 営 者 協 会 寄 附 講 座	2	日 本 通 運 寄 附 講 座 I・II 全 国 通 運 連 盟 寄 附 講 座		野 村 證 券 寄 附 講 座	各2 各1		
	キ ャ リ ア 基 礎 I・II	各1	キ ャ リ ア 基 礎 (実 践 講 座) I・II	各1		(外) ビジネス日本語 I・II		各1		
						イ ン タ ー ナ シ ョ ン シ ョ ン プ		4		
						イ ン タ ー ナ シ ョ ン シ ョ ン プ (海 外)		2		
						就 職 準 備 講 座		1		
								各1		
								各2		
							各4			
教 養 基 礎 科 目	哲 学 I・II 教 育 学 I・II 生 態 学 I・II 言 語 論 I・II 美 術 史 I・II イ ス ラ ム 学 I・II 民 俗 学 I・II ス ポ ー ツ 科 学 I・II (外) 日 本 事 情		論 理 学 I・II 数 学 I・II 自 然 環 境 論 I・II 文 学 (日 本 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (日 本 史) I・II 宗 教 学 I・II 考 古 学 I・II 心 と 身 体 I・II		心 理 学 I・II 情 報 環 境 論 I・II 物 質 科 学 I・II 文 学 (外 国 文 学) I・II 歴 史 学 入 門 (東 洋 史) 人 文 地 理 学 I・II 健 康 科 学 論 I・II (外) 日 本 の 現 在		社 会 学 I・II 地 球 科 学 I・II 生 命 科 学 I・II 現 代 文 章 論 I・II 歴 史 学 入 門 (西 洋 史) 自 然 地 理 学 I・II 生 涯 ス ポ ー ツ の 理 論 と 実 技 (外) 日 本 の 思 想		各2	24単位以上
	統 計 学 概 論 I・II 資 本 主 義 経 済 論 I・II 経 済 地 理 学 I・II 日 本 経 済 史 I・II	各2	ミ ク ロ 経 済 学 I・II マ ク ロ 経 済 学 I・II 日 本 経 済 論 I・II 経 済 学 特 殊 講 義 公 共 経 済 学 I・II		財 政 学 I・II 金 融 論 I・II 社 会 保 障 論 I・II 西 洋 経 済 史 I・II		国 際 経 済 論 I・II 産 業 組 織 論 I・II 交 通 論 I・II 労 働 経 済 論 I・II	各2	36単位以上	
選 択 科 目	専 門 発 展 科 目		経 済 政 策 論 I・II 計 量 経 済 学 I・II 経 済 デ ー タ 解 析 経 営 デ ー タ 解 析 企 業 論 I・II 財 務 会 計 論 I・II 時 事 英 語 I・II 消 費 者 行 動 論 I・II 経 済 学 特 殊 講 義 知 的 財 産 法		食 料・農 業 経 済 学 I・II 国 際 金 融 論 I・II 情 報 経 済 論 I・II 人 口 論 I・II 証 券 市 場 論 上 級 財 務 会 計 論 I・II 広 告 論 I・II 行 政 法 I・II 民 法 (財 産 法) I・II 金 融 取 引 法	地 域 経 済 論 I・II 地 方 財 政 論 I・II 産 業 立 地 論 I・II 観 光 地 理 学 ペ ン チ ャ ー キ ャ ビ タ ル 論 管 理 会 計 論 I・II 国 際 関 係 論 I・II リ ス ク 管 理 論 I・II 租 税 法 I・II 経 済 発 展 論 II		各2		
	学 部 共 通 科 目	経 営 学 (注3) 経 営 学 総 論 I・II 流 通 概 論 I・II 簿 記 論 I・II	事 業 創 造 論 I・II 人 的 資 源 管 理 論 I・II 事 業 戦 略 論 流 通 史 I・II マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I・II 原 価 計 算 論 I・II 流 通 政 策 論 I・II 経 営 情 報 論 経 営 財 務 論 I・II 組 織 戦 略 論 経 営 情 報 シ ス テ ム 論		経 営 史 I・II エ コ マ ー ス 論 ペ ン チ ャ ー ビ ジ ネ ス 論 ネットワーク 経 営 論 E ビ ジ ネ ス 概 論 上 級 簿 記 論 I・II 監 査 論 I・II		各2			

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要
	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数	
選 択 科 目	流通情報学(注4)	ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ 情報学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ 物流ターミナル論Ⅰ・Ⅱ	各2	通信・ネットワーク概論 情報応用システム論 ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ 情報科学Ⅰ・Ⅱ	各2	ヒューマンインターフェイス論 エルゴノミクス論 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ 災害ロジスティクス論	左記科目の中から86単位以上を履修しなければならない。(注2)
	社会学(注5)	社会学概論	各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学Ⅰ・Ⅱ 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 社会調査法 社会調査実践法 児童・家庭福祉論 老人福祉論 公的扶助論	各2	経済社会学 開発社会学 余暇社会学 観光心理学 文化人類学 グローバル化と文化 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 障害者福祉論	各2	産業社会学 国際社会学 アジア社会と観光 社会心理学 対人関係論 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 介護福祉論 福祉行財政と福祉計画論 防災社会論	
	法学(注6)	法学Ⅰ・Ⅱ 政治学Ⅰ・Ⅱ	各2	憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ	各2	労働法Ⅰ・Ⅱ 国際法Ⅰ・Ⅱ	各2	商法(会社法)Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ	
	スポーツ健康科学(注7)		各2	スポーツ文化論 スポーツトレーニング論 スポーツ・ジェンダー論(男・女) スポーツマネジメント論 スポーツジャーナリズム論	各2	コーチ学 発育・発達論 スポーツ外傷・障害と予防 健康づくりとジョギング スポーツ産業論	各2	スポーツと法 スポーツと栄養Ⅰ スポーツ心理学 スポーツメディア論 スポーツと余暇	
		社会倫理学Ⅰ・Ⅱ 現代女性論Ⅰ・Ⅱ	各2	防災科学Ⅰ・Ⅱ メディア論Ⅰ・Ⅱ 歴史学特殊講義(東洋史) 歴史学特殊講義(西洋史)	各2	日本文化論Ⅰ・Ⅱ 資源環境論Ⅰ・Ⅱ 歴史学特殊講義(日本史)Ⅰ・Ⅱ 英書講読Ⅰ・Ⅱ 総合教養講座Ⅰ・Ⅱ	各2	外国文化論Ⅰ・Ⅱ	
		英会話AⅠ・AⅡ	各1	英会話CⅠ・CⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ	各1		
		留学英会話Ⅰ・Ⅱ(注8) 留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)	各1		各1		各1		
		選択英語初級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ	
			各1	選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語中級Ⅰ・Ⅱ	
		体育	各1	選択スポーツトレーニング実技Ⅰ・Ⅱ	各1		各1		
教職科目	教師論 教育原理 教育心理学 教育社会学概論 道德教育の研究	各2	教育課程論 特別活動の研究 生徒指導の研究 教育相談	各2	視聴覚教育 教育方法学	各2			
卒業に必要な単位									124単位以上

- (外)は外国人留学生の科目を示す。
 (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CI・CⅡ、(外)日本語DI・DⅡ、(外)日本語EI・EⅡを履修しなければならない。
 (注2) この欄の単位数を合計すると、4単位以上+24単位以上+36単位以上=64単位以上となり、86単位以上にはならない。不足分の22単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
 (注3) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「経営学」を修了した旨の認定を行う。
 (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
 (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
 (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
 (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。
 (注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。

別記1	秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 アクセス検定国内3級 アクセス検定国際3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル)/MCAS(Excel) 漢字検定準2級 ドットコムマスター-BASIC
別記2	宅地建物取引士(旧名称:宅地建物取引主任者) 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 アクセス検定国内2級 アクセス検定国際2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 経済学検定(B/B'ランク) 経済学検定(ミクロ・マクロ)Aランク ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 漢字検定2級 医療事務技能審査 ドットコムマスター-シングルスター
別記3	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター アクセス検定国内準1級 アクセス検定国内1級 アクセス検定国際準1級 アクセス検定国際1級 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上)

	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数		
必修科目	1年基礎演習	4	2年基礎演習	4	3年専門演習	4	4年専門演習	4	16単位 6単位 12単位 必修科目34単位を履修しなければならない。	
	教養諸学入門 情報基礎 I・II	各2								
	経営学総論 I・II 会计学総論 I・II 流通概論 I・II	各2								
選 択 必 修 科 目	外国語 (注1)	英語 A I・A II 英語 B I・B II ドイツ語 A I・A II ドイツ語 B I・B II フランス語 A I・A II フランス語 B I・B II 中国語 A I・A II 中国語 B I・B II スペイン語 A I・A II スペイン語 B I・B II 朝鮮(韓国)語 A I・A II 朝鮮(韓国)語 B I・B II ポルトガル語・ブラジル語 A I・A II ポルトガル語・ブラジル語 B I・B II	各1	英語 C I・C II 英語 D I・D II 英語 E I・E II ドイツ語 C I・C II ドイツ語 D I・D II ドイツ語 E I・E II フランス語 C I・C II フランス語 D I・D II フランス語 E I・E II 中国語 C I・C II 中国語 D I・D II 中国語 E I・E II スペイン語 C I・C II スペイン語 D I・D II スペイン語 E I・E II 朝鮮(韓国)語 C I・C II 朝鮮(韓国)語 D I・D II 朝鮮(韓国)語 E I・E II ポルトガル語・ブラジル語 C I・C II ポルトガル語・ブラジル語 D I・D II ポルトガル語・ブラジル語 E I・E II	各1				1カ国語を選択し、10単位を履修しなければならない。	
		(外) 日本語 A I・A II (外) 日本語 B I・B II	各1	(外) 日本語 C I・C II (外) 日本語 D I・D II (外) 日本語 E I・E II	各1					
		R K U 入 門	1							
		キャリアデザイン キャリアマネジメント	各2	キャリアアカウンティング	2					
				情報システム実践講座 ロジスティクス実践講座 I・II 物流マネジメント実践講座 国際物流実践講座	各2	実践経営学講座		模擬組織経営演習		各2
		災害ボランティア I・II 海外研修	各1 2	茨城県経営者協会寄付講座	2	日本通関士講座 I・II 全国通関士連盟寄付講座		野村証券寄付講座		各2
		キャリア基礎 I・II	各1	キャリア基礎(実践講座) I・II	各1	(外) ビジネス日本語 I・II インターンシップ インターンシップ(海外) 就職準備講座				各1 4 2 1
		資格関連科目(資格一般)		(別記1)						各1
		資格関連科目(資格基礎)		(別記2)						各2
		資格関連科目(資格専門)		(別記3)						各4
選 択 科 目	専 門 基 礎 科 目	データベース演習 簿記論 I・II 事業創造論 I・II インターネット演習 経済データ解析 経営データ解析	各2	マーケティング論 I・II 経営情報論 人的資源管理論 I・II 流通史 I・II 民法(財産法) I・II 財務会計論 I・II		経営財務論 I・II 経営情報システム論 事業戦略論 流通政策論 I・II 商法(会社法) I・II 原価計算論 I・II		経営管理論 I・II 商業経営論 I・II 組織戦略論 ビジネスプレゼンテーション I・II	各2	32単位以上
		哲学 I・II 教育学 I・II 生態学 I・II 言語論 I・II 美術史 I・II イスラム学 I・II 民俗学 I・II スポーツ科学 I・II (外) 日本事情		論理学 I・II 数学 I・II 自然環境論 I・II 文学(日本文学) I・II 歴史学入門(日本史) I・II 宗教学 I・II 考古学 I・II 心と身体 I・II		心理学 I・II 情報環境論 I・II 物質科学 I・II 文学(外国文学) I・II 歴史学入門(東洋史) 人文地理学 I・II 健康科学論 I・II (外) 日本の現在		社会学 I・II 地球科学 I・II 生命科学 I・II 現代文章論 I・II 歴史学入門(西洋史) 自然地理学 I・II 生涯スポーツの理論と実技 (外) 日本の思想	各2	24単位以上
選 択 科 目	専 門 発 展 科 目	ロジスティクス概論 I・II 上級簿記論 I・II 統計学概論 I・II	各2	生産管理論 市場調査論 I・II ネットワーク経営論 証券市場論 ベンチャーキャピタル 管理会計論 I・II 生産情報システム論 国際物流実務論 I・II 時事英語 I・II 商法(総則・商行為法) 企業会計法 I・II		企業論 I・II 国際マーケティング論 I・II 広告論 I・II ベンチャービジネス論 金融論 I・II リスク管理論 I・II 上級財務会計論 I・II OR基礎論 経済地理学 I・II 商法(手形・小切手法) 租税法 I・II		経営史 I・II 消費者行動論 I・II Eコマース論 Eビジネス概論 国際金融論 I・II 監査論 I・II 流通情報システム論 I・II 物流計画論 経営学特殊講義 知的財産法 情報科学 I・II	各2	
		学部共通科目 経済学(注3) 経済学概論 I・II 日本経済史 I・II	各2	ミクロ経済学 I・II 財政学 I・II 日本経済論 I・II 社会保障論 I・II		マクロ経済学 I・II 経済学史 I・II 国際経済論 I・II		産業組織論 I・II 西洋経済史 I・II 交 通 論 I・II 労働経済論 I・II	各2	

		1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年		摘 要		
		授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数			
選 択 科 目	学部共通科目	流通情報学(注4)	各2	グローバルロジスティクス論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスシステム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクスビジネス論Ⅰ・Ⅱ 物流ターミナル論Ⅰ・Ⅱ	各2	通信・ネットワーク概論 情報応用システム論 ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ	各2	ヒューマンインターフェイス論 エルゴノミクス論 災害ロジスティクス論	各2	左記科目の中から80単位以上を履修しなければならない。(注2)		
		社会学(注5)	各2	家族社会学Ⅰ・Ⅱ 地域社会学Ⅰ・Ⅱ 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 社会調査法 社会調査実践論 児童・家庭福祉論 老人福祉論 公的扶助論	各2	経済社会学 開発社会学 余暇社会学 観光心理学 文化人類学 グローバル化と文化 社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 障害者福祉論	各2	産業社会学 国際社会学 アジア社会と観光社会学 社会心理学 対人関係学 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ 介護福祉論 福祉行財政と福祉計画論 防災社会学	各2			
	法学(注6)	各2	法学Ⅰ・Ⅱ 政治学Ⅰ・Ⅱ	各2	憲法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ	各2	労働法Ⅰ・Ⅱ 法制史Ⅰ・Ⅱ	各2	国際法Ⅰ・Ⅱ 刑法(総論)Ⅰ・Ⅱ			各2
	スポーツ健康科学(注7)	各2	スポーツ文化論 スポーツトレーニング論 スポーツ・ジェンダー論(男・女) スポーツマネジメント論 スポーツジャーナリズム論	各2	コーチ学 発育・発達論 スポーツ外傷・障害と予防 健康づくりとジョギング スポーツ産業論	各2	スポーツと法 スポーツと栄養学 スポーツ心理学 スポーツメディア論 スポーツと余暇	各2	各2			
	教養発展科目	社会倫理学Ⅰ・Ⅱ 現代女性論Ⅰ・Ⅱ	各1	防災科学Ⅰ・Ⅱ メディア論Ⅰ・Ⅱ	各1	日本文化論Ⅰ・Ⅱ 資源環境論Ⅰ・Ⅱ	各1	外国文化論Ⅰ・Ⅱ	各1			各1
		英会話AⅠ・AⅡ	各1	英会話CⅠ・CⅡ	各1	英会話EⅠ・EⅡ	各1	各1	各1			
		留学英会話Ⅰ・Ⅱ(注8) 留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ(注8)	各1	各1	各1	各1	各1	各1	各1			
	外国語	選択英語初級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語初級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択フランス語初級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語初級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択中国語初級Ⅰ・Ⅱ	各1			
		選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択英語中級Ⅰ・Ⅱ 選択中国語中級Ⅰ・Ⅱ 選択ポルトガル語・ブラジル語中級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択ドイツ語中級Ⅰ・Ⅱ 選択スペイン語中級Ⅰ・Ⅱ	各1	選択フランス語中級Ⅰ・Ⅱ 選択朝鮮(韓国)語中級Ⅰ・Ⅱ	各1			
	体育	選択スポーツトレーニング実技Ⅰ・Ⅱ	各1	各1	各1	各1	各1	各1	各1			
教職科目	教師論 教育心理学 教育社会学概論 道徳教育の研究	各2	教育課程論 特別活動の研究 生徒指導の研究 教育相談	各2	視聴覚教育学 教育方法学	各2	各2	各2				
卒業に必要な単位										124単位以上		

- (外)は外国人留学生の科目を示す。
 (注1) 1学年、2学年を通じて同じ外国語を履修しなければならない。日本語を母語としない外国人留学生は、1学年で(外)日本語AⅠ・AⅡ、(外)日本語BⅠ・BⅡ、2学年で(外)日本語CI・CⅡ、(外)日本語DI・DⅡ、(外)日本語EI・EⅡを履修しなければならない。
 (注2) この欄の単位数を合計すると、4単位以上+24単位以上+32単位以上=60単位以上となり、80単位以上にはならない。不足分の20単位は、この欄の授業科目から自由に選択して履修すること。
 (注3) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「経済学」を修了した旨の認定を行う。
 (注4) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「流通情報学」を修了した旨の認定を行う。
 (注5) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「社会学」を修了した旨の認定を行う。
 (注6) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「法学」を修了した旨の認定を行う。
 (注7) この欄から20単位以上を修得した場合には、卒業時に副専攻「スポーツ健康科学」を修了した旨の認定を行う。
 (注8) 外国人留学生は「留学英会話Ⅰ・Ⅱ」及び「留学中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。

別記1	秘書技能検定準1級 秘書技能検定1級 簿記検定3級 アクセス検定国内3級 アクセス検定国際3級 販売士2級 秘書技能検定2級 話しことば検定3級 話しことば検定2級 日商PC(文書作成)3級 日商PC(データ活用)3級 日商PC(プレゼン資料作成)3級 MOS(スペシャリストレベル) / MCAS(Word) MOS(スペシャリストレベル) / MCAS(Excel) 漢字検定準2級 ドットコムマスター-BASIC
別記2	宅地建物取引士(旧名称:宅地建物取引主任者) 簿記検定1級 販売士1級 簿記検定2級 アクセス検定国内2級 アクセス検定国際2級 国内旅行業務取扱管理者 話しことば検定1級 福祉住環境コーディネーター2級 日商PC(文書作成)2級 日商PC(データ活用)2級 日商PC(プレゼン資料作成)2級 経済学検定(B/B+ランク) 経済学検定(マイクロ・マクロ)Aランク ファイナンシャルプランナー3級 ITパスポート 漢字検定2級 医療事務技能審査 ドットコムマスター-シングルスター
別記3	社会保険労務士 行政書士 司法書士 公認会計士 税理士(1科目のみ) 通関士 初級システムアドミニストレーター アクセス検定国内準1級 アクセス検定国内1級 アクセス検定国際準1級 アクセス検定国際1級 総合旅行業務取扱管理者 基本情報技術者試験 ファイナンシャルプランナー2級 経済学検定(Aランク以上)

履修の手引

履修の手引

この履修要綱は、基本的に春学期入学の学生を対象としたものです。秋学期入学の学生は、別の資料も参照してください。

1. セメスター制

本学では、セメスター制を採用しています。セメスター制とは、学年を春学期と秋学期とに分け、基本的にはそれぞれの学期（セメスター）で単位を修得し、卒業にいたる制度です。

2. 単位制

単位制とは、「教育課程表」に記載されている科目を履修し、科目ごとに定められている単位を修得して、原則として4年間のうちに、卒業に必要な単位を修得する制度です。

(1) 単位の計算方法

単位は、講義科目を基本として1単位あたり45時間の学修を必要とする内容で構成されています。2単位の授業科目は、90時間の学修時間が必要という意味です。この内、1/3は授業時間内の学修に、2/3が授業時間外の予習・復習に当てられています。単位数の多い科目は、予習・復習にそれだけ多くの学修時間をかけなければなりません。

(2) 科目の単位数

科目の単位数は、1単位、2単位、4単位のいずれかであり、「教育課程表」および履修要綱に記載されています。授業は基本的に週1回行われ、その授業形態によって、下記のように単位数が決められています。

- 1) 演習（ゼミ）：通年の30回の授業で4単位。
- 2) 外国語科目：各学期（春、秋）15回の授業で1単位。
- 3) 体育科目・スポーツ実技科目：各学期（春、秋）15回の授業で1単位。
- 4) 情報科目：各学期（春、秋）15回の授業で2単位。
- 5) 講義科目：各学期（春、秋）15回の授業で2単位。
- 6) 実習科目：各学期（春、秋）15回の授業で2単位。

3. 最高履修単位数

年間の最高履修単位数は下表の通りです。

入学年度	学部	経済	社会	流通情報	法	スポーツ健康科学
2010以降		1・2学年 44	3・4学年 49			
2009		1・2学年 44	3・4学年 49			44

- ・ 入学生（スポーツ健康科学部は2010年度以降）の各学期の最高履修単位数は、1・2学年は26単位、3・4学年は28単位です。ただし、1・2学年では年間の最高履修単位数は44単位ですので、片方の学期で26単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は18単位となります。3・4学年では年間の最高履修単位数は49単位ですので、片方の学期で28単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は21単位となります。

- ・スポーツ健康科学部2009年度の入学生の各学期における最高履修単位数は26単位です。ただし、年間の最高履修単位数は44単位ですので、片方の学期で26単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は18単位となります。

4. 3学年進級に必要な単位数

2学年終了時において、1年演習（ゼミ）・2年演習（ゼミ）を含め、40単位に達している場合に3学年への進級を認めます。

- ・「教育課程表」以外の科目で修得した単位は、3学年進級に必要な単位数には含まれません。
- ・2年演習（ゼミ）の単位を修得できなかった場合でも、1年演習（ゼミ）の単位を修得した上で、上記の表で示した単位数を満たしていれば、3学年へ進級できます。ただし、卒業までに2年演習（ゼミ）の単位を修得しなければなりません。なお、2013年度以降の経営学科入学生は除きます。

5. 卒業

(1) 修業年限

4年以上在学し、卒業に必要な所定の単位を修得した学生は、「卒業」となります。卒業に必要な所定の単位が修得できずに4年の在学年数を超えて在籍する学生は、卒業に必要な単位を修得した学年で卒業となりますが、履修登録時に届出をすることにより、卒業に必要な単位を修得した学期で卒業することもできます。なお、卒業に必要な単位を満たした上で4年を超えて在学することはできません。

秋学期入学の学生も、卒業に必要な修業年限・単位は春学期入学の学生と変わりません。

(2) 学位

卒業した学生には、次の区分に従い「卒業証書・学位記」を授与します。

学部	学科	学位
経済学部	経済学科	学士（経済学）
	経営学科	学士（経営学）
社会学部	社会学科	学士（社会学）
	国際観光学科	学士（社会学）
流通情報学部	流通情報学科	学士（流通情報学）
法学部	ビジネス法学科	学士（法学）
	自治行政学科	学士（法学）
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	学士（スポーツ健康科学）

(3) 副専攻の認定

副専攻に関する所定の要件を満たした学生には、申請手続をすることで卒業時に「副専攻」を認定します。対象となる学部・学科および入学年度は、次の通りです。

	学部・学科 入学年度	経済		社会	流通情報	法	スポーツ健康科学
	経済	経営					
認定される副専攻	2010以降	経営学 流通情報学 社会学 法学	経済学 流通情報学 社会学 法学	経済学 経営学 流通情報学 法学	経済学 経営学 社会学 法学	経済学 経営学 流通情報学 社会学	経済学 経営学 流通情報学 法学 社会学
	2009	経営学 流通情報学 社会学 法学 スポーツ健康科学	経済学 流通情報学 社会学 法学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 流通情報学 法学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 社会学 法学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 流通情報学 社会学 スポーツ健康科学	経済学 経営学 流通情報学 法学 社会学 観光学

(4) 卒業発表

卒業発表は、毎年3月および9月に行います。電話・メールなどによる問い合わせには応じられません。

(5) 卒業式

卒業が決定した学生は、卒業式に出席し、学生証と引き換えに「卒業証書・学位記」を受け取ってください。

6. 科目の履修

科目の履修に際しては、教室で授業を受けるだけでなく、シラバスや教室での指導に基づいて自主的に予習・復習をしてください。また、指定された参考図書などについても学習してください。

(1) 科目の区分

各学年の学生が履修すべき科目は、「教育課程表」に記載されています。

必修科目：非常に重要度の高い科目であり、指定された学年に必ず履修しなければならない科目です。指定された学年で修得できなかった場合には、原則として次年度に必ず履修しなければなりません。

選択必修科目：必修科目に次いで重要度の高い科目であり、教育課程表の摘要欄に記されている条件を満たすように科目を選択して、履修しなければならない科目です。

選択科目：必ず履修しなければならない科目ではなく、自由に選択して履修することができる科目です。履修すれば卒業単位に算入されます。

自由科目：成績表には記載されますが、卒業単位には算入されない科目です。また、各学年の最高履修単位数にも算入されません。ただし、スポーツ健康科学部の開講科目を他学部から自由科目として履修することはできません。

(2) 履修登録（事前登録）

科目の履修にあたっては、事前に登録をしなければなりません。この登録が完了した時点で、科目の履修が確定し、各自の時間割が決定します。ただし、一部、登録が必要でない科目もあります。

- 1) 各科目の時間割、担当教員等については、3月に発表します。履修ガイダンスに出席し、各自であらかじめ履修したい科目を決めておき、定められた期間に履修登録を行ってください。
- 2) 指定された期間に履修登録手続を怠った場合や誤った登録をした場合、その年度の履修は無効となります。
- 3) 履修登録は、Ring（RKU Interchange for Groups）で行います。

7. 単位の修得

- 1) 履修登録した科目に対してのみ単位の修得が認められます。未登録科目を履修しても単位は与えられません。ただし、別に定めるところにより、単位の修得を認めることがあります（単位の認定）。
- 2) 登録した科目について、「S・A・B・C」いずれかの成績評価が付与された場合に、当該科目の単位の修得が認められます。「D」（不合格）または「/」（評価不能）が付与された場合には、当該科目の単位の修得は認められません。
- 3) 単位は、各学期（春・秋）ごとに与えられます。演習などの通年授業科目の単位は、春学期および秋学期の成績を総合して付与されます（片方の学期だけ履修しても単位は与えられません）。
- 4) 単位を修得できなかった科目については、再履修してください。ただし、必修以外の科目については、別の科目を選択し、履修しても構いません。
- 5) 一度単位を修得した科目（成績の付与された科目）については、再度履修して単位を取り直すことはできません。

せん。

8. 休講と補講

休講の案内は、Ringで行います。休講となった場合には補講が行われます。補講は、原則として、当該授業のある曜日の5時限または土曜日の午前・午後（龍ヶ崎キャンパス）、6時限または土曜日の午後（新松戸キャンパス）に行われます。補講の詳細については、Ringに掲載します。

9. 出席調査

授業では出席を調査します。出席調査は、パソコン・スマートフォン・携帯電話、出席カードや提出物等により行います。インターネットやWi-Fiに接続できるパソコン・スマートフォン・携帯電話等を準備してください。

10. 災害時の授業

台風や大雪、あるいは地震などにより大きな災害が発生した場合には、電車やバス等の公共交通機関が運行できなくなる事態が予測されます。その場合には、その都度、授業を実施するか否かを発表しますので、各自以下の方法で確認してください。

- 1) Ring <https://ring.rku.ac.jp/>
- 2) 災害時連絡ダイヤル 0297-64-0009

11. 試験

(1) 定期試験

- 1) 定期の試験として、春学期試験と秋学期試験があります。
春学期試験 7月下旬～8月上旬（約2週間）
秋学期試験 1月下旬～2月初旬（約2週間）
- 2) 試験時間割と注意事項は、各試験の1週間前までに発表しますので、各自で確認してください。

(2) 試験に関する注意事項

- 1) 学生証は必ず携帯し、試験監督者が見やすい場所（机の上）に常に置いてください。学生証を提示しない者は受験できません。学生証を忘れた者は、学生生活課（龍ヶ崎）・学務課（新松戸）で、一日有効の仮学生証（有料）を発行してもらい受験してください。
- 2) 遅刻は、試験開始後20分以内に限り認めます。ただし、試験時間は延長しません。
- 3) 試験場からの退場は、試験開始後30分以内は許可しません。
- 4) 試験中は、携帯情報端末等（携帯電話・スマートフォン・通信機能付き電子辞書等）の電源を切り、カバン、バッグなどの中に入れておいてください。（時計・辞書の代わりにはできません）
- 5) 試験場における行動は、すべて試験監督者の指示に従ってください。
- 6) 試験中（定期試験および定期試験以外）に不正行為があった場合には、「試験規則」第8条により処置します。
不正行為とは、次のような行為です。

- ・他の学生の答案を見ること。
- ・他の学生とコミュニケーション（話、目くばせなど）をとること。
- ・カンニング・ペーパーを持ち込み、それらを見ること。
- ・許可されていないコピー、テキストなどを持ち込み、それらを見ること。

- ・通信機器を用いて外部と連絡をとること。
- ・あらかじめ机に必要な事項を書いておき、それらを見ること。
- ・本人以外の者が代理で受験をすること。
- ・他の学生と物品の貸し借りをすること。
- ・その他、適正な成績評価を妨げる行為を行うこと。

(3) 追試験

定期試験に欠席した場合には、「試験規則」第4条、第5条により、追試験を願い出ることができます。追試験の願い出は、欠席した試験が行われた日から起算して7日以内に行わなければなりません。できるだけ早い時期に、必要な公的証明書などを添付して、教務課・学務課に申し出てください。入院等により登校できない場合には、教務課・学務課に電話連絡をして指示を受けてください。

(4) 再試験

再試験は原則として行いません。ただし、卒業該当年次生で、卒業に必要な単位が不足する学生に対して、次の要件をすべて満たす場合に限り、再試験の受験を認めることがあります。

- 1) 卒業に必要な単位数が不足する場合、その不足科目が4科目以内であること。ただし、5年以上在籍した学生の卒業に必要な単位数が不足する場合には、その不足科目が6科目以内であること。
- 2) 卒業年次に履修登録が行われている科目であること。
- 3) 出席不良等の理由で評価不能とされた科目でないこと。
- 4) 本人の申請があること。

(5) レポート提出に関する注意事項

担当教員の指示によりレポートを提出するときは、次の事項に注意してください。

- 1) 指示した期限までに指定場所に提出してください。期限後の提出は無効となります。
- 2) 特別の指示のない限り、A4版の用紙を使用し、とじてください。表紙には、科目名、担当教員名、課題、学生番号および氏名を黒インクで明記してください。

12. 不正行為

試験、出席調査、提出物、その他の授業の実施に係る行為において不正をしてはいけません。試験中に不正行為があった場合は、「試験規則」第8条により処置します。また、出席調査、提出物、その他の授業の実施に係る行為において不正があった場合は、「試験規則」第8条に準じて処置することがあります。

13. 成績評価

- 1) 成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、論文、レポート、口述試験、実技テスト）およびその他担当教員の指定する方法によって評価されます。
- 2) 成績は、100点法によって評価され、60点（2012年度以前入学生は50点）以上を合格とし、所定の単位が与えられます。

適用年度	2013年度以降入学生適用			
合格評価	「S」 (90点以上)	「A」 (80点～89点)	「B」 (70点～79点)	「C」 (60点～69点)
不合格評価	「D」 (59点以下)	「/」 (評価不能)		

適用年度	2012年度以前入学生適用			
合格評価	「S」 (90点以上)	「A」 (80点～89点)	「B」 (60点～79点)	「C」 (50点～59点)
不合格評価	「D」 (49点以下)	「/」 (評価不能)		

ただし、100点法によらず単位が認定される科目もあります。

単位認定「R」

- 3) 成績表は各学期終了後に交付します。ただし、通年科目（演習など）はその学年終了後に交付します。
- 4) 成績表は、各学期終了後に保証人（父母）宛に郵送します。
- 5) 成績に関して質問のある学生は、「成績確認願」を教務課・学務課に提出し、その成績の確認を求められます。

14. GPA

本学では、GPA（グレード・ポイント・アベレージ：履修科目の成績の平均値）を算出する制度を定めています。GPAは、学生の学習意欲を高めるとともに、本学が掲げる教育の質の保証についての具体化を進め、適切な修学指導に資することを目的としています。

1) GPAの算出方法

GPAは、GPA対象授業科目のうち、履修登録した科目についてそれぞれの単位数にグレードポイント（4、3、2、1、0のいずれか）をかけ、その合計ポイントを単位数の総和で割ったものとなります。

2) グレードポイント

成績評価に対するグレードポイントは下表の通りです。

評価	2013年度以降 入学生	2012年度以前 入学生
S	4	3
A	3	3
B	2	2
C	1	1
D	0	0
/	0	0
R	適用除外	適用除外

3) GPA対象授業科目と適用除外科目

適用除外科目を除くすべての授業科目がGPAの対象となります。

以下の科目は適用除外科目です。これらの科目にはグレードポイントが付加されず、修得単位や成績はGPAの計算には使用しません。

- 1 合格か不合格だけを判定する授業科目（R認定）
- 2 編入学または転入学した際の単位認定科目

- 3 本学入学前に修得した単位認定科目
 - 4 他大学との単位互換等で修得した科目
- 4) GPAの活用

GPAは、本学大学院の内部推薦基準、特別奨学生の採用基準、また学修指導や退学勧告の資料として利用されます。

15. 単位の認定

本学では、大学での正規の授業以外に、学生のキャリア開発に関連する諸活動や公的機関による資格・検定試験の合格などに単位を認定する制度を整えています。なお、各検定試験の合格証明書は、申請日から過去3年間のものを有効とします（2013年度入学生から適用）。これらについての履修登録は必要なく、それぞれの認定要件を満たした段階で申請すると、単位が認定されます。認定される単位数は、合計で60単位までです。また、認定された単位数（スポーツトレーニング実技を除く）は、学年別の最高履修単位数には含まれません。

(1) 外国語科目の単位認定

公的な機関による下の表に記した検定試験などで基準点以上の成績を修めた者が、所定の手続きを経て、その合格証（成績表・認定証など）を提出した場合には、外国語科目を履修したものとみなし、その単位を認定します。

認定科目と試験の種類			認定単位数				
			1単位認定	2単位認定	4単位認定	6単位認定	8単位認定
英語	英語検定	日本英語検定協会	準2級	2級	準1級		1級
英語	TOEIC	ETS	400点以上	450点以上	550点以上		700点以上
英語	TOEIC Bridge	ETS	150点以上				
英語	TOEFL	ETS		450点以上	500点以上		550点以上
英語	TOEFL IBT	ETS		45点以上	61点以上		79点以上
中国語	中国語検定	日本中国語検定協会		準4級	4級		3級以上
中国語	漢語水平考試	漢語水平考試委員会		2級以上	4級	5級	6級以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定	ドイツ語学文学振興会		4級	3級		2級以上
フランス語	フランス語技能検定	フランス語教育振興協会		4級	3級		2級以上
スペイン語	スペイン語技能検定	日本スペイン協会		6級	5級以上		3級以上
日本語	日本語能力	日本国際教育支援協会	2級、N2	1級、N1			
日本語	J.TEST実用日本語検定	日本語検定協会	600点以上	700点以上			
日本語	日本留学	日本学生支援機構		260点以上			

- ・ TOEICおよびTOEFLの基準点は変更する場合があります。
- ・ TOEICには「一般公開テスト」（SP）と「団体特別受験」（IP）の2種類があります。
 - * 「一般公開テスト」がいわゆるTOEICで、TOEIC運営委員会とアメリカの公的機関であるETS（Educational Testing Service）により正式な認定証が発行されます。
 - * 「団体特別受験」は各企業・大学が責任をもって実施する試験で、正式な認定証は発行されませんが（ただし、TOEIC運営委員会と実施団体による認定証は発行されます）。
 - * 本学では、「一般公開テスト」「団体特別受験」のどちらのスコアでも単位認定の対象とします。
- ・ 選択中国語上級I・IIの単位認定の場合は、中国語検定の準4級と漢語水平考試の2級・3級を対象としません。

1) 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同

試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。

- 2) 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。
- 3) 同一の外国語で複数の試験・級に合格した場合は、最上位の試験・級のみが単位認定の対象となります。すでに異なる試験・級・得点により単位認定を受けている場合は、新たに認定を受けられる単位数は、認定済みの単位数を減じた単位数です。
認定を受けられる単位数は、最高で8単位です。
- 4) 認定される外国語科目は学部により異なりますので、教務課・学務課にて確認してください。
- 5) 日本語の単位認定を行う場合は、外国語科目の「日本語」各科目のほか、キャリア科目の「(外) ビジネス日本語Ⅰ・Ⅱ」をも認定科目とした上で、当該学生の単位未修得科目の中から、日本語EⅡ、日本語EⅠ、日本語A・B・C・D各Ⅰ・Ⅱ、(外) ビジネス日本語の順序で単位認定を行うものとします。

(2) スポーツトレーニング実技の単位認定（スポーツ健康科学部は除く）

重点部に所属する学生について、課外活動状況により「選択スポーツトレーニング実技」を履修したものとみなし、その単位を認定します。

- 1) 対象学生は、ラグビーフットボール部、剣道部（男・女）、柔道部、サッカー部、陸上競技部（長距離）、アメリカンフットボール部、硬式野球部に所属する学生（マネージャーは除く）です。
- 2) 単位認定を希望する学生は、所定の申請書を作成し、所属する部に提出してください。各部で集約した申請書は、体育指導センターを通して、教務課へ提出されます。
- 3) 単位の認定は、①重点部の活動状況、②部活動への出席状況、③部の練習態度、④部の戦績などをチェックして、体育指導センターが原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- 4) 1学年の春学期に1単位、秋学期に1単位を認定します。1学年で認定されなかった場合には、それ以降の学年で単位認定を申請することができます。

(3) 法学関連科目の単位認定

法学検定およびビジネス実務法務検定試験に合格した学生に、下記の通り単位の認定をします。

認定科目と検定試験の種類		認定単位数	4単位認定	6単位認定	8単位認定
(法学部の2008年度～2012年度入学生)	(法学部の2013年度以降入学生)	法学検定	ベーシック <基礎> コース (旧4級)	スタンダード <中級> コース (旧3級)	アドバンス <上級> コース (旧2級)
スポーツと法Ⅰ・Ⅱ	スポーツと法				
法と文化(アジア)Ⅰ・Ⅱ	法学特殊講義(私法)Ⅰ・Ⅱ	ビジネス 実務法 務検定	東京 商工 会議所	3級	2級
法と文化(欧米)Ⅰ・Ⅱ	法学特殊講義(公法)Ⅰ・Ⅱ				
現代社会と法Ⅰ・Ⅱ	現代社会と法Ⅰ・Ⅱ				
(経済・社会・流通情報学部の学生)					
学部共通科目の法学分野の科目					

- 1) 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から

春学期定期試験期間終了時までには申請があった場合は春学期に行います。

- 2) 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時までには申請してください。
- 3) 法学部の学生については、上の表に示した科目から認定します。
- 4) 経済・社会・流通情報学部の学生については、学部共通科目の法学分野の科目から認定します。スポーツ健康科学部の学生のうち、2009年度以前の入学生については、副専攻科目・法学の各科目から、2010年度以降の入学生については、学部共通科目の法学分野の科目から、それぞれ認定します。
- 5) 同一の検定試験で複数の級に合格した場合には、上位の級のみが単位認定の対象となります。異なる級の合格によりすでに単位認定を受けている場合は、新たに認定を受けられる単位数は、認定済みの単位数を減じた単位数とします。
- 6) 認定を受けられる最高単位数は、総計8単位とします。

(4) 外国留学

本学の「留学に関する規則」に基づき、外国留学をした学生（外国人留学生を除く）に、留学中の学修内容を審査した上で、教育課程表にある科目の単位認定を行います。

- 1) 外国留学を希望する学生は、留学2ヶ月前までに「留学願」を学長に提出し、国際交流センターの承認を受けてください。
- 2) 単位認定を希望する学生は、留学先からの「出席状況および成績に関する証明書」、「修了証」等を添付し、「単位認定願」を学長に提出してください。
- 3) 単位の認定は、国際交流センターの小委員会が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- 4) 留学期間中の「演習」については、担当教員と留学者がインターネット等を利用しながら、相互に緊密な連絡を取り合ってください。担当教員は留学者に対して必要な教育、指導を行い、単位を付与します。演習の単位は認定単位には含めません。
- 5) 外国留学をした学生には、「海外研修」(2単位)の単位認定も行われます。

(5) キャリア科目の単位認定

一部のキャリア科目について単位認定を行いません（スポーツ健康科学部は2010年度以降の入学生）。

- 1) 単位認定を行う科目には、「R K U入門」、「R K U実践」、「海外研修」、「インターンシップ（海外）」、「就職準備講座」、資格関連科目である「資格一般」、「資格基礎」、「資格専門」があります。
- 2) 単位認定の方法、認定単位数などについては、「履修の方法」のキャリア科目の項を参照してください。

16. 他キャンパス受講

原則として週1日に限り、他キャンパスで開講される科目の受講を認めることがあります。他キャンパス受講を希望する学生は、履修登録時に教務課・学務課に申請してください。

17. キャンパス変更（スポーツ健康科学部は除く）

所定の要件を満たした場合に限り、所属するキャンパスの変更を認めることがあります。キャンパス変更を希望する学生は、教務課・学務課に申請してください。なお、2015年度以前入学の留学生は3学年進級時に、所属するキャンパスを選択することができます。

18. 履修の方法【2016年度の入学生】

ここでは授業科目の履修方法について説明します。「教育課程表」を見ながら、該当する箇所をよく読んで履修して下さい。なお「教育課程表」は、入学年度によって異なる場合があります。自分の所属する学科、入学年度に該当する「教育課程表」を参照してください。また、外国人留学生は、外国人留学生を対象とした説明もよく読んで下さい。

経済学科

(1)必修科目

必修科目とは、定められた該当学年において必ず履修しなければならない授業科目です。

1) 演習（ゼミ）

(a) 1年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成し、所属クラスは入学時に指定します。1年演習（ゼミ）の未修得者は3学年に進級できません。

(b) 2年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成します。2年演習（ゼミ）の選択は、1学年の秋学期に行います。各演習（ゼミ）の指導計画を選択申込の前に発表します。それらを熟読の上、自由に選択してください。また相談期間を設けますので、希望するゼミの担当教員に相談することもできます。演習（ゼミ）によっては、希望者が定員を上回ることもあります。その場合には、面接やレポートなどにより、担当教員が履修者を選考することがあります。

(c) 3年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成します。3学年、4学年を通じて、同じ教員の演習（ゼミ）を履修します。演習（ゼミ）の選択は、2学年秋学期に行います。演習（ゼミ）の決定方法は、上記の「2年演習（ゼミ）」の場合と同様です。3年演習（ゼミ）と4年演習（ゼミ）は、原則として同一学年で履修することは出来ません。演習（ゼミ）の単位を修得できなかった場合には、留年となります。

2) 情報科目

1学年において、「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を履修します。「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」は指定されたクラスで履修してください。2学年において、「リベラルアーツ入門」を履修します。履修方法については、別途詳細をお知らせします。

3) 専門コア科目

1学年において、「基礎ミクロ経済学・基礎マクロ経済学」（各2単位）、「現代経済入門Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を履修します。

(2)選択必修科目と選択科目

選択必修科目とは、指定された単位数を複数の授業科目の中から選択して履修する授業科目のことです。これに対して選択科目は、何単位履修しなければならないという規定のない授業科目のことです。

卒業に必要な選択必修科目と選択科目の合計は84単位以上であり、後述の[**選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項**]を確認してください。

(ア)選択必修科目

1) 外国語科目

(a) 1学年と2学年において、入学前に選択した一つの外国語を学修します。指定されたクラスで履修してくだ

さい。

選択できる外国語は、下記の通りです(いずれも各1単位)。

「英語AI・AII、英語BI・BII、英語CI・CII、英語DI・DII、英語EI・EII」

「ドイツ語AI・AII、ドイツ語BI・BII、ドイツ語CI・CII、ドイツ語DI・DII、ドイツ語EI・EII」

「フランス語AI・AII、フランス語BI・BII、フランス語CI・CII、フランス語DI・DII、フランス語EI・EII」

「中国語AI・AII、中国語BI・BII、中国語CI・CII、中国語DI・DII、中国語EI・EII」

「スペイン語AI・AII、スペイン語BI・BII、スペイン語CI・CII、スペイン語DI・DII、スペイン語EI・EII」

「朝鮮(韓国)語AI・AII、朝鮮(韓国)語BI・BII、朝鮮(韓国)語CI・CII、朝鮮(韓国)語DI・DII、朝鮮(韓国)語EI・EII」

「ポルトガル語・ブラジル語AI・AII、ポルトガル語・ブラジル語BI・BII、ポルトガル語・ブラジル語CI・CII、ポルトガル語・ブラジル語DI・DII、ポルトガル語・ブラジル語EI・EII」

各外国語とも、1学年においては、AI・AII、BI・BIIの4科目(各1単位、計4単位)を、2学年においては、CI・CII、DI・DII、EI・EIIの6科目(各1単位、計6単位)を履修します。

(b) 外国人留学生は、1学年において「(外)日本語AI・AII」「(外)日本語BI・BII」(各1単位)の4単位、2学年において「(外)日本語CI・CII」「(外)日本語DI・DII」「(外)日本語EI・EII」(各1単位)の6単位をそれぞれ履修します。

2) キャリア科目

キャリア科目から選択して、6単位以上を履修します。

(a) RKU入門

入学直後に行われる導入教育である「RKU入門」に出席した学生にその単位を認定します。

- ① 単位の認定は、「RKU入門」の中で行われるゼミ、ガイダンスその他各種の講座への出席を前提に、ゼミ担当教員が行います。
- ② 本授業は、すべての学生が履修することを原則とします。
- ③ 1学年の春学期に1単位を認定します。

(b) RKU実践

日常のボランティア活動に対して、所定の要件を満たした場合に単位を認定します。

- ① 対象となるボランティア活動は、大学が認める無報酬の活動です。
- ② 「RKU実践届」を学生生活課、学務課に提出してください。
- ③ ボランティア活動の実働3時間を1ポイントとし、合計15ポイントで1単位認定します。ただし、1日2ポイントまでとし、単位認定は在学中1回限りです。
- ④ ボランティア活動参加者は、参加のつど「RKU実践活動報告書」を別途定める証明部門に提出し、「RKU実践活動証明書」を受け取り保管しておきます。
- ⑤ 単位認定を希望する場合は、「RKU実践単位申請書」に15ポイント分の「RKU実践活動証明書」を添えて学務課・教務課へ提出してください。
- ⑥ 単位認定は、秋学期定期試験終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験終了時まで申請のあった場合は春学期に行います。

(c) 海外研修

「留学に関する規則」に基づき、「海外研修」2単位を認定します。

(d) 資格取得

大学開設の課外講座が対象とする資格・検定試験に合格した者に単位を認定します。

- ①資格・検定試験の種類により、10ポイントを1単位として入学年度別教育課程表の「資格・検定試験の種類」にある単位を認定します。
- ②単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。
- ③単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。
- ④卒業単位として認められる単位は最大20単位です。

(e) 災害ボランティア I・II

東日本大震災などの災害発生に関する災害ボランティア活動の参加者に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定します。

- ①災害ボランティア活動が45時間相当の場合は1単位、90時間相当の場合は2単位を認定します。
- ②単位認定を希望する場合は、事前に学生生活課へ「災害ボランティア活動届」を提出し、活動終了後「災害ボランティア単位認定申請書」に「ボランティア活動日誌」「ボランティア活動証明書」（受け入れ機関・団体の証明）を添えて学務課・教務課へ提出してください。

(f) 就職準備講座

主として3学年を対象に行われているもので、あらかじめ指定した就職支援センター主催の就職支援プログラムへの出席をもって単位を認定します。

- ①単位の認定は、就職支援センター内「就職委員会」が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- ②1学年からの累積出席回数が、2/3を超えた学生が対象となります。
- ③3学年の秋学期に1単位を認定します。

(g) その他講義科目

3) 教養基礎科目

教養基礎科目から選択して、24単位以上を履修します。

4) 専門基礎科目

専門基礎科目から選択して、32単位以上を履修します。

5) 専門発展科目

専門発展科目から選択して、8単位以上を履修します。

(イ) 選択科目

1) 学部共通科目と副専攻

学部共通科目には、所属学部・学科の学問分野（これを主専攻とよびます）とは別の、下記の各学問分野の科目（他の学部・学科の専門基礎・発展科目に当たる科目）が置かれています。主専攻の枠を超えて他の学問分野の科目をも履修し複数の学問分野を学修することにより、現代社会が求めている複眼的な視野と能力を養い、個性あふれる人材を育成することを目的としています。

学部共通科目の学問分野

- ・経営学
- ・流通情報学
- ・社会学

- ・法学
- ・スポーツ健康科学

学部共通科目は、いくつかの学問分野からでも履修することができ、一分野ごとの履修単位数の上限もありません。

一つの学問分野から20単位以上を修得した場合には、卒業時にその分野の「副専攻」を修了したことの認定をします。その場合、14単位まで卒業単位数に算入することができます。なお、スポーツ健康科学の各科目は、龍ヶ崎キャンパスでのみ開講されます。したがって、新松戸キャンパス所属の学生がこの科目を履修するには「他キャンパス受講」制度によらなければなりません。

2) 教養発展科目・外国語科目・体育科目

教養発展科目、外国語関係の科目と体育の実技科目が用意されています。興味のある学生は積極的に履修してください。

3) 教職科目

教職免許取得に必要な科目であって、課程表に記載されているものについては、14単位まで卒業単位数に算入することができます。

[選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項]

外国語科目を除いて、選択必修科目と選択科目を合計して、84単位以上を履修しなければなりません(「教育課程表」摘要欄の後の列を参照してください)。しかし、指定された単位数の合計は70単位となり、その単位数とはなりません(「教育課程表」摘要欄の前の列を参照してください)。その不足単位数である14単位は、選択必修科目と選択科目の中から、各自が自由に選んで履修できる単位数です。

*「教育課程表」の摘要欄と注の部分を読んでください。

経営学科

(1)必修科目

必修科目とは、定められた該当学年において必ず履修しなければならない授業科目です。

1) 演習(ゼミ)と卒業研究

(a) 1年演習(ゼミ)

ゼミは20名程度で編成し、所属するゼミは入学時に指定します。2学年末までに「1年演習(ゼミ)」を修得できない者は、3学年に進級できません。

(b) 2年演習(ゼミ)、3年演習(ゼミ)

ゼミは20名程度で編成します。各自の「2年演習(ゼミ)」の選択は、1学年の秋学期に行います。各演習(ゼミ)の分野を示す指導計画を公表しますので、それらを熟読の上、各自の将来計画に応じて選択してください。また相談期間を設けますので、希望するゼミの担当教員と相談ないし指導をうけることとします。演習(ゼミ)によっては、希望者が定員を上回ることもあります。その場合には、面接やレポートなどの課題の結果により、担当教員がその演習(ゼミ)所属者を選考することがあります。第1希望の演習(ゼミ)に選考されなかった場合には、2回目に選択できる各演習(ゼミ)の分野を示す指導計画を熟考の上、選択してください。

2学年、3学年の2年間を通じて、同じ教員が担当する演習(ゼミ)を履修します。「2年演習(ゼミ)」では、卒業研究への準備として、教員の研究領域にかかわる経営学分野の知識に関して探求の指導を受けます。「3年演習(ゼミ)」では、「2年演習(ゼミ)」の探究を発展させた後、卒業研究のための研究計画書を作成します。

なお、「2年演習(ゼミ)」の未修得者は「3年演習(ゼミ)」を履修できません。

また、「3年演習(ゼミ)」の未修得者は、「4年演習(ゼミ)」および卒業研究を履修できません。

(c) 4年演習(ゼミ)

演習(ゼミ)は20名程度で編成します。「4年演習(ゼミ)」の選択は、3学年秋学期に行います。経営学の総合性または専門性を反映した各ゼミの指導計画を公表します。演習(ゼミ)の選択方法は、上記の「2年演習(ゼミ)」の場合と同様です。

(d) 卒業研究

「3年演習(ゼミ)」で作成した研究計画に基づいて、各自の卒業研究を完成します。その際、原則として、「3年演習(ゼミ)」時の担当教員と「4年演習(ゼミ)」の担当教員の研究指導を受けます。所定の期日までに、卒業研究を論文に仕上げ、提出します。その後、卒業研究の発表会と審査が行われ、原則「3年演習(ゼミ)」担当教員が主査、「4年演習(ゼミ)」担当教員が副査になります。

2) 教養コア科目および情報科目

1学年において、「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)を履修します。「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」は指定されたクラスで履修してください。2学年において、「リベラルアーツ入門」(2単位)を履修します。履修方法については、別途詳細をお知らせします。

3) 専門コア科目

1学年において、「経営入門」(2単位)、「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)を履修します。

(2)選択必修科目と選択科目

選択必修科目とは、指定された単位数を複数の授業科目の中から選択して履修する授業科目のことです。これに対して選択科目は、単位数に関する規定はなく、自由に選択して履修できる授業科目のことです。

卒業に必要な選択必修科目と選択科目の合計は84単位以上であり、後述の**[選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項]**を確認してください。

(ア)選択必修科目

1) 外国語科目

(a) 1学年において、外国語4単位を選択します。入学前に選択し、指定されたクラスで履修してください。外国語とは、下記の通りです(いずれも各1単位)。

「英語AI・AII」「英語BI・BII」

「ドイツ語AI・AII」「ドイツ語BI・BII」

「フランス語AI・AII」「フランス語BI・BII」

「中国語AI・AII」「中国語BI・BII」

「スペイン語AI・AII」「スペイン語BI・BII」

「朝鮮(韓国)語AI・AII」「朝鮮(韓国)語BI・BII」

「ポルトガル語・ブラジル語AI・AII」「ポルトガル語・ブラジル語BI・BII」

2学年においては、1学年で選択した外国語科目(6単位)を履修します。

(b) 外国人留学生は、1学年において「(外)日本語AI・AII」「(外)日本語BI・BII」(各1単位)の4単位、2学年において「(外)日本語CI・CII」「(外)日本語DI・DII」「(外)日本語EI・EII」(各1単位)の6単位をそれぞれ履修します。

2) キャリア科目

キャリア科目から選択して、6単位以上を履修します。

(a) RKU入門

入学直後に行われる導入教育である「RKU入門」に出席した学生にその単位を認定します。

- ① 単位の認定は、「RKU入門」の中で行われるゼミ、ガイダンスその他各種の講座への出席を前提に、ゼミ担当教員が行います。
- ② 本授業は、すべての学生が履修することを原則とします。
- ③ 1学年の春学期に1単位を認定します。

(b) RKU実践

日常のボランティア活動に対して、所定の要件を満たした場合に単位を認定します。

- ① 対象となるボランティア活動は、大学が認める無報酬の活動です。
- ② ボランティア活動の実働3時間を1ポイントとし、合計15ポイントで1単位認定します。ただし、1日2ポイントまでとし、単位認定は在学中1回限りです。
- ③ ボランティア活動参加者は、参加のつど「RKU実践活動報告書」を別途定める証明部門に提出し、「RKU実践活動証明書」を受け取り保管しておきます。
- ④ 単位認定を希望する場合は、「RKU実践単位申請書」に15ポイント分の「RKU実践活動証明書」を添えて学務課・教務課へ提出してください。
- ⑤ 単位認定は、秋学期定期試験終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験終了時まで申請のあった場合は春学期に行います。

(c) 海外研修

「留学に関する規則」に基づき、「海外研修」2単位を認定します。

(d) 資格取得

大学開設の課外講座が対象とする資格・検定試験に合格した者に単位を認定します。

- ① 資格・検定試験の種類により、10ポイントを1単位として入学年度別教育課程表の「資格・検定試験の種類」にある単位を認定します。
- ② 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。
- ③ 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。
- ④ 卒業単位として認められる単位は最大20単位です。

(e) 災害ボランティアⅠ・Ⅱ

東日本大震災などの災害発生に関する災害ボランティア活動の参加者に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定します。(ただし、社会学科は除きます。)

- ① 災害ボランティア活動が45時間相当の場合は1単位、90時間相当の場合は2単位を認定します。
- ② 単位認定を希望する場合は、事前に学生生活課へ「災害ボランティア活動届」を提出し、活動終了後「災害ボランティア単位認定申請書」に「ボランティア活動日誌」「ボランティア活動証明書」(受け入れ機関・団体の証明)を添えて教務課・学務課へ提出してください。

(f) 就職準備講座

主として3学年を対象に行われているもので、あらかじめ指定した就職支援センター主催の就職支援プログラムへの出席をもって単位を認定します。

- ① 単位の認定は、就職支援センター内「就職委員会」が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- ② 1学年からの累積出席回数が、2/3を超えた学生が対象となります。
- ③ 3学年の秋学期に1単位を認定します。

(g) その他講義科目

3) 教養基礎科目

教養基礎科目から選択して、24単位以上を履修します。

4) 専門共通科目

「会計学Ⅰ・Ⅱ」と「流通論Ⅰ・Ⅱ」から一つ以上を選択して、4単位以上を履修します。

5) 専門基礎科目

専門基礎科目から自由を選択して、32単位以上を履修します。

6) 専門発展科目

専門発展科目から自由を選択して、10単位以上を履修します。

(イ) 選択科目

1) 学部共通科目と副専攻

学部共通科目には、所属学部・学科の学問分野（これを主専攻とよびます）とは別の、下記の各学問分野の科目（他の学部・学科の専門基礎・発展科目に当たる科目）が置かれています。主専攻の枠を超えて他の学問分野の科目をも履修することで複数の学問分野を学修することにより、現代社会が求めている複眼的な視野と能力を養い、個性あふれる人材を育成することを目的としています。

学部共通科目の学問分野

- ・ 経済学
- ・ 流通情報学
- ・ 社会学
- ・ 法学
- ・ スポーツ健康科学

学部共通科目は、いくつの学問分野からでも、一分野ごとの履修単位数の上限もなく、自由に履修することができます。

一つの学問分野から20単位以上を修得した場合には、卒業時にその分野の「副専攻」を修了したことの認定をします。

本学科とスポーツ健康科学科が指定した科目を全て修得した学生に「副専攻修了証」と「スポーツマネジメントプログラム修了証」を授与します。詳しくは経営学科の履修モデルの内容を参照してください。

なお、スポーツ健康科学の各科目は、龍ヶ崎キャンパスでのみ開講されます。したがって、新松戸キャンパス所属の学生がこの科目を履修するには「他キャンパス受講」制度によらなければなりません。

2) 教養発展科目・外国語科目・体育科目

教養発展科目、外国語関係の科目と体育の実技科目が用意されています。興味のある学生は積極的に履修してください。

3) 教職科目

教職免許取得に必要な科目であって、課程表に記載されているものについては、8単位まで卒業単位に算入することができます。

[選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項]

外国語科目を除いて、選択必修科目と選択科目を合計して、84単位以上を履修しなければなりません（「教育課程表」摘要欄の後の列を参照してください）。しかし、指定された単位数の合計は76単位となり、その単位数とはなりません（「教育課程表」摘要欄の前の列を参照してください）。その不足単位数である8単位は、選択必修科目と選択科目の中から、各自が自由に選んで履修できる単位数です。

* 「教育課程表」の摘要欄と注の部分を熟読してください。

19. 履修の方法【2013年度～2015年度の入学生】

ここでは授業科目の履修方法について説明します。「教育課程表」を見ながら、該当する箇所をよく読んで履修して下さい。なお「教育課程表」は、入学年度によって異なる場合があります。自分の所属する学科、入学年度に該当する「教育課程表」を参照してください。また、外国人留学生は、外国人留学生を対象とした説明もよく読んで下さい。

経済学科

(1)必修科目

必修科目とは、定められた該当学年において必ず履修しなければならない授業科目です。

1) 演習（ゼミ）

(a) 1年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成し、所属クラスは入学時に指定します。1年演習（ゼミ）の未修得者は3学年に進級できません。

(b) 2年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成します。2年演習（ゼミ）の選択は、1学年の秋学期に行います。各演習（ゼミ）の指導計画を選択申込の前に発表します。それらを熟読の上、自由に選択してください。また相談期間を設けますので、希望するゼミの担当教員に相談することもできます。演習（ゼミ）によっては、希望者が定員を上回ることもあります。その場合には、面接やレポートなどにより、担当教員が履修者を選考することがあります。

(c) 3年演習（ゼミ）

1クラスを20名程度で編成します。3学年、4学年を通じて、同じ教員の演習（ゼミ）を履修します。演習（ゼミ）の選択は、2学年秋学期に行います。演習（ゼミ）の決定方法は、上記の「2年演習（ゼミ）」の場合と同様です。3年演習（ゼミ）と4年演習（ゼミ）は、原則として同一学年で履修することは出来ません。演習（ゼミ）の単位を修得できなかった場合には、留年となります。

2) 情報科目

1学年において、「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を履修します。「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」は指定されたクラスで履修してください。2学年において、「リベラルアーツ入門」を履修します。履修方法については、別途詳細をお知らせします。

3) 専門コア科目

1学年において、「基礎ミクロ経済学・基礎マクロ経済学」（各2単位）、「現代経済入門Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を履修します。

(2)選択必修科目と選択科目

選択必修科目とは、指定された単位数を複数の授業科目の中から選択して履修する授業科目のことです。これに対して選択科目は、何単位履修しなければならないという規定のない授業科目のことです。

卒業に必要な選択必修科目と選択科目の合計は84単位以上であり、後述の[**選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項**]を確認してください。

(ア)選択必修科目

1) 外国語科目

(a) 1学年と2学年において、入学前に選択した一つの外国語を学修します。指定されたクラスで履修してくだ

さい。

選択できる外国語は、下記の通りです(いずれも各1単位)。

「英語AI・AII、英語BI・BII、英語CI・CII、英語DI・DII、英語EI・EII」

「ドイツ語AI・AII、ドイツ語BI・BII、ドイツ語CI・CII、ドイツ語DI・DII、ドイツ語EI・EII」

「フランス語AI・AII、フランス語BI・BII、フランス語CI・CII、フランス語DI・DII、フランス語EI・EII」

「中国語AI・AII、中国語BI・BII、中国語CI・CII、中国語DI・DII、中国語EI・EII」

「スペイン語AI・AII、スペイン語BI・BII、スペイン語CI・CII、スペイン語DI・DII、スペイン語EI・EII」

「朝鮮(韓国)語AI・AII、朝鮮(韓国)語BI・BII、朝鮮(韓国)語CI・CII、朝鮮(韓国)語DI・DII、朝鮮(韓国)語EI・EII」

「ポルトガル語・ブラジル語AI・AII、ポルトガル語・ブラジル語BI・BII、ポルトガル語・ブラジル語CI・CII、ポルトガル語・ブラジル語DI・DII、ポルトガル語・ブラジル語EI・EII」

各外国語とも、1学年においては、AI・AII、BI・BIIの4科目(各1単位、計4単位)を、2学年においては、CI・CII、DI・DII、EI・EIIの6科目(各1単位、計6単位)を履修します。

(b) 外国人留学生は、1学年において「(外)日本語AI・AII」「(外)日本語BI・BII」(各1単位)の4単位、2学年において「(外)日本語CI・CII」「(外)日本語DI・DII」「(外)日本語EI・EII」(各1単位)の6単位をそれぞれ履修します。

2) キャリア科目

キャリア科目から選択して、6単位以上を履修します。

(a) RKU入門

入学直後に行われる導入教育である「RKU入門」に出席した学生にその単位を認定します。

- ① 単位の認定は、「RKU入門」の中で行われるゼミ、ガイダンスその他各種の講座への出席を前提に、ゼミ担当教員が行います。
- ② 本授業は、すべての学生が履修することを原則とします。
- ③ 1学年の春学期に1単位を認定します。

(b) RKU実践

日常のボランティア活動に対して、所定の要件を満たした場合に単位を認定します。

- ① 対象となるボランティア活動は、大学が認める無報酬の活動です。
- ② 「RKU実践届」を学生生活課、学務課に提出してください。
- ③ ボランティア活動の実働3時間を1ポイントとし、合計15ポイントで1単位認定します。ただし、1日2ポイントまでとし、単位認定は在学中1回限りです。
- ④ ボランティア活動参加者は、参加のつど「RKU実践活動報告書」を別途定める証明部門に提出し、「RKU実践活動証明書」を受け取り保管しておきます。
- ⑤ 単位認定を希望する場合は、「RKU実践単位申請書」に15ポイント分の「RKU実践活動証明書」を添えて学務課・教務課へ提出してください。
- ⑥ 単位認定は、秋学期定期試験終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験終了時まで申請のあった場合は春学期に行います。

(c) 海外研修

「留学に関する規則」に基づき、「海外研修」2単位を認定します。

(d) 資格取得

大学開設の課外講座が対象とする資格・検定試験に合格した者に単位を認定します。

- ①資格・検定試験の種類により、10ポイントを1単位として入学年度別教育課程表の「資格・検定試験の種類」にある単位を認定します。
- ②単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。
- ③単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。
- ④卒業単位として認められる単位は最大20単位です。

(e) 災害ボランティアⅠ・Ⅱ

東日本大震災などの災害発生に関する災害ボランティア活動の参加者に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定します。

- ①災害ボランティア活動が45時間相当の場合は1単位、90時間相当の場合は2単位を認定します。
- ②単位認定を希望する場合は、事前に学生生活課へ「災害ボランティア活動届」を提出し、活動終了後「災害ボランティア単位認定申請書」に「ボランティア活動日誌」「ボランティア活動証明書」（受け入れ機関・団体の証明）を添えて学務課・教務課へ提出してください。

(f) 就職準備講座

主として3学年を対象に行われているもので、あらかじめ指定した就職支援センター主催の就職支援プログラムへの出席をもって単位を認定します。

- ①単位の認定は、就職支援センター内「就職委員会」が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- ②1学年からの累積出席回数が、2/3を超えた学生が対象となります。
- ③3学年の秋学期に1単位を認定します。

(g) その他講義科目

3) 教養基礎科目

教養基礎科目から選択して、24単位以上を履修します。

4) 専門基礎科目

専門基礎科目から選択して、40単位以上を履修します。

(イ) 選択科目

- 1) 専門発展科目 専門発展科目から自由に選択して履修します。
- 2) 学部共通科目と副専攻

学部共通科目には、所属学部・学科の学問分野（これを主専攻とよびます）とは別の、下記の各学問分野の科目（他の学部・学科の専門基礎・発展科目に当たる科目）が置かれています。主専攻の枠を超えて他の学問分野の科目をも履修し複数の学問分野を学修することにより、現代社会が求めている複眼的な視野と能力を養い、個性あふれる人材を育成することを目的としています。

学部共通科目の学問分野

- ・経営学
- ・流通情報学
- ・社会学
- ・法学

・スポーツ健康科学

学部共通科目は、いくつの学問分野からでも履修することができ、一分野ごとの履修単位数の上限もありません。

一つの学問分野から20単位以上を修得した場合には、卒業時にその分野の「副専攻」を修了したことの認定をします。その場合、14単位まで卒業単位数に算入することができます。なお、スポーツ健康科学の各科目は、龍ヶ崎キャンパスでのみ開講されます。したがって、新松戸キャンパス所属の学生がこの科目を履修するには「他キャンパス受講」制度によらなければなりません。

3) 教養発展科目・外国語科目・体育科目

教養発展科目、外国語関係の科目と体育の実技科目が用意されています。興味のある学生は積極的に履修してください。

4) 教職科目

教職免許取得に必要な科目であって、課程表に記載されているものについては、14単位まで卒業単位数に算入することができます。

[選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項]

外国語科目を除いて、選択必修科目と選択科目を合計して、84単位以上を履修しなければなりません(「教育課程表」摘要欄の後の列を参照してください)。しかし、指定された単位数の合計は70単位となり、その単位数とはなりません(「教育課程表」摘要欄の前の列を参照してください)。その不足単位数である14単位は、選択必修科目と選択科目の中から、各自が自由に選んで履修できる単位数です。

*「教育課程表」の摘要欄と注の部分を熟読してください。

経営学科

(1)必修科目

必修科目とは、定められた該当学年において必ず履修しなければならない授業科目です。

1) 演習(ゼミ)と卒業研究

(a) 1年演習(ゼミ)

ゼミは20名程度で編成し、所属するゼミは入学時に指定します。2学年末までに「1年演習(ゼミ)」を修得できない者は、3学年に進級できません。

(b) 2年演習(ゼミ)、3年演習(ゼミ)

ゼミは20名程度で編成します。各自の「2年演習(ゼミ)」の選択は、1学年の秋学期に行います。各演習(ゼミ)の分野を示す指導計画を公表しますので、それらを熟読の上、各自の将来計画に応じて選択してください。また相談期間を設けますので、希望するゼミの担当教員と相談ないし指導をうけることとします。演習(ゼミ)によっては、希望者が定員を上回ることもあります。その場合には、面接やレポートなどの課題の結果により、担当教員がその演習(ゼミ)所属者を選考することがあります。第1希望の演習(ゼミ)に選考されなかった場合には、2回目に選択できる各演習(ゼミ)の分野を示す指導計画を熟考の上、選択してください。

2学年、3学年の2年間を通じて、同じ教員が担当する演習(ゼミ)を履修します。「2年演習(ゼミ)」では、卒業研究への準備として、教員の研究領域にかかわる経営学分野の知識に関して探求の指導を受けます。「3年演習(ゼミ)」では、「2年演習(ゼミ)」の探究を発展させた後、卒業研究のための研究計画書を作成します。

なお、「2年演習(ゼミ)」の未修得者は「3年演習(ゼミ)」を履修できません。

また、「3年演習（ゼミ）」の未修得者は、「4年演習（ゼミ）」および卒業研究を履修できません。

(c) 4年演習(ゼミ)

演習（ゼミ）は20名程度で編成します。「4年演習（ゼミ）」の選択は、3学年秋学期に行います。経営学の総合性または専門性を反映した各ゼミの指導計画を公表します。演習（ゼミ）の選択方法は、上記の「2年演習（ゼミ）」の場合と同様です。

(d) 卒業研究

「3年演習（ゼミ）」で作成した研究計画に基づいて、各自の卒業研究を完成します。その際、原則として、「3年演習（ゼミ）」時の担当教員と「4年演習（ゼミ）」の担当教員の研究指導を受けます。所定の期日までに、卒業研究を論文に仕上げ、提出します。その後、卒業研究の発表会と審査が行われ、原則「3年演習（ゼミ）」担当教員が主査、「4年演習（ゼミ）」担当教員が副査になります。

2) 教養コア科目および情報科目

1学年において、「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を履修します。「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」は指定されたクラスで履修してください。2学年において、「リベラルアーツ入門」（2単位）を履修します。履修方法については、別途詳細をお知らせします。

3) 専門コア科目

1学年において、「経営入門」（2単位）、「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を履修します。

(2)選択必修科目と選択科目

選択必修科目とは、指定された単位数を複数の授業科目の中から選択して履修する授業科目のことです。これに対して選択科目は、単位数に関する規定はなく、自由に選択して履修できる授業科目のことです。

卒業に必要な選択必修科目と選択科目の合計は84単位以上であり、後述の**[選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項]**を確認してください。

(ア)選択必修科目

1) 外国語科目

(a) 1学年において、外国語4単位を選択します。入学前に選択し、指定されたクラスで履修してください。外国語とは、下記の通りです(いずれも各1単位)。

「英語AI・AII」「英語BI・BII」

「ドイツ語AI・AII」「ドイツ語BI・BII」

「フランス語AI・AII」「フランス語BI・BII」

「中国語AI・AII」「中国語BI・BII」

「スペイン語AI・AII」「スペイン語BI・BII」

「朝鮮(韓国)語AI・AII」「朝鮮(韓国)語BI・BII」

「ポルトガル語・ブラジル語AI・AII」「ポルトガル語・ブラジル語BI・BII」

2学年においては、1学年で選択した外国語科目(6単位)を履修します。

(b) 外国人留学生は、1学年において「(外)日本語AI・AII」「(外)日本語BI・BII」(各1単位)の4単位、2学年において「(外)日本語CI・CII」「(外)日本語DI・DII」「(外)日本語EI・EII」(各1単位)の6単位をそれぞれ履修します。

2) キャリア科目

キャリア科目から選択して、6単位以上を履修します。

(a) RKU入門

入学直後に行われる導入教育である「RKU入門」に出席した学生にその単位を認定します。

- ① 単位の認定は、「RKU入門」の中で行われるゼミ、ガイダンスその他各種の講座への出席を前提に、ゼミ担当教員が行います。
- ② 本授業は、すべての学生が履修することを原則とします。
- ③ 1学年の春学期に1単位を認定します。

(b) RKU実践

日常のボランティア活動に対して、所定の要件を満たした場合に単位を認定します。

- ① 対象となるボランティア活動は、大学が認める無報酬の活動です。
- ② ボランティア活動の実働3時間を1ポイントとし、合計15ポイントで1単位認定します。ただし、1日2ポイントまでとし、単位認定は在学中1回限りです。
- ③ ボランティア活動参加者は、参加のつど「RKU実践活動報告書」を別途定める証明部門に提出し、「RKU実践活動証明書」を受け取り保管しておきます。
- ④ 単位認定を希望する場合は、「RKU実践単位申請書」に15ポイント分の「RKU実践活動証明書」を添えて学務課・教務課へ提出してください。
- ⑤ 単位認定は、秋学期定期試験終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験終了時まで申請のあった場合は春学期に行います。

(c) 海外研修

「留学に関する規則」に基づき、「海外研修」2単位を認定します。

(d) 資格取得

大学開設の課外講座が対象とする資格・検定試験に合格した者に単位を認定します。

- ① 資格・検定試験の種類により、10ポイントを1単位として入学年度別教育課程表の「資格・検定試験の種類」にある単位を認定します。
- ② 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。
- ③ 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。
- ④ 卒業単位として認められる単位は最大20単位です。

(e) 災害ボランティアⅠ・Ⅱ

東日本大震災などの災害発生に関する災害ボランティア活動の参加者に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定します。(ただし、社会学科は除きます。)

- ① 災害ボランティア活動が45時間相当の場合は1単位、90時間相当の場合は2単位を認定します。
- ② 単位認定を希望する場合は、事前に学生生活課へ「災害ボランティア活動届」を提出し、活動終了後「災害ボランティア単位認定申請書」に「ボランティア活動日誌」「ボランティア活動証明書」(受け入れ機関・団体の証明)を添えて教務課・学務課へ提出してください。

(f) 就職準備講座

主として3学年を対象に行われているもので、あらかじめ指定した就職支援センター主催の就職支援プログラムへの出席をもって単位を認定します。

- ① 単位の認定は、就職支援センター内「就職委員会」が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- ② 1学年からの累積出席回数が、2/3を超えた学生が対象となります。
- ③ 3学年の秋学期に1単位を認定します。

(g) その他講義科目

3) 教養基礎科目

教養基礎科目から選択して、24単位以上を履修します。

4) 専門共通科目

「会計学Ⅰ・Ⅱ」と「流通論Ⅰ・Ⅱ」から一つ以上を選択して、4単位以上を履修します。

5) 専門基礎科目

専門基礎科目から自由を選択して、32単位以上を履修します。

6) 専門発展科目

専門発展科目から自由を選択して、10単位以上を履修します。

(イ) 選択科目

1) 学部共通科目と副専攻

学部共通科目には、所属学部・学科の学問分野（これを主専攻とよびます）とは別の、下記の各学問分野の科目（他の学部・学科の専門基礎・発展科目に当たる科目）が置かれています。主専攻の枠を超えて他の学問分野の科目をも履修することで複数の学問分野を学修することにより、現代社会が求めている複眼的な視野と能力を養い、個性あふれる人材を育成することを目的としています。

学部共通科目の学問分野

- ・ 経済学
- ・ 流通情報学
- ・ 社会学
- ・ 法学
- ・ スポーツ健康科学

学部共通科目は、いくつの学問分野からでも、一分野ごとの履修単位数の上限もなく、自由に履修することができます。

一つの学問分野から20単位以上を修得した場合には、卒業時にその分野の「副専攻」を修了したことの認定をします。

本学科とスポーツ健康科学科が指定した科目を全て修得した学生に「副専攻修了証」と「スポーツマネジメントプログラム修了証」を授与します。詳しくは経営学科の履修モデルの内容を参照してください。

なお、スポーツ健康科学の各科目は、龍ヶ崎キャンパスでのみ開講されます。したがって、新松戸キャンパス所属の学生がこの科目を履修するには「他キャンパス受講」制度によらなければなりません。

2) 教養発展科目・外国語科目・体育科目

教養発展科目、外国語関係の科目と体育の実技科目が用意されています。興味のある学生は積極的に履修してください。

3) 教職科目

教職免許取得に必要な科目であって、課程表に記載されているものについては、8単位まで卒業単位に算入することができます。

[選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項]

外国語科目を除いて、選択必修科目と選択科目を合計して、84単位以上を履修しなければなりません（「教育課程表」摘要欄の後の列を参照してください）。しかし、指定された単位数の合計は76単位となり、その単位数とはなりません（「教育課程表」摘要欄の前の列を参照してください）。その不足単位数である8単位は、選択必修科目と選択科目の中から、各自が自由に選んで履修できる単位数です。

* 「教育課程表」の摘要欄と注の部分を熟読してください。

20. 履修の方法【2008年度～2012年度の入学生】

ここでは授業科目の履修方法について説明します。「教育課程表」を見ながら、該当する箇所をよく読んで履修してください。なお「教育課程表」は、学科、入学年度によって異なる場合があります。自分の所属する学科、入学年度に該当する「教育課程表」を参照してください。また、外国人留学生は、外国人留学生を対象とした説明もよく読んでください。

経済学科

(1)必修科目

必修科目とは、定められた配当学年において必ず履修しなければならない授業科目です。

1) 演習（ゼミ）

(a) 1年ゼミ（1年基礎演習）

1クラスを20名程度で編成し、所属クラスは入学時に指定します。1年ゼミの未修得者は3学年に進級できません。

(b) 2年ゼミ（2年基礎演習）

1クラスを20名程度で編成します。2年ゼミの選択は、1学年の秋学期に行います。各ゼミの指導計画を選択申込の前に発表します。それらを熟読の上、自由に選択してください。また相談期間を設けますので、希望するゼミの担当教員に相談することもできます。ゼミによっては、希望者が定員を上回ることもあります。その場合には、面接やレポートなどにより、担当教員が履修者を選考することがあります。

(c) 3年ゼミ（3年専門演習）、4年ゼミ（4年専門演習）

1クラスを20名程度で編成します。3学年、4学年を通じて、同じ教員のゼミを履修します。ゼミの選択は、2学年の秋学期に行います。ゼミの決定方法は、上記の「2年ゼミ」の場合と同様です。3年ゼミと4年ゼミは、原則として同一学年で履修することはできません。ゼミの単位を修得できなかった場合には、留年となります。

2) 教養コア科目および情報科目

1学年において、「教養諸学入門」（2単位）、「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を履修します。「教養諸学入門」は、入学前に選択し、指定されたクラスで履修してください。

3) 専門コア科目

1学年において、「基礎ミクロ経済学・基礎マクロ経済学（2008・2009年度入学生は経済学入門Ⅰ・Ⅱ）」（各2単位）、「現代経済入門」（2単位）を履修します。

(2)選択必修科目と選択科目

選択必修科目とは、指定された単位数を複数の授業科目の中から選択して履修する授業科目のことです。これに対して選択科目は、何単位履修しなければならないという規定のない授業科目のことです。

卒業に必要な選択必修科目と選択科目の合計は86単位以上であり、後述の[**選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項**]を確認してください。

(ア)選択必修科目

1) 外国語科目

(a) 1学年において、外国語4単位を選択します。入学前に選択し、指定されたクラスで履修してください。外国語とは、下記の通りです(いずれも各1単位)。

「英語A I・A II」「英語B I・B II」

「ドイツ語A I・A II」「ドイツ語B I・B II」

「フランス語A I・A II」「フランス語B I・B II」

「中国語A I・A II」「中国語B I・B II」

「スペイン語A I・A II」「スペイン語B I・B II」

「朝鮮（韓国）語A I・A II」「朝鮮（韓国）語B I・B II」

「ポルトガル語・ブラジル語A I・A II」「ポルトガル語・ブラジル語B I・B II」

2学年においては、1学年で選択した外国語科目（6単位）を履修します。

(b) 外国人留学生は、1学年において「(外)日本語A I・A II」「(外)日本語B I・B II」(各1単位)の4単位、2学年において「(外)日本語C I・C II」「(外)日本語D I・D II」「(外)日本語E I・E II」(各1単位)の6単位をそれぞれ履修します。

2) キャリア科目

キャリア科目から選択して、4単位以上を履修します。

(a) RKU入門

入学直後に行われる導入教育である「RKU入門」に出席した学生にその単位を認定します。

- ① 単位の認定は、「RKU入門」の中で行われるゼミ、ガイダンスその他各種の講座への出席を前提に、ゼミ担当教員が行います。
- ② 本授業は、すべての学生が履修することを原則とします。
- ③ 1学年の春学期に1単位を認定します。

(b) 海外研修

「留学に関する規則」に基づき、「海外研修」2単位を認定します。

(c) 就職準備講座

主として3学年を対象に行われているもので、あらかじめ指定した就職支援センター主催の就職支援プログラムへの出席をもって単位を認定します。

- ① 単位の認定は、就職支援センター内「就職委員会」が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- ② 1学年からの累積出席回数が、2/3を超えた学生が対象となります。
- ③ 3学年の秋学期に1単位を認定します。

(d) 資格関連科目

大学開設の課外講座が対象とする資格・検定試験などに合格した者に単位を認定します。

- ① 資格・検定試験の種類により、入学年度別教育課程表の「資格・検定試験の種類」にある単位を認定します。
- ② 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時まで申請があった場合は春学期に行います。
- ③ 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時まで申請してください。

④卒業単位として認められる単位は最大20単位です。

(e) その他講義科目

3) 教養基礎科目

教養基礎科目から選択して、24単位以上を履修します。

4) 専門基礎科目

専門基礎科目から選択して、36単位以上を履修します。

(イ) 選択科目

1) 専門発展科目

専門発展科目から自由に選択して履修します。

2) 学部共通科目と副専攻

学部共通科目には、所属学部・学科の学問分野（これを主専攻とよびます）とは別の、下記の各学問分野の科目（他の学部・学科の専門基礎・発展科目に当たる科目）が置かれています。主専攻の枠を超えて他の学問分野の科目をも履修し複数の学問分野を学修することにより、現代社会が求めている複眼的な視野と能力を養い、個性あふれる人材を育成することを目的としています。

学部共通科目の学問分野

- ・経営学
- ・流通情報学
- ・社会学
- ・法学
- ・スポーツ健康科学

学部共通科目は、いくつの学問分野からでも履修することができ、一分野ごとの履修単位数の上限もありません。

一つの学問分野から20単位以上を修得した場合には、卒業時にその分野の「副専攻」を修了したことの認定をします。

なお、スポーツ健康科学の各科目は、龍ヶ崎キャンパスでのみ開講されます。したがって、新松戸キャンパス所属の学生がこの科目を履修するには「他キャンパス受講」制度によらなければなりません。

3) 教養発展科目・外国語科目・体育科目

教養発展科目、外国語関係の科目と体育の実技科目が用意されています。興味のある学生は積極的に履修してください。

4) 教職科目

教職免許取得に必要な科目であって、課程表に記載されているものについては、20単位まで卒業単位に算入することができます。

[選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項]

外国語科目を除いて、選択必修科目と選択科目を合計して、86単位以上を履修しなければなりません（「入学年度別教育課程表」摘要欄の後の列を参照してください）。しかし、指定された単位数の合計は64単位となり、その単位数とはなりません（「入学年度別教育課程表」摘要欄の前の列を参照してください）。その不足単位数である22単位は、選択必修科目と選択科目の中から、各自が自由に選んで履修できる単位数です。

* 「入学年度別教育課程表」の摘要欄と注の部分を熟読してください。

経営学科

(1)必修科目

必修科目とは、定められた配当年次において必ず履修しなければならない授業科目です。

1) 演習(ゼミ)

(a) 1年ゼミ(1年基礎演習)

1クラスを20名程度で編成し、所属クラスは入学時に指定します。1年ゼミの未修得者は3学年に進級できません。

(b) 2年ゼミ(2年基礎演習)

1クラスを20名程度で編成します。2年ゼミの選択は、1学年の秋学期に行います。各ゼミの指導計画を選択申込の前に発表します。それらを熟読の上、自由に選択してください。また相談期間を設けますので、希望するゼミの担当教員に相談することもできます。ゼミによっては、希望者が定員を上回ることもあります。その場合には、面接やレポートなどにより、担当教員が履修者を選考することがあります。第1希望のクラスに入れなかった場合には、2回目の選択申込により、定員に満たないクラスの中から、履修するクラスを決定することになります。

(c) 3年ゼミ(3年専門演習)、4年ゼミ(4年専門演習)

1クラスを20名程度で編成します。3学年、4学年を通じて、同じ教員のゼミを履修します。ゼミの選択は、2学年の秋学期に行います。ゼミの決定方法は、上記の「2年ゼミ」の場合と同様です。3年ゼミと4年ゼミは、原則として同一学年で履修することはできません。ゼミの単位を修得できなかった場合には、留年となります。

専門演習は基本的に所属学科の教員のゼミの中から選択します。もし、他学科のゼミに申し込みする場合は、事前面談など担当教員の指示に従ってください。

2) 教養コア科目および情報科目

1学年において、「教養諸学入門」(2単位)、「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)を履修します。「教養諸学入門」は、入学前に選択し、指定されたクラスで履修してください。

3) 専門コア科目

1学年において、「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)、「会計学総論Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)、「流通概論Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)を履修します。

(2)選択必修科目と選択科目

選択必修科目とは、指定された単位数を複数の授業科目の中から選択して履修する授業科目のことです。これに対して選択科目は、単位数に関する規定はなく、自由に選択して履修できる授業科目のことです。

卒業に必要な選択必修科目と選択科目の合計は80単位以上であり、後述の[**選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項**]を確認してください。

(ア)選択必修科目

1) 外国語科目

(a) 1学年において、外国語4単位を選択します。入学前に選択し、指定されたクラスで履修してください。

外国語とは、下記の通りです(いずれも各1単位)。

「英語AⅠ・AⅡ」「英語BⅠ・BⅡ」

「ドイツ語AⅠ・AⅡ」「ドイツ語BⅠ・BⅡ」

「フランス語AⅠ・AⅡ」「フランス語BⅠ・BⅡ」

「中国語A I・A II」「中国語B I・B II」

「スペイン語A I・A II」「スペイン語B I・B II」

「朝鮮(韓国)語A I・A II」「朝鮮(韓国)語B I・B II」

「ポルトガル語・ブラジル語A I・A II」「ポルトガル語・ブラジル語B I・B II」

2学年においては、1学年で選択した外国語科目(6単位)を履修します。

(b) 外国人留学生は、1学年において「(外)日本語A I・A II」「(外)日本語B I・B II」(各1単位)の4単位、2学年において「(外)日本語C I・C II」「(外)日本語D I・D II」「(外)日本語E I・E II」(各1単位)の6単位をそれぞれ履修します。

2) キャリア科目

キャリア科目から選択して、4単位以上を履修します。

(a) RKU入門

入学直後に行われる導入教育である「RKU入門」に出席した学生にその単位を認定します。

① 単位の認定は、「RKU入門」の中で行われるゼミ、ガイダンスその他各種の講座への出席を前提に、ゼミ担当教員が行います。

② 本授業は、すべての学生が履修することを原則とします。

③ 1学年の春学期に1単位を認定します。

(b) 海外研修

「外国留学に関する規則」に基づき、「海外研修」2単位を認定します。

(c) 就職準備講座

主として3学年を対象に行われているもので、あらかじめ指定した就職支援センター主催の就職支援プログラムへの出席をもって単位を認定します。

① 単位の認定は、就職支援センター内「就職委員会」が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。

② 1学年からの累積出席回数が、2/3を超えた学生が対象となります。

③ 3学年の秋学期に1単位を認定します。

(d) 資格関連科目

大学開設の課外講座が対象とする資格・検定試験などに合格した者に単位を認定します。

① 資格・検定試験の種類により、入学年度別教育課程表の「資格・検定試験の種類」にある単位を認定します。

② 単位認定は、秋学期定期試験期間終了時までに申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験期間終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験期間終了時までに申請があった場合は春学期に行います。

③ 単位認定を希望する者は、必要事項を記入した「単位認定申請書」とそれぞれの試験の「合格証など」を教務課・学務課に提出して申請してください。卒業・進級学年の学生で卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず上記の各試験期間終了時までに申請してください。

④ 卒業単位として認められる単位は最大20単位です。

(e) その他講義科目

3) 教養基礎科目

教養基礎科目から選択して、24単位以上を履修します。

4) 専門基礎科目

専門基礎科目から自由に選択して、32単位以上を履修します。

(イ) 選択科目

1) 専門発展科目

専門発展科目から自由に選択して履修します。

2) 学部共通科目と副専攻

学部共通科目には、所属学部・学科の学問分野（これを主専攻とよびます）とは別の、下記の各学問分野の科目（他の学部・学科の専門基礎・発展科目に当たる科目）が置かれています。主専攻の枠を超えて他の学問分野の科目をも履修することで複数の学問分野を学修することにより、現代社会が求めている複眼的な視野と能力を養い、個性あふれる人材を育成することを目的としています。

学部共通科目の学問分野

- ・ 経済学
- ・ 流通情報学
- ・ 社会学
- ・ 法学
- ・ スポーツ健康科学

学部共通科目は、いくつの学問分野からでも、一分野ごとの履修単位数の上限もなく、自由に履修することができます。

一つの学問分野から20単位以上を修得した場合には、卒業時にその分野の「副専攻」を修了したことの認定をします。

なお、スポーツ健康科学の各科目は、龍ヶ崎キャンパスでのみ開講されます。したがって、新松戸キャンパス所属の学生がこの科目を履修するには「他キャンパス受講」制度によらなければなりません。

3) 教養発展科目・外国語科目・体育科目

教養発展科目、外国語関係の科目と体育の実技科目が用意されています。興味のある学生は積極的に履修してください。

4) 教職科目

教職免許取得に必要な科目であって、課程表に記載されているものについては、20単位まで卒業単位数に算入することができます。

[選択必修科目と選択科目の単位数に関する注意事項]

外国語科目を除いて、選択必修科目と選択科目を合計して、80単位以上を履修しなければなりません（「入学年度別教育課程表」摘要欄の後の列を参照してください）。しかし、指定された単位数の合計は60単位となり、その単位数とはなりません（「入学年度別教育課程表」摘要欄の前の列を参照してください）。その不足単位数である20単位は、選択必修科目と選択科目の中から、各自が自由に選んで履修できる単位数です。

* 「入学年度別教育課程表」の摘要欄と注の部分を熟読してください。

21. 卒業に必要な総単位数

卒業するのに必要な必修科目、選択必修科目、選択科目の合計単位数は、以下の通りです。

2016年度の入学生

経済学科			経営学科				
授業科目		修得すべき単位数	授業科目		修得すべき単位数		
必修科目	演習	16	必修科目	演習	16		
	教養コア科目・情報科目	6		専門コア科目・卒業科目	8		
	専門コア科目	8		教養コア科目・情報科目	6		
		30			30		
選択必修	外国語	10	選択必修	外国語	10		
	キャリア科目	6		キャリア科目	6		
	教養基礎科目	24		教養基礎科目	24		
	専門基礎科目	32		専門共通科目	4		
	専門発展科目	8		専門基礎科目	32		
		84			84		
選択科目	学部 共通 科目	経営学 流通情報学 社会学 法学 スポーツ健康科学	選択科目	学部 共通 科目	経済学 流通情報学 社会学 法学 スポーツ健康科学		
	教養 発展 科目	教養発展科目 外国語 体育		教養 発展 科目	教養発展科目 外国語 体育		
	教職科目			教職科目			
				84			84
	合計			124	合計		124

2013年度～2015年度の入学生

経済学科			経営学科		
授業科目		修得すべき単位数	授業科目		修得すべき単位数
必修科目	演習	16	必修科目	演習	16
	教養コア科目・情報科目	6		専門コア科目・卒業科目	8
	専門コア科目	8		教養コア科目・情報科目	6
		30			30
選択必修	外国語	10	選択必修	外国語	10
	キャリア科目	6		キャリア科目	6
	教養基礎科目	24		教養基礎科目	24
		40			40
選択科目	専門発展科目		選択科目	専門共通科目	4
	学部 共通 科目	経営学 流通情報学 社会学 法学 スポーツ健康科学		専門基礎科目	32
	教養 発展 科目	教養発展科目 外国語 体育		専門発展科目	10
	教職科目				
				84	
合計		124	合計		124

2008年度～2012年度の入学生

経済学科			経営学科		
授業科目		修得すべき単位数	授業科目		修得すべき単位数
必修科目	演習	16	必修科目	演習	16
	教養コア科目・情報科目	6		教養コア科目・情報科目	6
	専門コア科目	6		専門コア科目	12
		28			34
選択必修	外国語	10	選択必修	外国語	10
	キャリア科目	4		キャリア科目	4
	教養基礎科目	24		教養基礎科目	24
	専門基礎科目	36		専門基礎科目	32
選択科目	専門発展科目	86	選択科目	専門発展科目	80
	学部 経営学			学部 経済学	
	共通 流通情報学			共通 流通情報学	
	科目 社会学			科目 社会学	
	科目 法学			科目 法学	
	科目 スポーツ健康科学			科目 スポーツ健康科学	
	教養 教養発展科目			教養 教養発展科目	
発展 外国語	発展 外国語				
科目 体育	科目 体育				
教職科目		教職科目			
合計		124	合計		124

22. 資格の取得について

(1) 教員免許

中学校や高等学校などの教員資格を取得するための案内は、別冊「教職課程履修の手引き」を参照すること。

(2) 社会福祉主事

厚生労働大臣の指定する科目を修めて卒業した者に与えられる任用資格であり、経済学部では以下の科目から3科目以上を履修し卒業した者に与えられます。

◆2009年度以降の入学者

「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」、「社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ」、「公的扶助論」、「老人福祉論」、「障害者福祉論」、「地域福祉論Ⅰ・Ⅱ」、「介護福祉論」、「福祉行財政と福祉計画論」、「法学Ⅰ・Ⅱ」、「心理学Ⅰ・Ⅱ」、「社会学Ⅰ・Ⅱ」

◆2008年度以前の入学者

「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」、「社会福祉法概論Ⅰ・Ⅱ」、「社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ」、「公的扶助論Ⅰ・Ⅱ」、「児童福祉論Ⅰ・Ⅱ」、「老人福祉論Ⅰ・Ⅱ」、「地域福祉論Ⅰ・Ⅱ」、「法学Ⅰ・Ⅱ」、「障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ」

*上記科目から3科目以上履修し卒業すれば任用資格を取得できますが、実務上は、上記科目から6科目以上履修し卒業することが望まれます。

(3) 公益社団法人 日本体育協会「公認スポーツ指導者」について

日本体育協会は、国民のスポーツ振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上をはかり、指導活動の促進と指導体制を確立、総合型地域スポーツクラブでのスタッフの育成を図るため、「(財)日本体育協会公認スポーツ指導者制度」を制定しています。

将来、スポーツ指導者、総合型地域スポーツクラブでのスタッフ等を目指す学生は、日本体育協会資格一覧の資格を取得することが望まれます。

「共通科目Ⅰ・Ⅱ」の修了証は下記の表に示す科目の単位を取得し、申請を行ったものが取得できます。また、「共通科目Ⅰ・Ⅱ」の修了証の申請と同時に、「スポーツリーダー」の資格取得が同時にできます。

2010年度以降入学生

NO.	科目名	単位数
1	スポーツと文化	2
2	コーチング論	2
3	スポーツと法	2
4	トレーニング論	2
5	発育発達老化の理論・実習	2
6	スポーツ栄養学Ⅰ	2
7	スポーツ社会学	2
80	スポーツ外傷・障害と予防	2
9	スポーツ心理学	2
10	スポーツマネジメント論	2

2009年度以前入学生

NO.	科目名	単位数
1	スポーツ文化論	2
2	コーチ学	2
3	スポーツと法	2
4	スポーツトレーニング論	2
5	発育・発達論	2
6	スポーツと栄養Ⅰ	2
7	スポーツ・ジェンダー論(スポーツと女性)	2
8	スポーツ外傷・障害と予防	2
9	スポーツ心理学	2
10	スポーツマネジメント論	2

これらの申請は、卒業年次のみにしか受け付けることができません。卒業後の申請は、いかなる理由であれ認められませんので、注意してください。申請には別途申請料を徴収します。

日本体育協会が認定する様々な資格を取得するためには、日本体育協会が開催する講習会等に参加し、各専門科目を取得する必要があります。

資格の詳細は、日本体育協会のホームページで確認してください。

<http://www.japan-sports.or.jp/>

日本体育協会資格一覧

スポーツ指導基礎資格

(h=時間)

資格	内容	要件
スポーツリーダー	・ 地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。	共通I

競技別指導者資格

資格	内容	要件
指導員	・ 地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子どもたちや初心者を対象に、競技別の専門知識を活かし、個々人の年齢や性別などの対象に合わせた指導にあたる。	共通I 専門:40h以上
上級指導員	・ 地域スポーツクラブ等において、年齢、競技レベルに応じた指導にあたる。 ・ 事業計画の立案などクラブ内指導者の中心的な役割を担う。	共通I+II 専門:20h以上
コーチ	・ 地域において、競技者育成のための指導にあたる。 ・ 広域スポーツセンターや各競技別のトレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたる。	共通I+II+III 専門:60h以上
上級コーチ	・ ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代で選抜された競技者の育成強化にあたる。	共通I+II+III+IV 専門:40h以上
教師	・ 商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として、質の高い実技指導を行う。	共通I+II+III 専門:80h以上
上級教師	・ 商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として質の高い実技指導を行う。 ・ 会員（顧客）が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。	共通I+II+III+IV 専門:60h以上

フィットネス系資格

資格	内容	要件
ジュニアスポーツ指導員	・ 地域スポーツクラブ等において、幼・少年期の子どもたちに遊びを通じた身体づくり、動きづくりの指導を行う。	共通I 専門:40h
スポーツプログラマー	・ 主として青年期以降のすべての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う。	共通I+II 専門:63h

メディカル・コンディショニング系資格

資格	内容	要件
アスレティックトレーナー	・ スポーツドクター及びコーチとの緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・障害の救急処置、アスレティックリハビリテーション及びトレーニング、コンディショニング等にあたる。	共通I+II+III 専門:600h
スポーツ栄養士	・ スポーツ活動現場において、競技者の栄養・食事に関する専門的なサポートにあたる。 ・ 競技者の栄養・食事に関する自己管理能力を高める栄養教育を行う。	共通I+II+III 専門:116.5h

マネジメント資格

資格	内容	要件
アシスタントマネジャー	・ 総合型の地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ員が充実したクラブライフを送ることができるよう、クラブマネジャーを補佐し、クラブマネジメントのための諸活動をサポートする。	共通I 専門:35h
クラブマネジャー	・ 総合型の地域スポーツクラブなどにおいて、クラブの経営資源を有効に活用し、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう健全なマネジメントを行う。	共通I 専門:167.5h

23. 履修計画と履修モデル【2013年度～2016年度の入学生】

経済学科

経済学部経済学科での4年間の学修を効果的に進めるためには、自分の問題意識や将来の進路に関連づけて、履修の計画を立てることが重要です。

そこで、経済学科では、皆さんの履修の計画の参考となるように、4つの履修モデルを設定しています。4つのモデルは緩やかな誘導であり、どのモデルを選ぼうと、原則的にすべての科目を選択履修することができますし、いずれの履修モデルとも異なる独自の科目履修をしていくことも可能です。しかし、4つの履修モデルから1つを選び、その内容にそって、学年ごとに履修科目を決めることにより、学修をより深化させることが出来ます。

まず1学年では、どの履修モデルにおいても重要となる経済学の基礎的な科目が設置されています。必修科目として「基礎ミクロ経済学・基礎マクロ経済学」と「現代経済入門Ⅰ・Ⅱ」があり、これらの科目は全員が必ず履修しなければなりません。このほか1学年から選択できる選択必修科目として、「統計学概論Ⅰ・Ⅱ」「経済学史Ⅰ・Ⅱ」「日本経済史Ⅰ・Ⅱ」「西洋経済史Ⅰ・Ⅱ」「資本主義経済論Ⅰ・Ⅱ」「経済地理学Ⅰ・Ⅱ」があります。

2学年からは、各自の興味と進路に応じて4つの履修モデルに分かれます。科目を選択する際、まず各モデルに配当された専門基礎科目を履修するとよいでしょう。専門基礎科目は履修モデルの中核となる科目で、卒業のためには、4年間で40単位（以上）取得する必要があります。次に、専門分野についての理解を深めるために、関連する専門発展科目および学部共通科目を選択していきます。より幅広い知識を得るために、選択したモデル以外の科目を履修することも可能です。

それぞれのモデルには、モデルに沿った体系的な理解を積み重ねるうえでもっとも重要で中核的な内容を扱う科目である「モデル・コア科目」が配置されています。ほとんどの専門基礎科目といくつかの学部共通科目が、それぞれのモデルの特性を考慮して、いずれかのモデルの「モデル・コア科目」に配当されています。まず「モデル・コア科目」を履修して基礎的な理解を深め、次に関連する専門発展科目などを履修するとよいでしょう。

「産業と労働」モデル

現代の経済社会では、産業の担い手である企業だけでなく、私たち自身も消費者や労働者として活動し、私たち自身が「経済」と密接に繋がっています。それゆえ、複雑な現代社会に的確に対応するためには、この「経済」というシステムを理解することが非常に重要です。「産業と労働」モデルでは、企業、消費者、そして労働者の行動と経済の動きを論理的に理解し、急激に変化する経済社会における問題や政策課題を多様な視点から分析できる人材を育成します。

「金融と情報」モデル

IT化の進展によって世界中の情報が瞬時に手に入る現在、必要な情報を的確に分析し、迅速に行動することが求められています。とくにお金を扱う金融の分野では、物価、金利などマクロ経済全体の動向や銀行・企業の経営情報を収集し、家計のライフデザインや資産運用、企業の経営・財務戦略などに役立つよう、様々な視点から情報を分析する能力が必要となります。「金融と情報」モデルでは、複雑な金融のしくみを理解し、情報の活用法について学び、情報化社会で活躍できる人材を育成します。

「公共と福祉」モデル

公共部門（政府）の役割は時代に伴って変化し、その活動の範囲が確実に拡大しています。近代社会において、先進国を中心に福祉国家が形成されてきましたが、その一方で、社会保障などの政府支出の増加は巨額の財政赤字をもたらし、日本においても、少子高齢化が進むなかで、難しい対応を迫られています。「公共と福祉」モデルでは、市場経済における政府の役割と福祉の重要性について十分な知識と理解をもち、経済社会に貢献できる人材を育成します。

「地域と世界」モデル

経済のグローバル化が進む中で、私たちの暮らす地域と世界はより密接な関連性を持つようになっていきました。地域にある企業でも、海外への進出をにらみながら、世界中の企業・消費者と取引していますし、他方では、海外の企業が私たちの暮らす地域に立地展開する動きも見られ、世界経済の動向が地域経済の動向とリンクする時代を迎えています。「地域と国際」モデルでは、ローカルな地域経済と、グローバルな国際経済をバランスよく学び、経済問題についての多面的な理解力の向上を目指し、地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成します。

※ 卒業時に副専攻として他学科の学位の認定を受けたい場合は、履修課程表の「選択科目」の「学部共通科目」から、該当する学科（学位）の提供する科目から20単位以上を修得する必要があります。履修モデル表のそれぞれのモデルコースに記載されている「学部共通科目」を受講するだけでは、副専攻の認定を受ける単位数に達しない場合もありますので、注意してください。

履修モデル

履修学年	科目種類		科目名			
1 学 年 以 降	必修		基礎ミクロ経済学 基礎マクロ経済学 現代経済入門Ⅰ・Ⅱ 1年演習（ゼミ） 情報基礎Ⅰ・Ⅱ			
	モデル・コア科目	専門基礎	統計学概論Ⅰ・Ⅱ 経済学Ⅰ・Ⅱ 日本経済史Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ 資本主義経済論Ⅰ・Ⅱ 環境経済論Ⅰ・Ⅱ			
			外国語 キャリア科目			
履修モデル		産業と労働	金融と情報	公共と福祉	地域と世界	
2 学 年 以 降	必修		2年演習（ゼミ） リベラルアーツ入門			
	モデル・コア科目	専門基礎	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 日本経済論Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ 計量経済学Ⅰ・Ⅱ			
			産業組織論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ 経済政策論Ⅰ・Ⅱ 食料・農業経済学Ⅰ・Ⅱ	金融論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ 経済政策論Ⅰ・Ⅱ	財政学Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 経済政策論Ⅰ・Ⅱ 地方財政論Ⅰ・Ⅱ	地域経済論Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ 食料・農業経済学Ⅰ・Ⅱ 地方財政論Ⅰ・Ⅱ
	専門基礎		国際経済論Ⅰ・Ⅱ 地域経済論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ	産業組織論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ	地域経済論Ⅰ・Ⅱ 産業組織論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ	産業組織論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 経済政策論Ⅰ・Ⅱ
	専門発展		経済データ演習 会計学Ⅰ・Ⅱ グローバルビジネス英語ABCD			
		経営データ演習	経営データ演習 財務会計論Ⅰ・Ⅱ			

3 学 年 以 降	必修		3年演習（ゼミ） 4年演習（ゼミ）			
	モデル・ コア科目	専門発展	企業論Ⅰ・Ⅱ 消費者行動論Ⅰ・Ⅱ	リスクマネジメントⅠ・Ⅱ 国際金融論Ⅰ・Ⅱ 証券市場論		国際金融論Ⅰ・Ⅱ
		学部共通	経営学総論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ	情報学概論Ⅰ・Ⅱ 経営財務論Ⅰ・Ⅱ	社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 公的扶助論	流通論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ
	専門発展		ビジネスプレゼンテーションⅠ・Ⅱ			
		広告論Ⅰ・Ⅱ	金融取引法 ベンチャーファイナンス	行政法Ⅰ・Ⅱ 租税法Ⅰ・Ⅱ	国際関係論Ⅰ・Ⅱ ベンチャーファイナンス	
キャリア科目		RKU入門 キャリアデザイン キャリアマネジメント キャリアカウンセリング キャリア基礎（数理） キャリア基礎（言語） キャリア発展（数理） キャリア発展（言語） 職業選択論 就職準備講座 インターンシップ 資格取得 各実践講座 日本通運寄付講座Ⅰ・Ⅱ 全国通運連盟寄付講座 野村証券寄付講座				
将来の職種（職種・業種）		NPO、コンサルタント、 研究機関など各種団体	金融機関・情報関連企業	医療・福祉サービス、 保険会社、共済等	商社やインフラ関連など、 流通業・運輸業等	
民間企業 国家・地方公務員						

経営学科

(1) 将来目標の計画と能動的学修の実践

日本の人口は2010年の1億2806万人から人口減に転じ、30年以降は、毎年100万人ずつ人口減になると推測されています。2060年には8674万人に減少することになります。主として年金に頼る65歳以上の高齢者人口の増加に対して、生産と消費の担い手である15歳から65歳未満の生産年齢人口は、1995年頃から人口減に転じています。おむね毎年75万人の生産年齢人口が失われていくこととなります。産業界は、限られた天然資源だけでなく、今まで経験をしたことがない国内市場の縮小と対峙することとなります。

このような経営環境にあつて、企業活動を維持し発展させるには、これまでにまして、イノベーションや起業に取り組めるマネジメント能力のある人材への期待が大きくなります。そして、中小企業を含めて、中国にとどまらずインド、インドネシアなどの急激に発展しつつあるアジア市場へ進出することが避けられないため、グローバル人材の時代を迎えつつあります。企業が求めるグローバル人材には、社会人として求められるリベラルアーツとして、「①異文化への理解力があり多様な価値観を認められること」、「②日本の文化や歴史や現代の問題に関心を持ち、未経験の問題を解決する際に求められる基礎的な思考力やコミュニケーション能力があること」、また、企業活動に直結するマネジメントを学修した経営学科卒業生として自らキャリアデザインを試みながら、「③与えられた職務に粘り強く取り組めること」が求められています。

学士（経営学）修得までの能動的学修プロセス			
1年	2年	3年	4年
学生と教員によるラーニングポートフォリオ活動			
1年演習（ゼミ）	2年演習（ゼミ）	3年演習（ゼミ）	4年演習（ゼミ）
経営入門 経営学総論Ⅰ・Ⅱ	流通論Ⅰ・Ⅱ 会計学Ⅰ・Ⅱ	卒業研究（計画）	卒業研究 （発表会・審査会）
【実習系科目】 簿記論Ⅰ・Ⅱ、ビジネスデータベース演習、ソーシャルメディア演習、経営データ演習、経済データ演習	【経営学科独自キャリア系科目】 起業家育成講座ⅠⅡ、ビジネスゲーム、グローバルビジネス英語、ビジネスプレゼンテーションⅠⅡ		
【経営学科知識系科目】			
①起業・マネジメントモデル、②マーケティング・流通モデル、③会計・ファイナンスモデル			

このような時代の要請に応えるために経営学科は、起業およびマネジメントの実践ができる人材の育成に取り組んでいます。そのために、企業の現場で活躍できるように、最先端のソーシャルメディア情報技術はもちろん、経営戦略と事業創造、最新のネットビジネスと流通戦略、そして、簿記・会計に関する専門科目を多数設けています。さらに、4年間に渡り、1年次では基礎的ゼミ、2年次や3年次の2年間は専門ゼミ、4年次では社会人としても求められる基礎的能力と経営学科卒業生として求められるマネジメント能力の融合を目標とする総合ゼミが開講され、学生と教員の協同による学修実践活動が展開されます。

学修実践活動では、複数の教員の助言を受けながら、個々の学生が将来目標を計画し、それに相応しい自分の履修モデルをデザインし、実践し、評価することになります。また、上級生や下級生を含めた学生相互の学修活動も行われ、マネジメントに求められるリーダーシップやチームワークを経験することになります。

なお、現代社会、特に経済的先進国は、多様な組織により社会が構成されています。生産、教育、福祉など、組織が主体になって財・サービスを創造し、社会に貢献しています。組織には、基本的に営利組織（株式会社など）と非営利組織（官公庁、病院、学校、NPOなど）があります。経営学科では、営利組織の経営に関する科目が多いですが、非営利組織についても配慮しています。

(2) 学修計画と基本履修モデル

マネジメントの基本は、「社会のため力を尽くして物事を営む」「人々のために工夫を凝らしてモノやサービスを創造する」「継続的・計画的・経済的に事業を遂行する」ことであり、マネジメントの研究は、営利組織、非営利組織の経営を人間的側面・技術的側面・経済的側面から研究し、よりよい経営法を創造することを目的としています。

個人別履修モデルデザインのための基本履修モデル			
	1年	2年	3年・4年
① 起業・ マネジ メント	Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ	事業戦略論 組織戦略論 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 管理会計論	経営財務論Ⅰ・Ⅱ 経営情報システム論 ベンチャーファイナンス リスクマネジメントⅠ・Ⅱ ネットワーク経営論
② マーケ ティ ン グ ・ 流 通	Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ	マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 流通論Ⅰ・Ⅱ 事業戦略論 組織戦略論 経営情報論	流通政策論Ⅰ・Ⅱ 消費者行動論Ⅰ・Ⅱ 広告論Ⅰ・Ⅱ 経営情報システム論 国際小売論
③ 会計・ ファイ ナン ス	簿記論Ⅰ・Ⅱ	会计学Ⅰ・Ⅱ 財務会計論ⅠⅡ 上級簿記論 原価計算論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 企業会計法Ⅰ・Ⅱ 経営財務論Ⅰ・Ⅱ	管理会計論Ⅰ・Ⅱ 商法（会社法）Ⅰ・Ⅱ 税法（法人税法） 監査論Ⅰ・Ⅱ 上級財務会計論Ⅰ・Ⅱ ベンチャーファイナンス

経営学科の学生は、学修実践活動をとおして、自分自身の履修モデルを計画することになっています。ここに自分の履修モデル計画の核となる「①起業・マネジメントモデル」、「②マーケティング・流通モデル」、「③会計・ファイナンスモデル」の各基本履修モデルを提示します。

以下の「①起業・マネジメントモデル」および「③会計・ファイナンスモデル」を4年次に専門的に学びたい学生は4年演習（ゼミ）の中で、「起業家育成ゼミ」や「会計専門職ゼミ」を履修できます。

①起業・マネジメントモデル

ソーシャルメディアを中心としてICT（情報通信技術）が日常生活に行き渡る現代はネット社会と呼ばれます。あらゆる業界や業種において、それらを道具として使いこなし、消費者ニーズの多様化にともなう環境変化にもすばやく対応して意思決定を行い、組織を動かし、事業を創造・展開していく必要があります。企業・マネジメント履修モデルでは、そうした経営環境の変化に柔軟に適應できる人材の育成のため、経営学科教員の研究内容が反映された最新の経営理論を提供しています。この履修モデルを中心に、将来目標、興味や関心に応じて個人別履修モデルをデザインした経営学科卒業生は、さまざまな業種で経営プロフェッショナルとして第一歩を踏み出し、やがてネット社会における人材として幅広く活躍できるでしょう。

②マーケティング・流通モデル

どのような企業・組織でも提供する商品・サービスは市場に受け入れられなければ、経営を持続できません。マーケティング・流通履修モデルでは、変化する消費市場に受容される製品・コンセプト・ブランドの形成方法、多様化するライフスタイルを迅速に読み取り、対応していくための生産者と販売業者の関係の構築方法などを学ぶために、経営学科教員の研究内容が反映された最新の経営理論を提供しています。マーケティング・流通履修モデルを中心に、将来目標、興味や関心に応じて個人別履修モデルをデザインした経営学科卒業生は、不確実性がますます高くなっている現代の市場において、売れる仕組みを自ら構築できる人材として幅広く活躍できるでしょう。

③会計・ファイナンスモデル

現代社会では、人々は組織活動を通してビジネス・事業の成功に挑戦します。ビジネス・事業を効率的に推進するには、資金の流れを体系的に把握する能力が不可欠です。会計・ファイナンス履修モデルは、企業に関する資金の流れを数字の面から理解することにより、競争相手との比較を通して、自社の経営の良し悪しを判断し、企業が資金を調達する手法を学ぶために、経営学科教員の研究内容が反映された最新の経営理論を提供しています。会計・ファイナンス履修モデルを中心に、企業経理専門職、公務員などのほか、会計大学院への進学、税理士、国税専門官、公認会計士などの専門職へ将来目標に応じて個人別履修モデルをデザインした経営学科卒業生は財務に精通した人材として幅広く活躍できるでしょう。

(3) 起業家育成プログラム

学士（経営学）に加えて、学修実践活動を通して次に示す指定の科目を修得し、卒業研究において優れたビジネスモデルを研究し発表した学生に「起業家育成プログラム修了証」を授与します。

起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ、ビジネスゲーム、グローバルビジネス英語（2単位以上）、ビジネスプレゼンテーションⅠ・Ⅱ

(4) スポーツマネジメントプログラム

学士（経営学）に加えて、学修実践活動を通して次に示す指定の科目を全て修得した学生に「スポーツ健康科学副専攻修了証」と「スポーツマネジメントプログラム修了証」を授与します。なお、本プログラムに含まれるスポーツ健康科学科が開講し指定した科目は、龍ヶ崎キャンパスに限定して開講されます。また、スポーツ系実習科目は学外において指導が行われ、実習費等が別途必要になります。

スポーツマネジメントプログラムの指定科目

履修学年	経営学科指定科目	スポーツ健康科学科指定科目
2 ～ 4 年次	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学総論Ⅰ・Ⅱ ・マーケティング論Ⅰ ・事業戦略論 ・組織戦略論 ・ビジネスゲーム ・起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツマネジメント論 ・スポーツ心理学 ・コーチング論 ・スポーツ社会学 ・発育・発達老化の理論・実習 ・体力トレーニング論 ・スポーツプロモーション論・実習 ・スポーツボランティア論・実習 ・スポーツと国際関係
	①会計学Ⅰ・Ⅱ ②流通論Ⅰ・Ⅱ <div style="text-align: center;">(1科目修得)</div>	
3 ～ 4 年次	/	①キャンプ実習 ②スキー・スノーボード実習 ③ゴルフ実習 <div style="text-align: center;">(2科目修得)</div>
4 年次	4年演習（スポーツマネジメントに関するゼミ）	/

本修了証は、経営学科の課程表に記載された科目の中で本プログラムの指定科目（20単位）と学部共通科目のスポーツ健康科学科の中で指定された科目（20単位）に、4年演習（スポーツマネジメントに関わるゼミ）を加えた合計44単位を修得し、経営学科の卒業条件を満たした学生に授与されます。なお、44単位のうち、経営学科指定科目の24単位の全単位とスポーツ健康科学科指定科目20単位のうち8単位を経営学科の卒業に必要な単位数に加算できます。したがって、学士（経営学）を取得し、スポーツ健康科学副専攻修了証を取得し、かつ、スポーツマネジメントプログラム修了証を取得するには136単位が必要になります。

本プログラムを修了する場合、履修できる学生は3年生春学期終了までの成績が優秀な学生に限ります。

また、3年次秋学期の履修登録期間中に教務課窓口にて、「スポーツマネジメントプログラム演習申請書」を受け取り、記入の上、提出してください。

24. 履修計画と履修モデル【2012年度以前の入学生】

経済学科

経済学科の履修モデルは、学科の専門科目を中心として、一定の履修の方向性を示すものです。大学での4年間の勉強を順調に進めるためには、各自の問題関心と将来の進路に関連づけて履修計画を立てることが重要です。経済学科では、各自の履修計画の参考となるように、以下に示す四つの履修モデルを設定しています。四つの履修モデルから一つを選び、その内容にそって、学年ごとに履修科目を決めていきます。

履修科目を選択する際、まず各モデルに配当された専門基礎科目を履修するとよいでしょう。専門基礎科目は履修モデルの中核となる科目で、4年間で36単位（以上）取得する必要があります。次に、専門分野についての理解を深めるために、関連する専門発展科目および学部共通科目を選択していきます。より幅広い知識を得るために、選択したモデル以外の科目を履修することも可能です。

1学年においては、必修（コア）科目として「基礎ミクロ経済学・基礎マクロ経済学（2008・2009年度入学生は経済学入門Ⅰ・Ⅱ）」と「現代経済入門」があり、全員が履修しなければなりません。このほか1学年から選択できる選択必修科目として、「統計学概論Ⅰ・Ⅱ」「日本経済史Ⅰ・Ⅱ」などを履修するとよいでしょう。2学年からは、各自の興味と進路に応じて、四つの履修モデルに分かれますが、これらは効果的に学習を進めるための「モデル」であり、選択する科目について何ら制約を課すものではありません。どのモデルを選ぼうと、原則的にすべての科目を選択履修することができます。いずれの履修モデルとも異なる独自の科目履修をしていくことも可能です。

(1) 「流通と産業」モデル

消費者の好みを的確に捉えた商品開発、仕入れ・販売の流通網の構築、生産技術の革新は、企業経営にとって重要な戦略的課題です。産業全体の動向と周囲の環境を分析して、つねに時代の先を読む企業戦略も必要です。このモデルは、さまざまな産業の成り立ちや仕組みを理解し、流通・サービス業およびその他の産業で活躍できる人材を育成することを目的とします。

(2) 「金融と情報」モデル

IT化の進展によって世界中の情報が瞬時に手に入る現在、必要な情報を入手、分析し、迅速に行動することが求められています。とくにお金を扱う金融の分野では、物価、金利などマクロ経済全体の動向や銀行・企業の経営についての的確に情報を入手し、分析する能力が必要となります。このモデルでは、複雑な金融の仕組みを理解し、情報の活用法について学びます。

(3) 「公務と福祉」モデル

年金制度の信頼回復や財政の立て直しは政府が早急に取り組みねばならない課題です。少子高齢化のさらなる進行に伴って政府には福祉サービスのいっそうの充実が求められますが、とくにこの分野では非営利組織（NPO）の役割、活動にも期待がかかります。このモデルでは、市場を補う政府の役割と福祉の重要性について十分な知識と理解をもち、地域社会に貢献できる人材を育成します。

(4) 「日本と世界の経済」モデル

経済のグローバル化に伴い、温暖化など地球規模での環境破壊問題、WTO（世界貿易機関）などによる貿易自由化交渉、国境を超えた企業間の合併・買収など、国際経済問題がクローズアップされています。また、バブル経済崩壊後のわが国では、長期にわたってデフレ不況が続き、政府や中央銀行の経済政策についての議論が活発に戦わされました。このモデルでは、こうした日本と世界を取り巻くさまざまな経済問題について学びます。

経済学科のモデル別・学年別履修科目例

1 学年				
必修科目	基礎ミクロ経済学 基礎マクロ経済学（経済学入門Ⅰ・Ⅱ） 現代経済入門			
専門基礎科目	統計学概論Ⅰ・Ⅱ 日本経済史Ⅰ・Ⅱ			
2 学年	流通と産業モデル	金融と情報モデル	公務と福祉モデル	日本と世界の経済モデル
専門基礎科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	経済学史Ⅰ・Ⅱ	資本主義経済論Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ
専門発展科目	環境経済論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ 時事英語Ⅰ・Ⅱ 経済データ解析 会計学総論Ⅰ・Ⅱ 民法（財産法）Ⅰ・Ⅱ			
学部共通科目	流通概論Ⅰ・Ⅱ ロジスティックス概論Ⅰ・Ⅱ	情報学概論Ⅰ・Ⅱ	法学Ⅰ・Ⅱ 憲法Ⅰ・Ⅱ	政治学Ⅰ・Ⅱ 社会学概論
3・4 学年				
専門基礎科目	労働経済論Ⅰ・Ⅱ	金融論Ⅰ・Ⅱ	財政学Ⅰ・Ⅱ	日本経済論Ⅰ・Ⅱ 国際経済論Ⅰ・Ⅱ
	産業組織論Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ	産業組織論Ⅰ・Ⅱ	社会保障論Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ	産業組織論Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ
専門発展科目	計量経済学Ⅰ・Ⅱ 経済学特殊講義			
	産業立地論Ⅰ・Ⅱ 食料・農業経済学Ⅰ・Ⅱ 消費者行動論Ⅰ・Ⅱ 企業論Ⅰ・Ⅱ 広告論Ⅰ・Ⅱ	国際金融論Ⅰ・Ⅱ 経済政策論Ⅰ・Ⅱ 情報経済論Ⅰ・Ⅱ 証券市場論 リスク管理論Ⅰ・Ⅱ ベンチャーキャピタル論 金融取引法 財務会計論Ⅰ・Ⅱ	経済政策論Ⅰ・Ⅱ 地方財政論Ⅰ・Ⅱ 地域経済論Ⅰ・Ⅱ 産業立地論Ⅰ・Ⅱ 人口論Ⅰ・Ⅱ 行政法Ⅰ・Ⅱ 観光地理	経済政策論Ⅰ・Ⅱ 食料・農業経済学Ⅰ・Ⅱ 人口論Ⅰ・Ⅱ 国際金融論Ⅰ・Ⅱ 国際関係論Ⅰ・Ⅱ
学部共通科目	マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 流通政策論Ⅰ・Ⅱ 流通史Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ	経営財務論Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ 商法（会社法）Ⅰ・Ⅱ 経営情報システム論	社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 地域福祉論Ⅰ・Ⅱ	経済社会学 国際法Ⅰ・Ⅱ
キャリア科目	キャリアデザイン 資格関連科目		就職準備講座 インターンシップ	
	日本通運寄付講座Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス実践講座Ⅰ・Ⅱ	野村証券寄付講座 情報システム実践講座		
将来の進路／ 関連資格	流通・サービス業を中心とする民間企業	金融機関や情報関連企業	国家・地方公務員、 社会福祉法人、NPO など 各種団体	国家・地方公務員、 民間企業

経営学科

(1) 個人別学習計画と将来目標の立案

経営学科の教育方針：『事業と顧客を創造する経営プロフェッショナルを育成する』

経営学を学ぶ諸君が、今日ますます需要が高まっている経営プロフェッショナルとして企業の現場で活躍できるようになることを、経営学科の教育目標にしています。そのために、最先端の情報技術はもちろん、経営戦略と事業創造、最新のネットビジネスと流通戦略、そして、簿記・会計に関する専門科目を多数設けています。さらに、各専門ゼミでは、教員の研究成果を反映した専門的指導を直接受け、口頭発表やゼミ論執筆などを通して、思考力・コミュニケーション力・発表力を育てます。また、経営各理論と現場の実務を結びつける総合的講座を開講し、即戦力としてだけでなく、自ら発展できる経営プロフェッショナルとして皆さんを社会に送り出します。

経営は、現実問題に立ち向かいながら、未来を切り開くものです。そのために広範囲の知識を必要とします。経営学科の全学生は、入学年次に専門の基本3科目を必ず習得しなければなりません。これを出発点として、卒業後の進路選択を徐々に計画できるように、専門基礎科目と専門発展科目に多数の科目を開講しています。

経営学を学ぶ諸君が4年の在学期間を通して、体系的かつ効果的・効率的に学習計画を作成することを、経営学

科は推奨しています。そのための3つの「学習プロセス」（履修モデル）を定めています。教育課程表に明示されている単位修得条件を満たせば、もちろん学士号を取得できます。しかしながら、出来る限りこれらの履修モデルにそって学習して、未来の経営プロフェッショナルとして社会に貢献できるようになることを期待しています。

(2) 経営実践を中心とした学習プロセスと三つの履修モデル

現代社会、特に経済的先進国は、多様な組織により社会が構成されています。生産、教育、福祉など、組織が主体になって財・サービスを創造し、社会に貢献しています。組織には、基本的に営利組織（株式会社など）と非営利組織（官公庁、病院、学校、NPOなど）があります。経営学科開講科目は、営利組織の経営に関するものが多いですが、非営利組織についても配慮しています。経営の基本は、

- ・社会のため力を尽くして物事を営む
- ・人々のために工夫を凝らしてモノやサービスを創造する
- ・継続的・計画的・経済的に事業を遂行する

ことであり、経営学は、営利組織、非営利組織の経営を人間的側面・技術的側面・経済的側面から研究し、よりよい経営法を創造することを目的としています。

経営実践を中心とした学習プロセス		
1学年	2学年	3・4学年
(基本科目) 経営学総論Ⅰ・Ⅱ 流通概論Ⅰ・Ⅱ 会計学総論Ⅰ・Ⅱ	①「戦略意思決定・情報」モデル	
	②「流通・マーケティング」モデル	
	③「企業会計・財務管理」モデル	
	専門基礎科目群・専門発展科目群	
(専門基礎科目) インターネット演習、データベース演習 経営データ解析、経済データ解析	(キャリア科目) 実践経営学講座 模擬組織経営演習	

経営学科には、1学年に学習する「経営学総論」「流通概論」「会計学総論」を出発点とし、3・4学年に社会への入口として学習する「実践経営学講座」「模擬組織経営演習」に到る基本の学習プロセスがあります。この基本となる学習プロセスのなかで、各自の社会生活設計に応じて専門性を深めるための三つの履修モデル、すなわち「戦略意思決定・情報」モデル、「流通・マーケティング」モデル、「企業会計・財務管理」モデルを設定しています。これら本学経営学科の特長を十分に考慮して、各自の学習計画を作成して欲しいと思います。

① 「戦略意思決定・情報」モデル

IT（情報技術）がもはや当たり前なものとなった現代はネット社会と呼べます。あらゆる業界業種において、それらを道具として使いこなし、消費者ニーズの多様化にともなう環境変化にもすばやく対応して意思決定を行い、組織を動かし、事業を創造・展開していく必要があります。この履修モデルでは、そうした経営環境の変化に柔軟に適應できる人材の育成のため、最新の経営理論を提供しています。このモデルを軸に、興味や関心に応じて広く科目を履修した経営学科卒業生は、さまざまな業種で経営プロフェッショナルとして第一歩を踏み出し、やがてネット社会における経営管理者などとして幅広く活躍できるでしょう。

1学年	2学年	3・4学年
事業創造論Ⅰ・Ⅱ	経営情報論 事業戦略論 組織戦略論 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス概論	経営情報システム論 経営財務論Ⅰ・Ⅱ Eコマース論 ベンチャービジネス論 ベンチャーキャピタル論 リスク管理論Ⅰ・Ⅱ ネットワーク経営論

② 「流通・マーケティング」モデル

どのような企業・組織でも、提供する商品・サービスは市場に受け入れられなければ、経営を持続できません。「流通・マーケティング」モデルでは、具体的流通機構に焦点を当て、変化する消費市場に受容される製品・コンセプト・ブランドの形成方法、多様化するライフスタイルを迅速に読み取り、対応していくための生産者と販売業者の関係の構築方法などを学ぶことを目的としています。この履修モデルは、不確実性がますます高くなっている現代の市場において、売れる仕組みを自ら構築できる人材の育成を目指しています。

1学年	2学年	3・4学年
事業創造論Ⅰ・Ⅱ	マーケティング論Ⅰ・Ⅱ Eコマース論 商業経営論Ⅰ・Ⅱ 流通情報システム論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ	流通政策論Ⅰ・Ⅱ 流通史Ⅰ・Ⅱ 消費者行動論Ⅰ・Ⅱ 広告論Ⅰ・Ⅱ 市場調査論Ⅰ・Ⅱ 国際マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ

③ 「企業会計・財務管理」モデル

現代社会では、人々は組織活動を通してビジネス・事業の成功に挑戦します。ビジネス・事業を効率的に推進するには、お金の流れを体系的に把握する能力が不可欠です。この履修モデルは、企業に関するお金の流れを数字の面から理解することにより、競争相手との比較を通して、自社の経営の良し悪しを判断し、企業が資金を調達したりする場合に役立ちます。進路としては、企業、公務員などのほか、会計大学院への進学、税理士、国税専門官、公認会計士などの専門職への道もあります。

1学年	2学年	3・4学年
簿記論Ⅰ・Ⅱ	財務会計論Ⅰ・Ⅱ 経営財務論Ⅰ・Ⅱ 上級簿記論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 企業会計法Ⅰ・Ⅱ	管理会計論Ⅰ・Ⅱ 商法（会社法）Ⅰ・Ⅱ 上級財務会計論Ⅰ・Ⅱ 監査論Ⅰ・Ⅱ 租税法Ⅰ・Ⅱ

2016年（平成28年）4月発行

経済学部

履修要綱

流通経済大学

RKU

<http://www.rku.ac.jp>